

県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

多肥平塚遺跡

2013. 1

香川県教育委員会

序文

本書は、太田上町志度線道路改築工事に伴い発掘調査を実施した高松市多肥上町の多肥平塚遺跡の報告を納めたものです。

奈良時代の溝状遺構や平安時代から鎌倉時代頃の掘立柱建物跡が見つかりました。奈良時代に埋没した溝の方向は、現在見られる条里型地割の方向と合致せず、この地域の条里型地割の施工時期を考える参考資料となります。また、平安～鎌倉時代の建物は一か所に集中せず、古代の村落景観の一例を示しています。

本報告書が、香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告に至るまでの間、関係機関並びに地元関係者各位には多大なご援助とご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成 25 年 1 月
香川県埋蔵文化財センター
所長 藤好 史郎

例言

- 1 本報告書は、県道太田上町志度線道路改築工事に伴い発掘調査を実施した、香川県高松市多肥上町に所在する多肥平塚遺跡（たひひらづかいせき）の報告を収録した。
- 2 発掘調査は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査期間は、次のとおりである。
平成 19 年度
期間 平成 20 年 2 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日
担当 主任文化財専門員 西岡達哉、文化財専門員 山元素子、調査技術員 木野戸直
平成 20 年度
期間 平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 6 月 30 日
担当 文化財専門員 山元素子、文化財専門員 蔵本晋司、調査技術員 今井千佳子
- 4 調査にあたって、次の関係機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）
香川県高松土木事務所、地元自治会、地元水利組合
- 5 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆は、山下平重、蔵本晋司が担当した。担当部分は、次のとおりである。なお、蔵本担当部分で一部山下が執筆した段落は、（ ）書きで表記した。
蔵本 第 3 章第 2～4 節のうち、遺物の報告以外
山下 蔵本担当以外
- 6 報告書で用いる座標系は国土座標第 IV 系（世界測地系）で、方位の北は国土座標第 IV 系による。また、標高は東京湾平均海面を基準とした。
- 7 遺構は次の略号により表示した。
S H 竪穴建物跡 S B 掘立柱建物跡 SP 柱穴跡 S K 土坑 SD 溝状遺構
S X その他の遺構 S R 自然河川跡
- 8 石器実測図中、網掛けで表現している部分は摩滅痕を、輪郭線周りの実線は潰れを、同じく破線は顕著な研磨あるいは摩滅を、同じく点線はあまり顕著でない研磨あるいは摩滅をそれぞれ表す。剥離面の風化の程度が違う場合、新しい剥離面は黒丸で、古い剥離面は白丸で表す。なお、現代の折損面は黒でつぶしている。石器石材は特に表記がない限りサヌカイトである。
- 9 放射性炭素年代測定と花粉分析は、株式会社古環境研究所に委託して実施した。

- 10 本遺跡出土の鉄器の保存処理は、株式会社文化財サービスに委託して実施した。
- 11 遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値（単位m）である。
- 12 土器観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 2010年版』を参照した。胎土中の砂粒の「粗」は径4mm以上、「中」は0.5mm以上、「細」は0.5mm未満を基準とした。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。
- 13 須恵器の年代観は、佐藤竜馬「香川県十瓶山窯跡群における須恵器編年」『関西大学考古学研究室開設四十周年記念考古学論集』1993に依った（佐藤編年）。
中世土器の年代観は、香川県教育委員会『空港跡地遺跡Ⅳ』2000に依った。

地図は国土地理院地形図を使用しました。

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 調査体制・整理体制	2

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4

第3章 調査の成果

第1節 I区の調査	8
第2節 II区の調査	27
第3節 III区の調査	34
第4節 IV区の調査	45

第4章 自然科学分析

I. 放射性炭素年代測定	59
II. 花粉分析	61

第5章 まとめ	66
---------	----

挿図目次

第1図	遺跡位置図	1	第38図	Ⅱ区SD01断面図	32
第2図	遺跡位置図	5	第39図	Ⅱ区SD02断面図、出土遺物	32
第3図	周辺の遺跡	6	第40図	Ⅱ区SR01平・断面図、出土遺物	33
第4図	調査区割図	7	第41図	Ⅱ区遺構外出土遺物	33
第5図	Ⅰ区調査区（1面）平面図	9	第42図	Ⅲ区平面図	34
第6図	Ⅰ区調査区（2面）平面図	10	第43図	Ⅲ区調査区壁土層断面図	35
第7図	Ⅰ区調査区壁土層断面図	11	第44図	Ⅲ区SB01平・断面図	37
第8図	Ⅰ区調査区（北拡張部）壁土層断面図	13	第45図	Ⅲ区SB01出土遺物	38
第9図	Ⅰ区SB01、SD03・04・05平・断面図	15	第46図	Ⅲ区SB02平・断面図、出土遺物	39
第10図	Ⅰ区SB01出土遺物	16	第47図	Ⅲ区SB03平・断面図、出土遺物	40
第11図	Ⅰ区SD03出土遺物	16	第48図	Ⅲ区SK01平・断面図	41
第12図	Ⅰ区SD04出土遺物	16	第49図	Ⅲ区SK02平・断面図	41
第13図	Ⅰ区SD10断面図・出土遺物	16	第50図	Ⅲ区SK03平・断面図、出土遺物	41
第14図	Ⅰ区SD05出土遺物	17	第51図	Ⅲ区SK04平・断面図、出土遺物	41
第15図	Ⅰ区SK02平・断面図	17	第52図	Ⅲ区SK05平・断面図	42
第16図	Ⅰ区SK03平・断面図、出土遺物	17	第53図	Ⅲ区SD01平・断面図	43
第17図	Ⅰ区SK04平・断面図、出土遺物	18	第54図	Ⅲ区ピット出土遺物	44
第18図	Ⅰ区SK05平・断面図、出土遺物	18	第55図	Ⅲ区遺構外出土遺物	44
第19図	Ⅰ区SK06平・断面図、出土遺物	19	第56図	Ⅳ区平面図	46
第20図	Ⅰ区SK07平・断面図	20	第57図	Ⅳ区調査区壁土層断面図	47
第21図	Ⅰ区SK09平・断面図	20	第58図	Ⅳ区SK01平・断面図	49
第22図	Ⅰ区ピット出土遺物	20	第59図	Ⅳ区SK02平・断面図	49
第23図	Ⅰ区SD01平・断面図、出土遺物	21	第60図	Ⅳ区SK03平・断面図、出土遺物	49
第24図	Ⅰ区SD02平・断面図	21	第61図	Ⅳ区SD01平・断面図	50
第25図	Ⅰ区SD06平・断面図、出土遺物	21	第62図	Ⅳ区SD01出土遺物（1）	51
第26図	Ⅰ区SD07平・断面図	22	第63図	Ⅳ区SD01出土遺物（2）	52
第27図	Ⅰ区SD07出土遺物	23	第64図	Ⅳ区SD01出土遺物（3）	53
第28図	Ⅰ区SD08平・断面図、出土遺物	24	第65図	Ⅳ区SD02平・断面図、出土遺物	53
第29図	Ⅰ区SD11平・断面図、出土遺物	25	第66図	Ⅳ区SD03断面図	53
第30図	Ⅰ区SD12平・断面図	25	第67図	Ⅳ区SX01断面図、出土遺物（1）	55
第31図	Ⅰ区SD13平・断面図、出土遺物	25	第68図	Ⅳ区SX01出土遺物（2）	56
第32図	Ⅰ区SD14・15平・断面図	26	第69図	Ⅳ区SX01出土遺物（3）	57
第33図	Ⅰ区遺構外出土遺物	26	第70図	Ⅳ区SX02断面図、出土遺物	57
第34図	Ⅱ区平面図	28	第71図	Ⅳ区SX03平・断面図	58
第35図	Ⅱ区調査区壁土層断面図	29	第72図	多肥平塚遺跡Ⅳ区における花粉ダイアグラム	65
第36図	Ⅱ区SB01平・断面図、出土遺物	31	第73図	遺構変遷図	67
第37図	Ⅱ区SK01平・断面図	32			

表目次

第1表	平成19年度 発掘調査体制一覧表	2	第6表	多肥平塚遺跡Ⅳ区における花粉分析結果	64
第2表	平成20年度 発掘調査体制一覧表	2	第7表	土器 観察表	69
第3表	平成24年度 整理作業体制一覧表	3	第8表	石器・玉 観察表	80
第4表	測定試料及び処理	59	第9表	金属器 観察表	80
第5表	測定結果	59			

図版目次

図版1

Ⅰ区 南半上層全景 東から

図版2

Ⅰ区 北半全景 東から

I 区	南壁断面	II 区	SB01完掘	西から
図版 3		II 区	SK01断面	南から
I 区	南壁断面 (東半)	II 区	SD01断面 a	北から
I 区	東壁断面	II 区	SD02断面	南から
図版 4		II 区	SR02断面 b	南から
I 区	西壁断面	図版 13		
I 区	北拡張部北壁断面	II 区	SR02断面 c	北から
図版 5		III 区	南半全景	東から
I 区	北拡張部西壁断面	図版 14		
I 区	SD03断面	III 区	北半全景	東から
I 区	SD04断面 j	III 区	西壁断面	
I 区	SD05断面	図版 15		
I 区	SK02断面	III 区	北壁断面	
図版 6		III 区	東壁断面 南半	
I 区	SK03断面	III 区	東壁断面 北半	
I 区	SK04断面	図版 16		
I 区	SK05断面	III 区	SB01	東から
I 区	SK06断面	III 区	SB02・03	南から
I 区	SK06断面	III 区	SK01断面	南から
I 区	SK06断面	III 区	SK02断面	北から
I 区	SK06断面	III 区	SK03断面	北東から
I 区	SK06断面	III 区	SK04断面	南から
I 区	SK07断面	III 区	SK05断面	北から
図版 7		III 区	SD01断面 a	南から
I 区	SK08断面	III 区	SD01断面 b	南から
I 区	SK09断面	図版 17		
I 区	SD01断面	IV 区	全景	西から
I 区	SD02断面	IV 区	北壁 (SX01) 断面	
I 区	SD06断面 b	図版 18		
I 区	SD07断面 a	IV 区	北壁 (SD01) 断面	
I 区	SD07断面 b	IV 区	北壁 (SX02) 断面	
I 区	SD07断面 (調査区南壁部分)	IV 区	北壁 (SD02) 断面	
図版 8		図版 19		
I 区	SD07南半 石出土状況	IV 区	SK01断面	南から
I 区	SD07南半完掘状況	IV 区	SK02断面	北から
図版 9		IV 区	SK03断面	南から
I 区	SD07北半完掘状況	IV 区	SD01	南から
I 区	SD08断面	IV 区	SD01断面 a	北から
I 区	SD11断面	図版 20		
I 区	SD12断面	IV 区	SD01断面 b	南から
I 区	SD14断面	IV 区	SD01断面 c	南から
I 区	SD15断面	IV 区	SD02断面	東から
図版 10		IV 区	SX01断面 (調査区南壁)	
II 区	南半全景	IV 区	SX02断面	北から
II 区	北半全景	IV 区	SX03断面	南東から
図版 11		図版 21 ~ 36		
II 区	北壁断面	出土遺物		
II 区	西壁北半断面	図版 37		
図版 12		多肥平塚遺跡の花粉・孢子		
II 区	西壁南半断面			

付図

付図 多肥平塚遺跡 遺構配置図 (1:400)

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

県道太田上町志度線道路改築事業に伴い、香川県教育委員会では平成18年10月に試掘調査を実施した。調査の結果、調査対象地のうち2,990㎡で、柱穴や土坑、古代期の須恵器を含む大溝状遺構などを確認したため、多肥平塚遺跡として文化財保護法に基づく保護措置が必要と判断された。

第2節 調査の経過

発掘調査は、平成19年度と20年度に実施した。平成19年度は、平成20年2月1日から平成20年3月31日まで実施した。当初調査対象面積は、995㎡であったが、調査の結果、当初対象地の北東側78㎡で追加調査が必要となり、最終調査対象面積は、1,073㎡（Ⅰ区）となった。出土遺物は、6箱（28リットル入り）である。平成20年度は、平成20年4月1日～6月30日まで実施した。調査対象面積は1,995㎡（Ⅱ～Ⅳ区）で、出土遺物31箱である。

整理作業は、平成24年4月1日から同5月31日まで実施した。



第1図 遺跡位置図

第3節 調査体制・整理体制

発掘調査及び整理作業の体制は、次のとおりである。

第1表 平成19年度 発掘調査体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
総括	総括
課長 鈴木 健司	所長 渡部 明夫
課長補佐（総括） 武井 壽紀	次長 廣瀬 常雄
総務・生涯学習推進グループ	総務課
副主幹 古田 泉	総務課長 野口 孝一
主任 林 照代	主任 宮田 久美子
文化財グループ	主任 嶋田 和司
課長補佐 藤好 史郎	主任 古市 和子
文化財専門員 森 格也	調査課
文化財専門員 信里 芳紀	調査課長 廣瀬 常雄
	主任文化財専門員 西岡 達哉
	文化財専門員 山元 素子
	嘱託（土木） 高嶋 勝英
	嘱託（調査技術員） 木野戸 直

第2表 平成20年度 発掘調査体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
総括	総括
課長 春山 浩康	所長 大山 眞充
課長補佐（総括） 武井 壽紀	次長 廣瀬 常雄
総務・生涯学習推進グループ	総務課
副主幹 香西 としみ	総務課長 廣瀬 常雄
主任 林 照代	主任 宮田 久美子
文化財グループ	主任 嶋田 和司
主幹（兼）課長補佐 藤好 史郎	主任 古市 和子
主任文化財専門員 森 格也	調査課
文化財専門員 乗松 真也	調査課長 廣瀬 常雄
	文化財専門員 山元 素子
	文化財専門員 蔵本 晋司
	嘱託（土木） 砂川 哲夫
	嘱託（調査技術員） 今井 千佳子

第3表 平成24年度 整理作業体制一覧表

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
総括	総括
課長 炭井 宏秋	所長 藤好 史郎
副課長（総括） 木虎 淳	次長 真鍋 正彦
総務・生涯学習推進グループ	総務課
副主幹 松下 由美子	総務課長 真鍋 正彦
主任主事 白川 弘二	副主幹 林 文夫
文化財グループ	主任 宮武 ふみ代
課長補佐 西岡 達哉	主任 中川 美江
主任文化財専門員 森下 英治	主任 高木 秀哉
文化財専門員 松本 和彦	資料普及課
	資料普及課長 森 格也
	主任文化財専門員 山下 平重

発掘作業に携わった方々は、次のとおりである。

調査補助員 木下美千代 溝渕宜潔

整理作業員 市川孝子 工藤勇太

発掘作業員 糸目八重子 稲垣啓子 大西行一 岡田カネ子 小川浩司 奥田武 金本勝行
 佐野清志 嶋宮千恵 新池谷昭雄 中川恒夫 中村あゆみ 中村芳子 丹羽早苗
 東原輝明 百歩静子 宮地恵美子 本井俊彦 矢木和子 和田悦子

整理作業に携わった方々は、次のとおりである。

大林真沙代 岡崎江伊子 葛西薫 下村幸子 高橋千恵 牧野香織 北濱敦子

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

今回調査を行った多肥平塚遺跡は、南から北へ若干傾斜する平地に立地する。標高は、23.5～24.1mである。遺跡東半（Ⅰ～Ⅲ区）周辺では、条里型地割がみられるが、遺跡西端部（Ⅳ区）周辺では、旧河川跡とみられる地形の乱れがある。

第2節 歴史的環境

平成23年度に隣接する多肥北原遺跡の発掘調査報告書が刊行されており（註）、周辺の遺跡の概要については、本報告では省略する。その後の新たな調査成果をここで紹介する。

太田原高州遺跡では、古墳時代終り頃の竪穴建物跡が発見されていたが、平成23年度発掘調査では、弥生時代中期末～後期初頭の区画墓群、7世紀の溝状遺構、8世紀の掘立柱建物跡などが検出された。特に弥生時代の区画墓群は遺存状況が良く、主体部が発見された。主体部からは水晶製小玉が出土した。

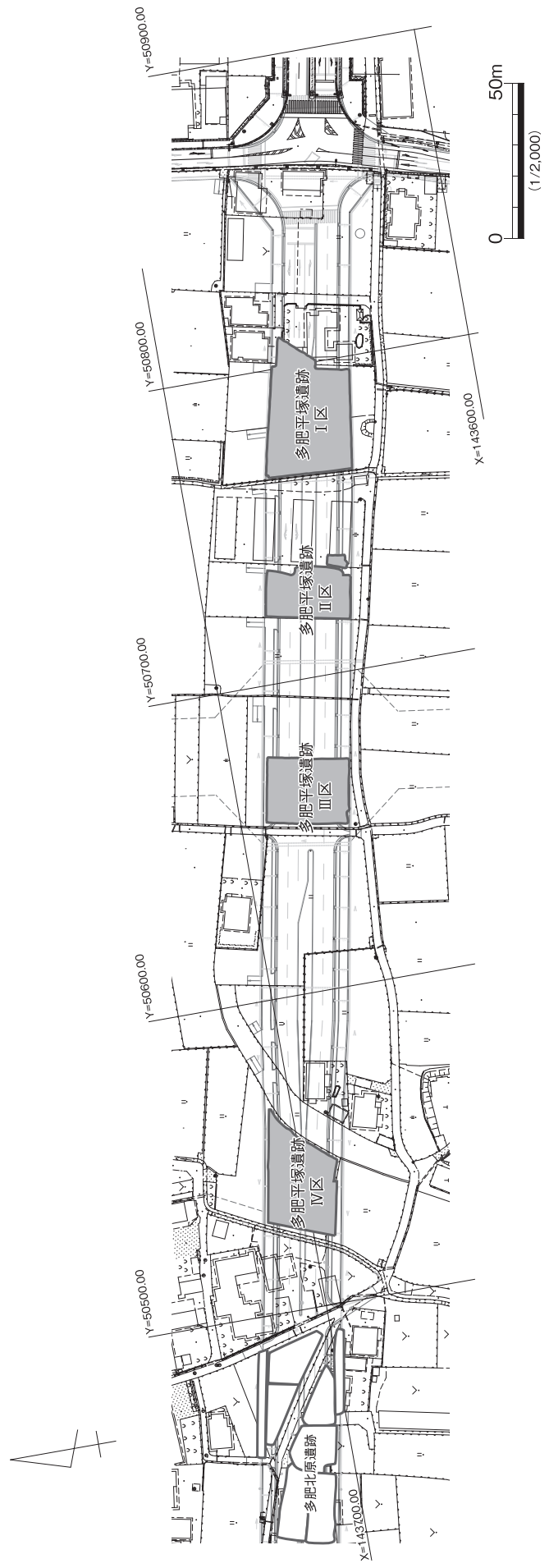
多肥北原西遺跡では、古墳時代終り頃の集落跡や8～10世紀にかけての溝状遺構が検出されていたが、平成23年度の調査では、9世紀代と考えられる掘立柱建物跡や8～10世紀の溝状遺構の延長が検出された。

太田原高州西遺跡(大下遺跡)は、平成24年度に調査を行っているが、弥生時代後期後半の竪穴建物跡、弥生時代後期の溝状遺構や7世紀代の竪穴建物跡を中心とする集落跡が発見されている。

（註）香川県教育委員会『県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 多肥北原遺跡』2012



第3図 周辺の遺跡



第4図 調査区割図

第3章 調査の成果

今回調査にあたり、I～IVの調査区を設定した（第4図）。調査区I～IV区は連続しておらず、遺構の関連性も少ないと考えられるため、以下は調査区ごとに土層及び遺構・遺物を報告していく。

第1節 I区の調査

概要と基本土層（第5・6・7・8図）

遺跡東端に位置する調査区である。調査対象面積は、1,073㎡である。調査前は水田であった。地表面の標高は、23.5 m前後である。基本土層（第7図）は、耕作土下に旧耕作土（1、4層）及び床土（5、12層）があり、調査区東西端では基盤層の礫層及び粘質土層が直下でみられる。中央では中世以前の堆積層が見られ、2面の遺構面が存在する。上面の中世の遺構面は、第6、9、10、18層上面である。6層は8世紀の遺物を出土するSD07の上層埋土である。また、調査区中央には黒色の粘質土が堆積する落ち込みがある。

遺構と遺物

上層の中世遺構面では、掘立柱建物跡及びピット、下層からは大溝状遺構及び落ち込みが検出された。

掘立柱建物跡

I区SB01（第9・10図）

SD03、SD04、SD05に囲まれた方形の区画の中にピット群が検出された。建物を構成するすべての柱穴が検出されているわけではないが、庇付きの梁行2間×桁行3間の建物と考えられる。主軸方位はN77°Wである。

1～6は柱穴から出土した土師器皿・杯・椀である。

溝状遺構（建物と関連があると考えられるもの）

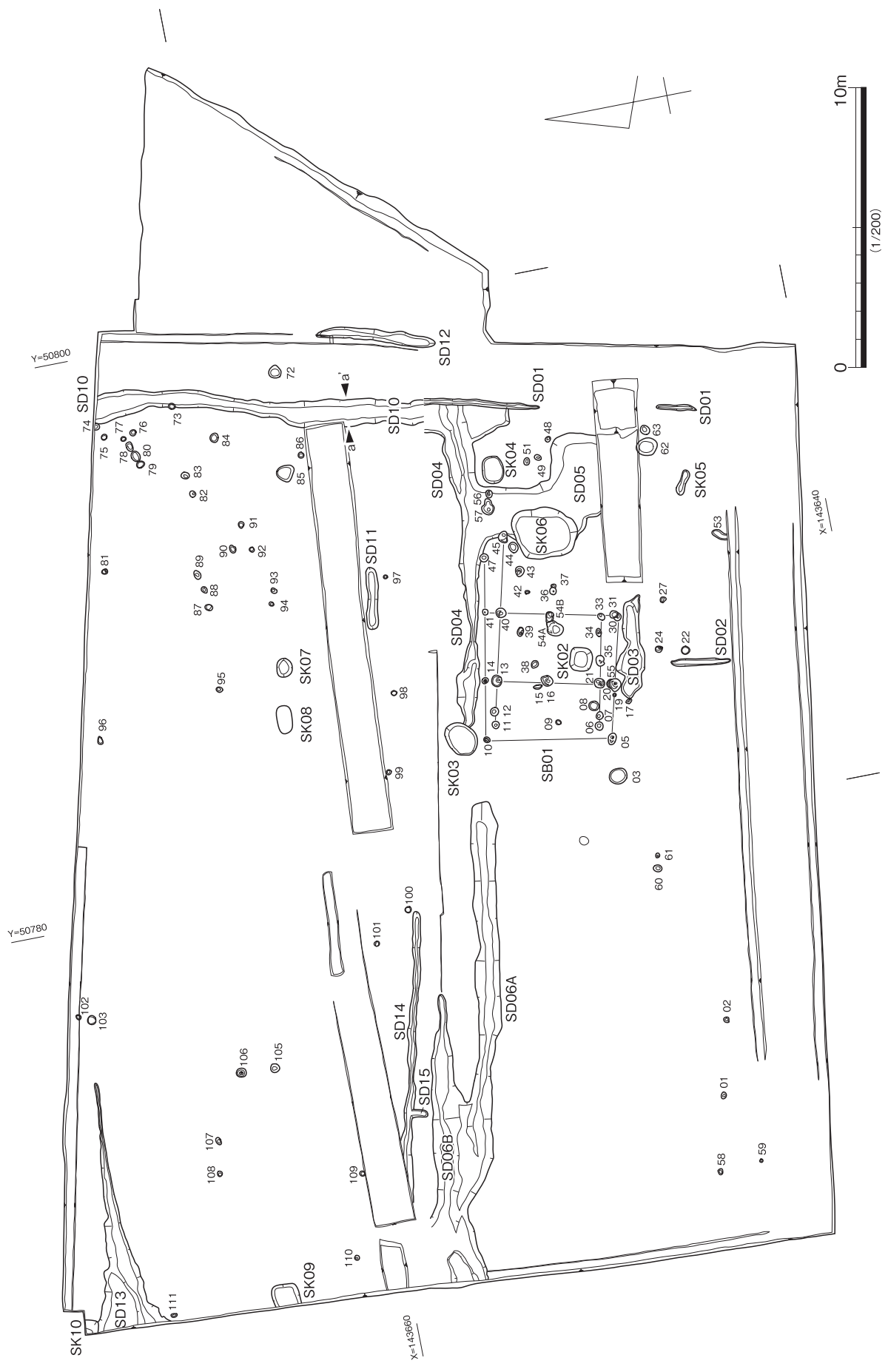
I区SD03（第9・11図）

SB01の南側にあり、浅く不定形な溝状遺構である。雨落ち溝と考えられる。出土遺物は、土師器小片少量、黒色土器A類椀、須恵器壺がある。7は土師器皿、8は須恵器壺である。

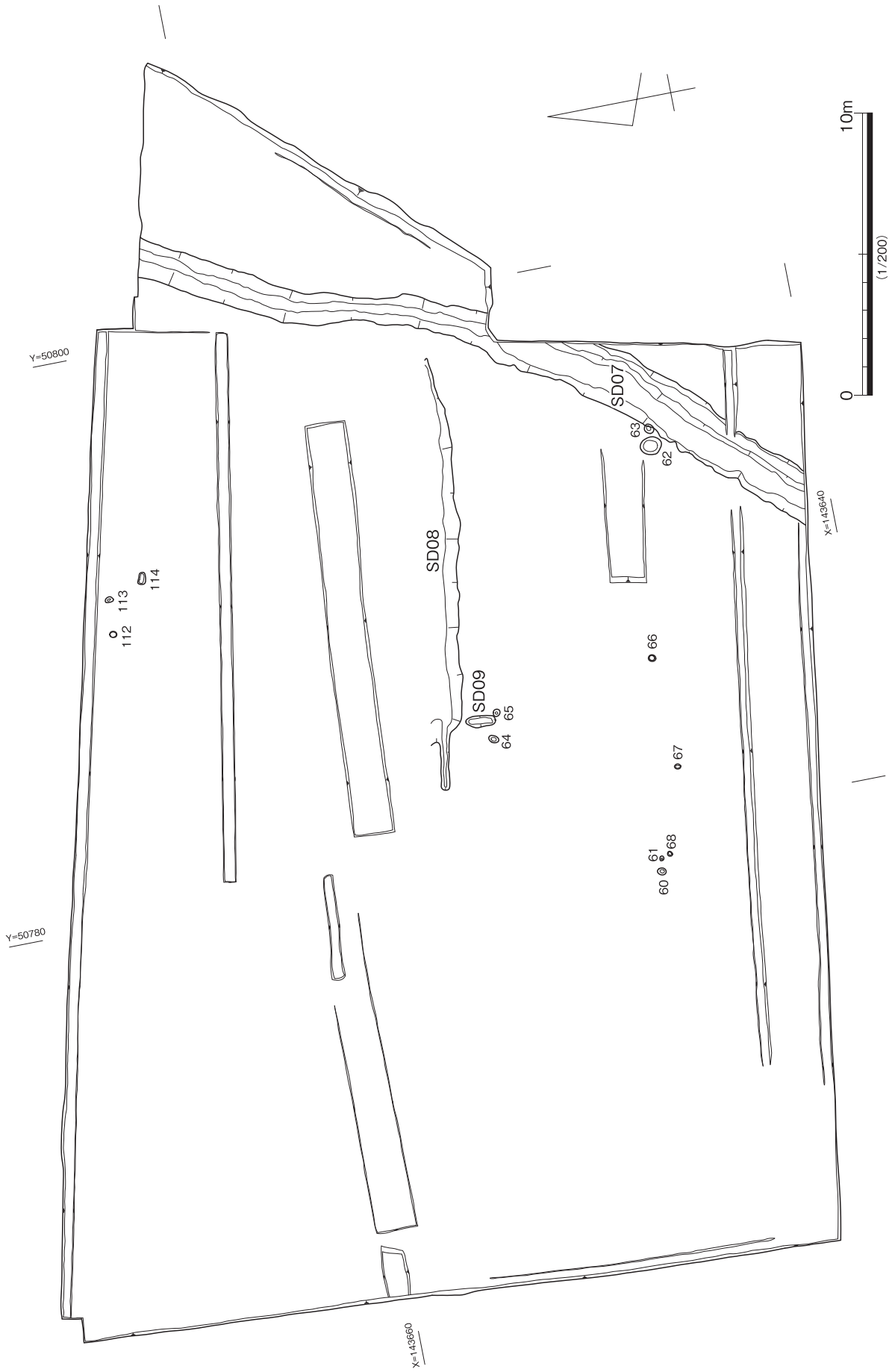
I区SD04・10（第9・12・13図）

SD04は、SB01の北側にあり、浅く不定形な溝状遺構である。雨落ち溝と考えられる。SD10は、SD04から続くもので、浅い溝状遺構である。方向は、N82°Wで、近辺の条里型地割の方向にほぼ合致する。これらの溝状遺構が、西のSD06と関連するものであれば、SD06とSD04との間は出入り口のような隙間の可能性がある。

SD04からは、土師器皿・杯・足釜、須恵器小片、常滑焼、瓦器椀が出土している。SD10からは、土師器皿・杯、西村産須恵器小片、須恵器杯、黒色土器A類椀が出土している。9～14はSD04から出土した遺物である。9～11は土師器である。12は瓦器椀である。13は土師器足釜である。

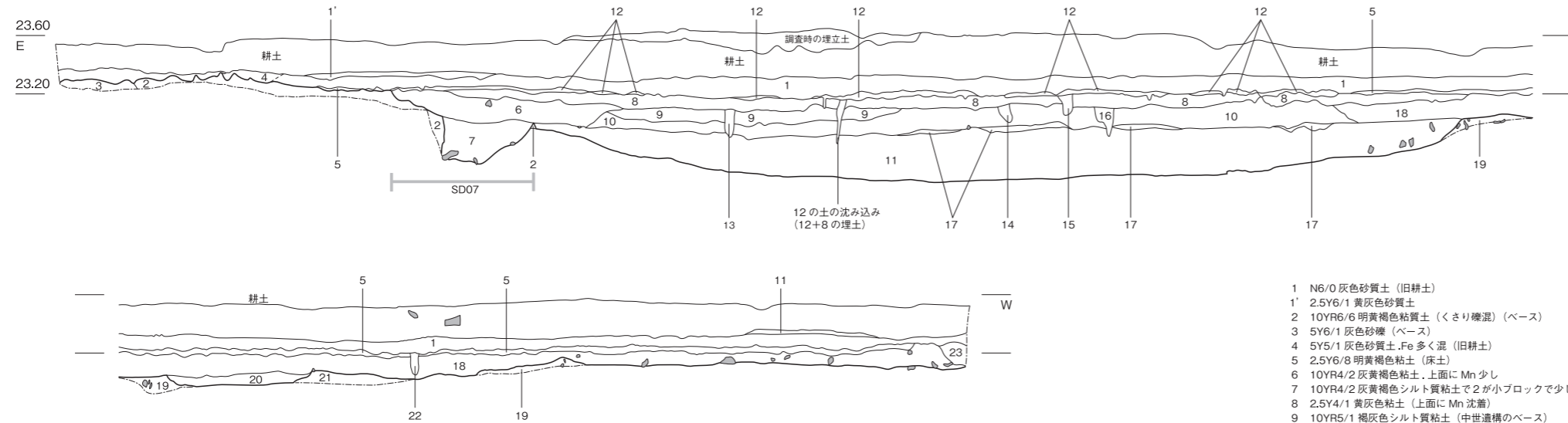


第5図 I区調査区(1面)平面図



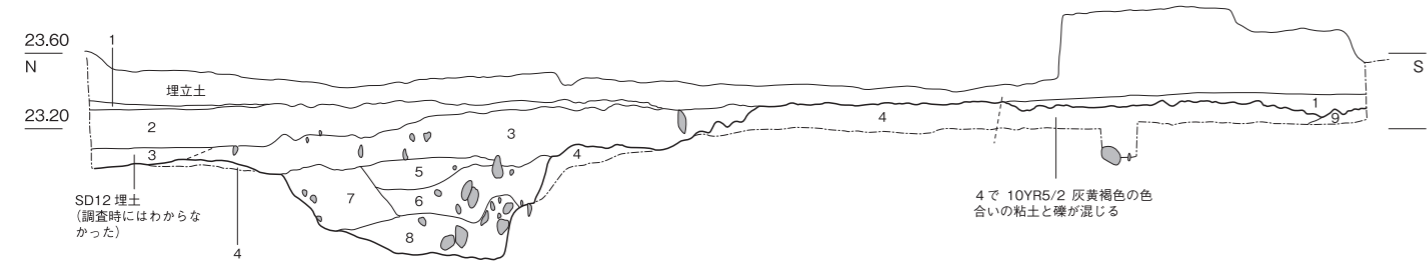
第6図 I区調査区(2面)平面図

① I区 南壁

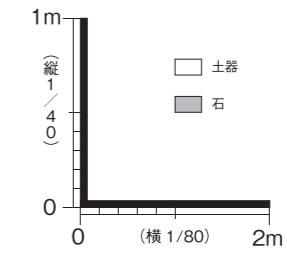


- 1 N6/O 灰色砂質土 (旧耕土)
- 1' 2.5Y6/1 黄灰色砂質土
- 2 10YR6/6 明黄褐色粘質土 (くさり礫混) (ベース)
- 3 5Y6/1 灰色砂礫 (ベース)
- 4 5Y5/1 灰色砂質土, Fe 多く混 (旧耕土)
- 5 2.5Y6/8 明黄褐色粘土 (床土)
- 6 10YR4/2 灰黄褐色粘土, 上面に Mn 少し
- 7 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土で2が小ブロックで少し混 (SD07)
- 8 2.5Y4/1 黄灰色粘土 (上面に Mn 沈着)
- 9 10YR5/1 褐灰色シルト質粘土 (中世遺構のベース)
- 10 5YR4/1 褐灰色細砂混粘土 (Fe 含)
- 11 2.5Y3/1 黒褐色粘土
- 12 2.5Y7/4 シルト質土 (床土?)
- 13 10YR5/1 褐灰色シルト質土 (ピット)
- 14 N5/O 灰色シルト質土 (ピット)
- 15 5Y6/1 灰色で8層がブロック状に混る
- 16 2.5Y6/2 灰黄色シルト質土 (ピット)
- 17 10YR4/2 灰黄褐色砂混粘土, Fe 多く含む (11の土壌化層か?)
- 18 10YR5/1 褐灰色粘土 (Mn 混)
- 19 2.5Y4/1 黄灰色礫 (粘土混) (ベース)
- 20 N3/O 暗灰色砂混粘土
- 21 N4/O 灰色砂質土 (ベース)
- 22 N6/O 灰色シルト質粘土
- 23 10YR6/1 褐灰色粘質土 (西壁4と同じ)

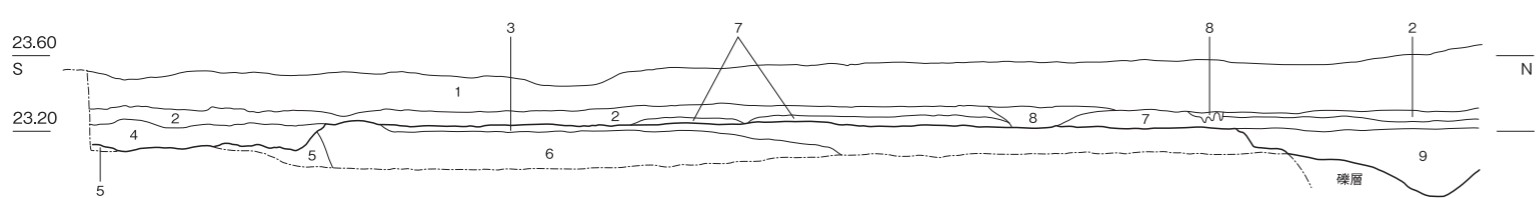
② I区 東壁



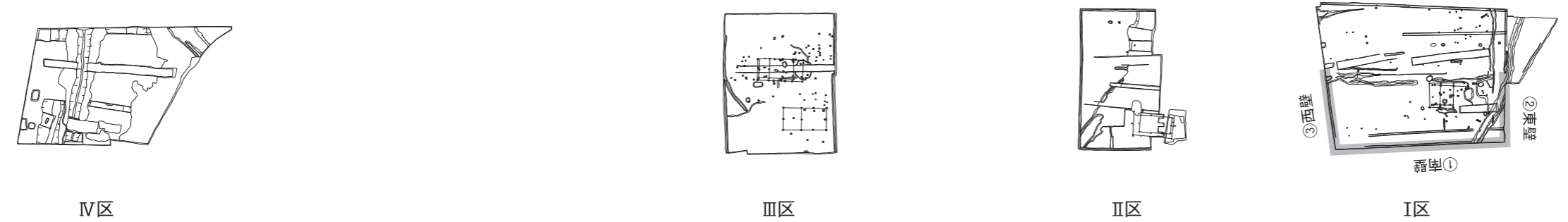
- 1 5Y6/1 灰色砂質土 (旧耕土)
 - 2 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土 (SD06 埋土に似る)
 - 3 10YR5/3 にぶい黄褐色砂混粘質土 (よく締まる) 中世遺構のベース
 - 4 10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土 (ベース)
 - 5 7に似る, ベースブロックはやや少ない
 - 6 7に似る, ベースブロックの量は5と7の間
 - 7 10YR5/1 褐灰色粘質土でベースブロックを多量に含む
 - 8 2.5Y4/1 黄灰色シルト質土 (砂混)
- 5~7は基本的に同一層
5~8 SD07



③ I区 西壁

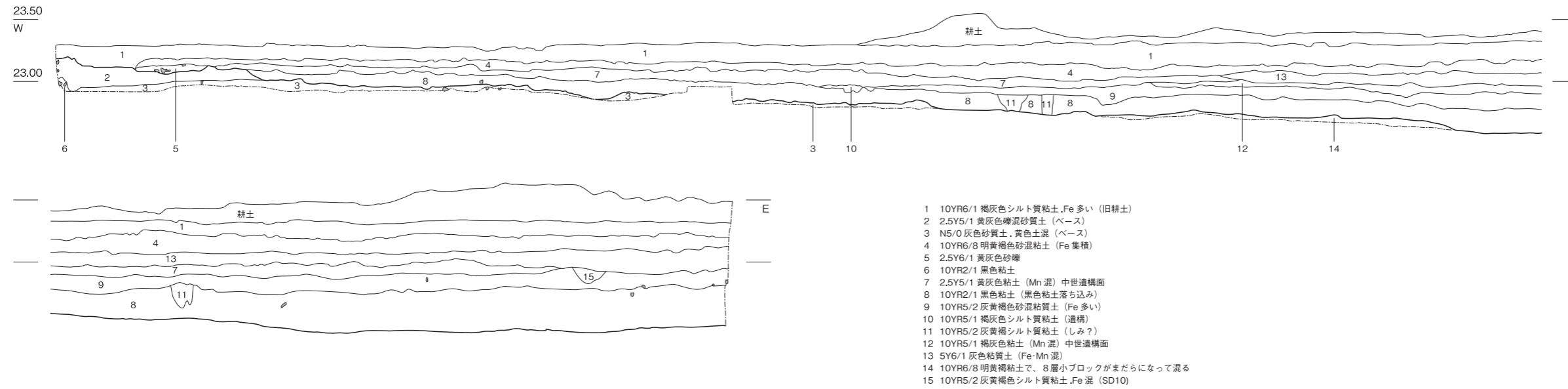


- 1 耕土
- 2 7.5YR6/4 にぶい橙色砂質土 (旧耕土)
- 3 10YR5/1 褐灰色シルト質砂質土 (ベース)
- 4 10YR6/1 褐灰色砂質土 (SD06 埋土に似る, 包含層?)
- 5 10YR5/2 灰黄褐色砂 (ベース)
- 6 10YR5/1 褐灰色砂礫 (ベース)
- 7 10YR6/6 明黄褐色シルト質粘土 (床土)
- 8 5Y6/1 灰色シルト質粘土 (Fe 混) SP01 埋土に似る
- 9 10YR6/1 褐灰色砂質土 (Mn 混) SD06

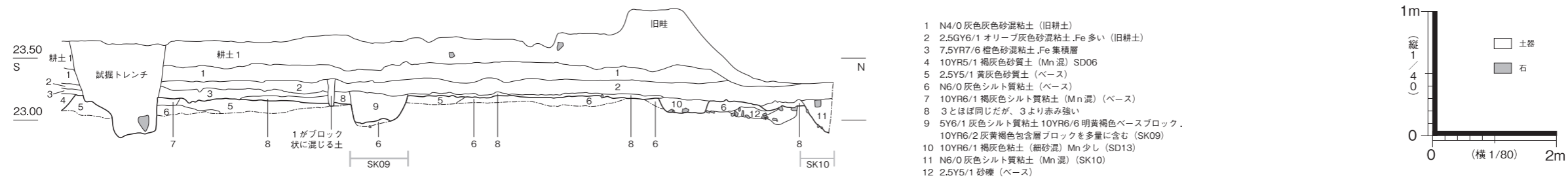


第7図 I区調査区壁土層断面図

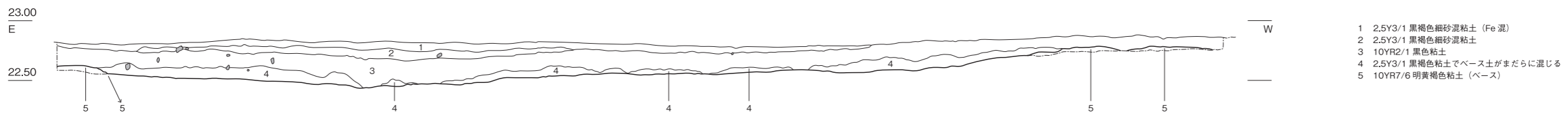
① I区 (北拡張部) 北壁



② I区 (北拡張部) 西壁



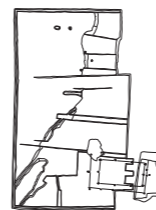
③ I区 (北拡張部) 中央トレンチ



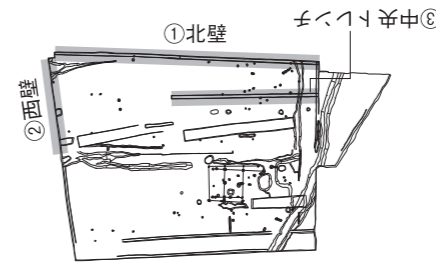
IV区



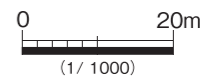
III区



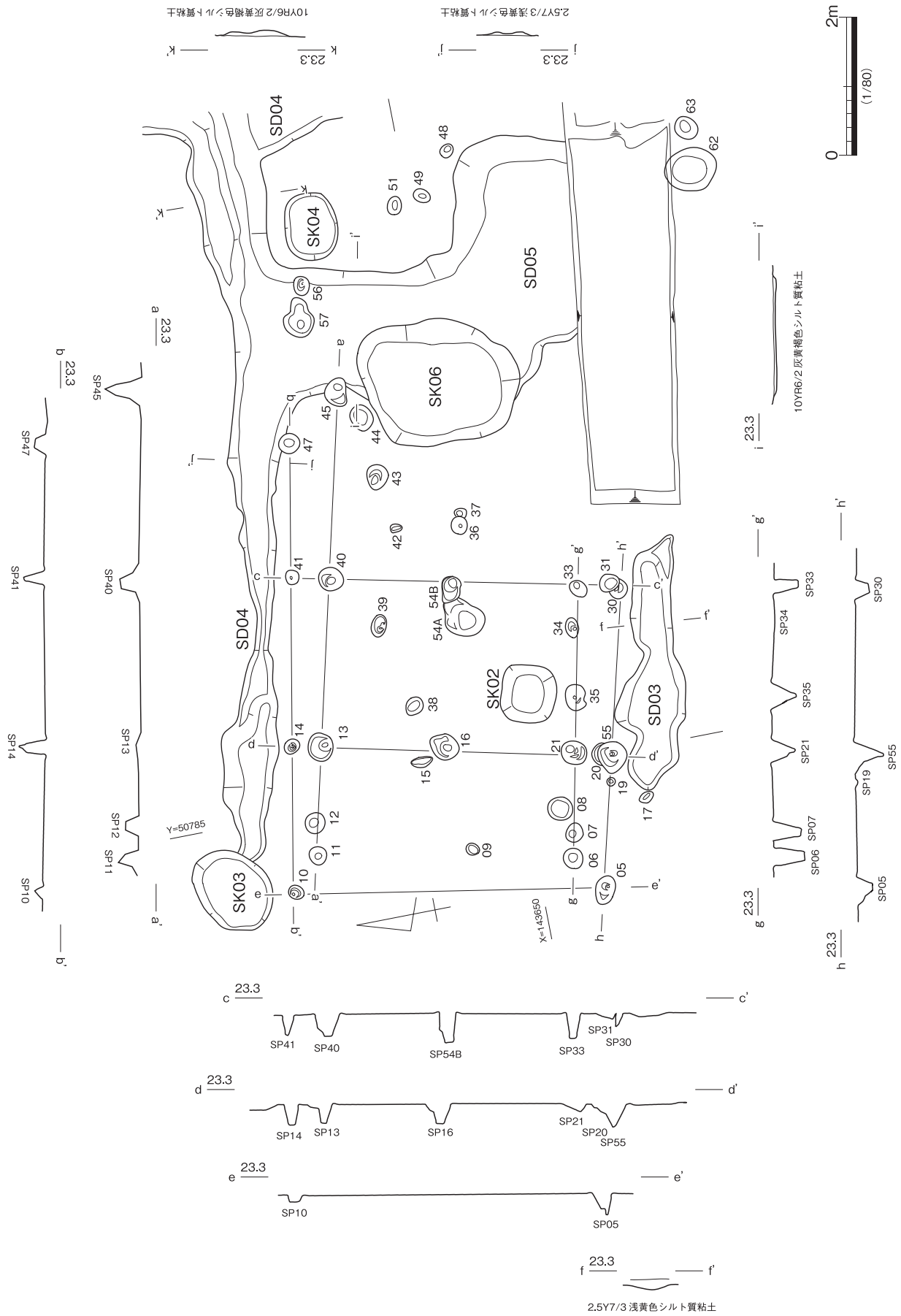
II区



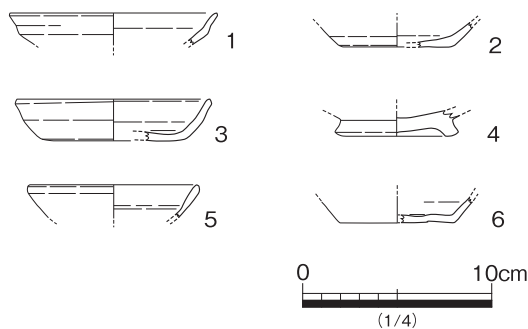
I区



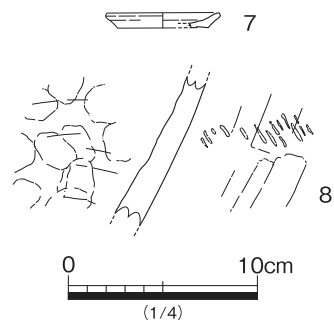
第8図 I区調査区 (北拡張部) 壁土層断面図



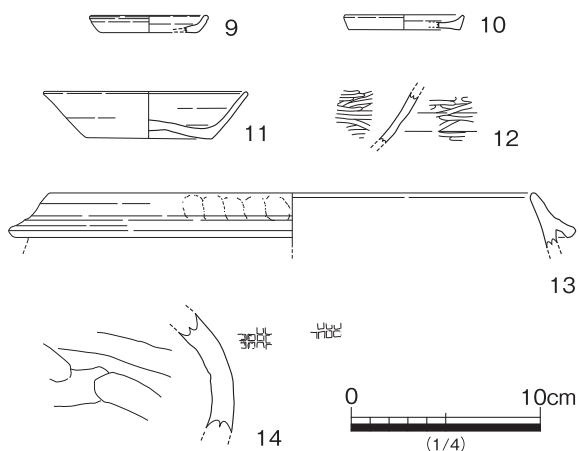
第9図 I区SB01、SD03・04・05平・断面図



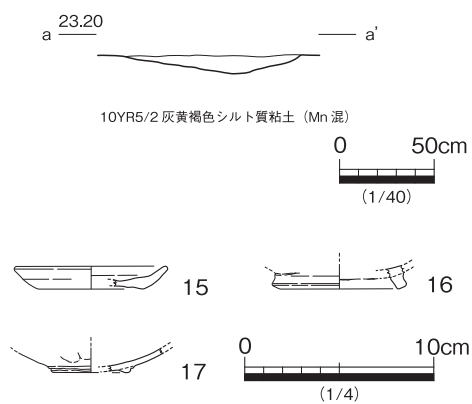
第10図 I区 SB01 出土遺物



第11図 I区 SD03 出土遺物



第12図 I区 SD04 出土遺物



第13図 I区 SD10 断面図・出土遺物

14は常滑焼甕である。15～17はSD10から出土した土器である。15は土師器皿である。16は黒色土器A類椀である。17は瓦器椀である。

I区SD05 (第9・14図)

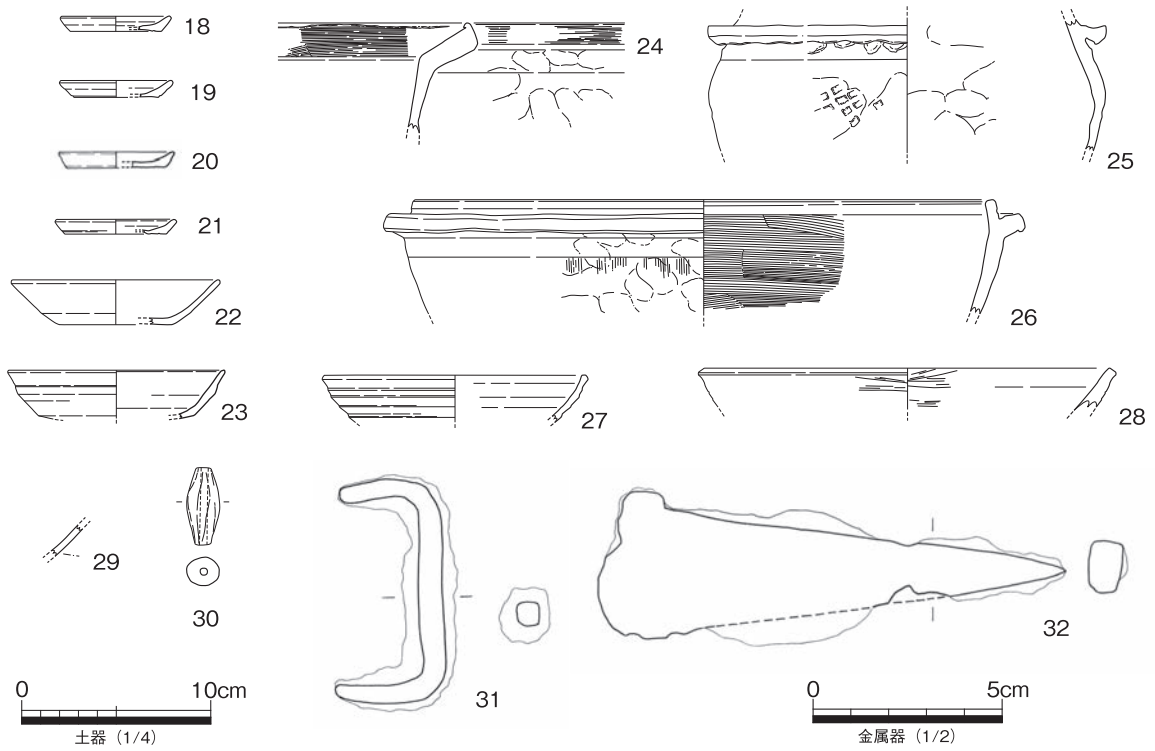
SB01の西側にある浅く不定形な遺構である。遺構ではない可能性もあるが、SD04と直交して、SB01を区画するように見える。土師器皿・杯・足釜・鍋、須恵器小片、西村産須恵器鉢、黒色土器A類椀、鉄器など多量の遺物が出土している。18～26は土師器である。27・28は須恵器である。29は中国産白磁椀である。30は土師質土錘である。31は鉄製カスガイ、32は鉄製刀と考えられる。

ピット及び溝状遺構から出土した土師器皿は、空港跡地遺跡分類のBⅢ-4型式、杯はDⅡ-6～8型式で、時期は13世紀末から14世紀前葉と考えられる。これが建物の時期と考えられる。

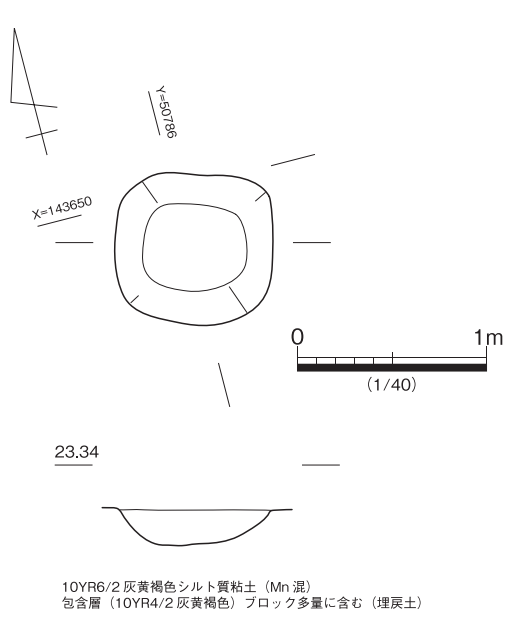
土坑

I区SK02 (第15図)

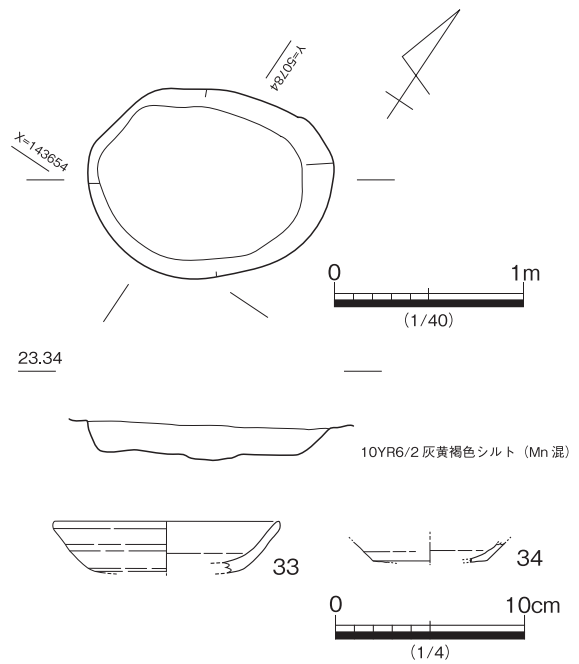
土師器小片が数点出土しているのみである。埋土から中世の時期が考えられる。包含層の粘質土ブロックを多く含み、埋め戻されたものと考えられる。



第 14 図 I 区 SD05 出土遺物



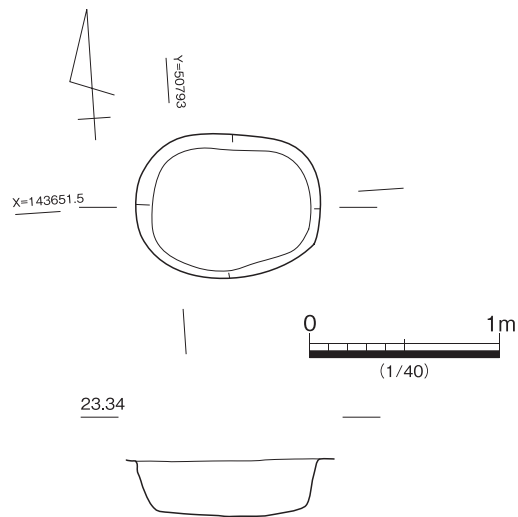
第 15 図 I 区 SK02 平・断面図



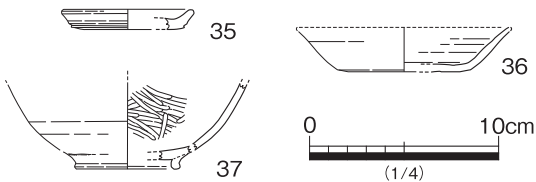
第 16 図 I 区 SK03 平・断面図、出土遺物

I 区 SK03 (第 16 図)

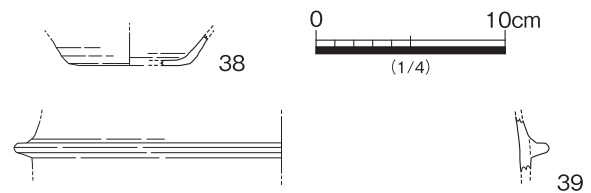
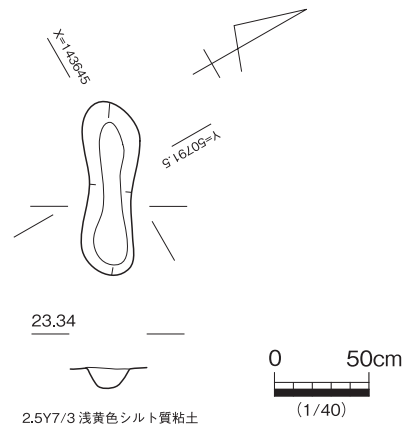
埋土はSK02と同じである。土師器杯 33・34 のほか土師器・須恵器小片が出土している。土師器杯 33 は空港跡地遺跡分類のDII-6 型式で、13 世紀後半頃と考えられる。



10YR5/2 灰黄褐色シルト質土、包含層 (10YR3/2 黒褐色)
ブロック多量に含む



第 17 図 I 区 SK04 平・断面図、出土遺物



第 18 図 I 区 SK05 平・断面図、出土遺物

I 区 SK04 (第 17 図)

埋土はSK02と同じである。土師器 35・36 及び黒色土器 A 類椀 37 のほか土師器・須恵器小片、鉄釘が出土している。土師器皿は、空港跡地遺跡分類でBⅢ-4型式、杯はDⅡ-6型式で13世紀後半以降の時期が考えられる。

I 区 SK05 (第 18 図)

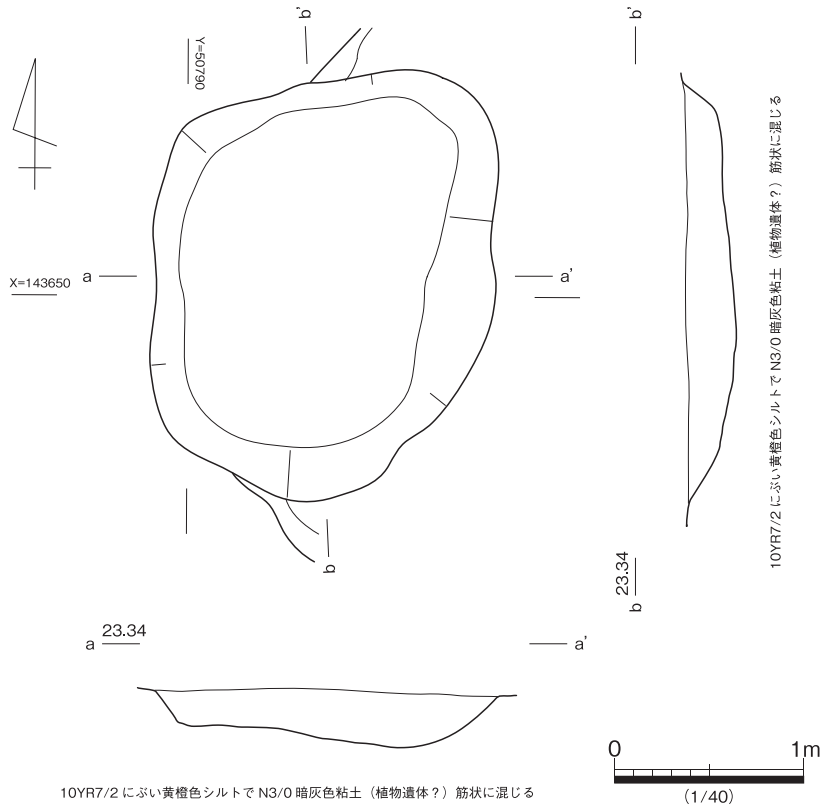
溝状の平面形である。埋土はSK02と同じである。土師器 38・39 のほか土師器・須恵器小片が出土している。13世紀後半以降の時期が考えられる。

I 区 SK06 (第 19 図)

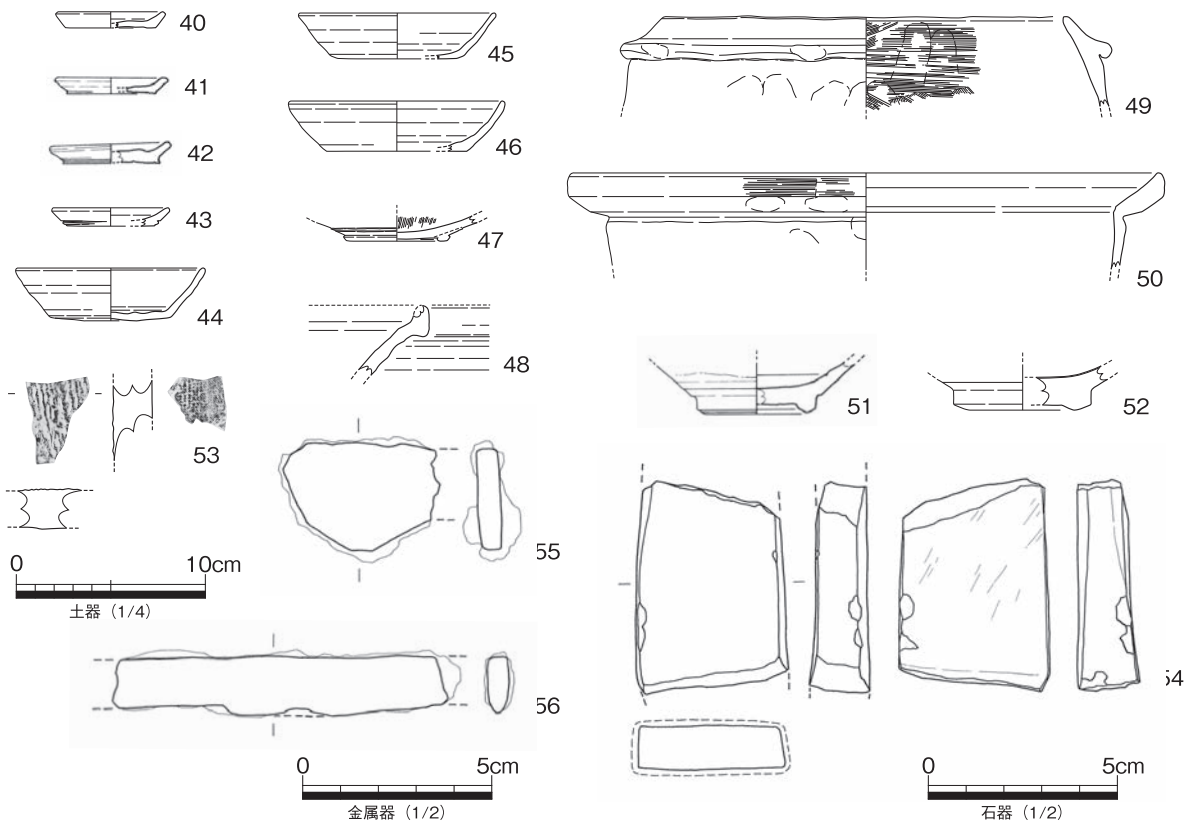
埋土に部分的に筋状の灰色粘土層が見られる。植物質遺物の痕跡かもしれない。SD05との新旧関係は不明である。埋土から土師器皿 40～43・杯 44～46・椀 47、足釜 49・鍋 50、須恵器杯・甕、東播系須恵器鉢 48、中国産白磁椀 51・52、平瓦 53、砥石 54、鉄刀子 55・56、鉄釘などが出土している。空港跡地遺跡分類では、土師器皿はBⅢ-4型式、杯はDⅡ-8型式で、中世Ⅱ-5期(13世紀末から14世紀前葉)と考えられ、これは土師器足釜・鍋や東播系須恵器鉢の年代観と矛盾しない。

I 区 SK07 (第 20 図)

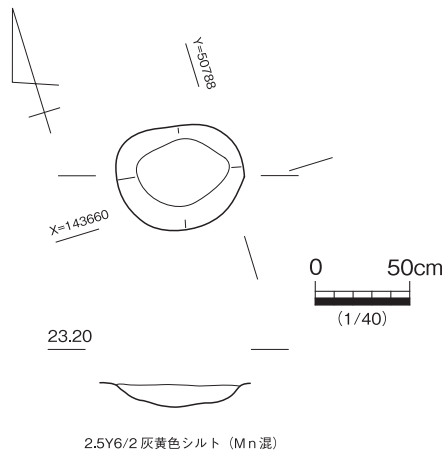
埋土は、包含層の粘質土ブロックは含まないが、他の土坑と同じである。遺物は、土師器小片が3点出土しているのみである。埋土から中世の時期が考えられる。



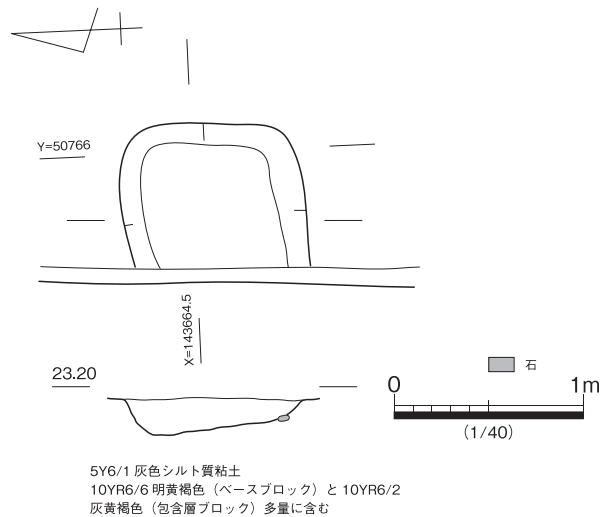
10YR7/2 にぶい黄橙色シルトで N3.0 暗灰色粘土 (植物遺体?) 筋状に混じる



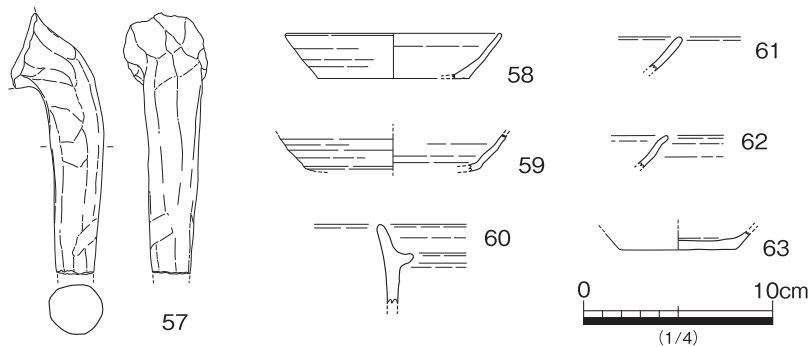
第 19 図 I 区 SK06 平・断面図、出土遺物



第20図 I区SK07平・断面図



第21図 I区SK09平・断面図



第22図 I区ピット出土遺物

I区SK08

埋土は、SK07と同じである。正確な実測図はない。遺物は、土師器小片が2点出土しているのみである。埋土から中世の時期が考えられる。

I区SK09 (第21図)

埋土は、SK02と同じである。一部は調査区外となっている。遺物は、土師器足釜1点及び小片4点が出土しているのみである。遺物から13世紀後半以降の時期が考えられる。

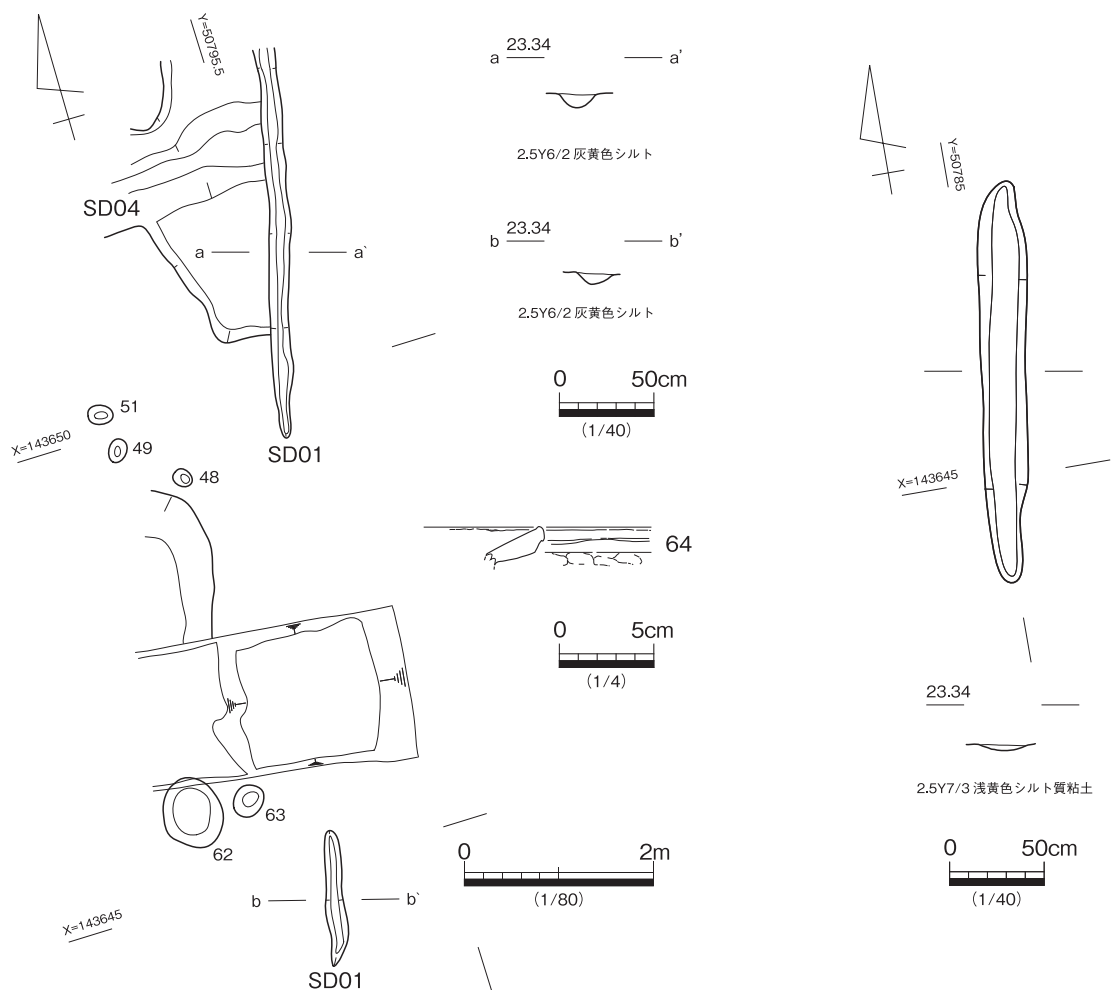
I区ピット出土の遺物 (第22図)

ピットからは、中世を中心とする時期の遺物57～63が出土している。

溝状遺構

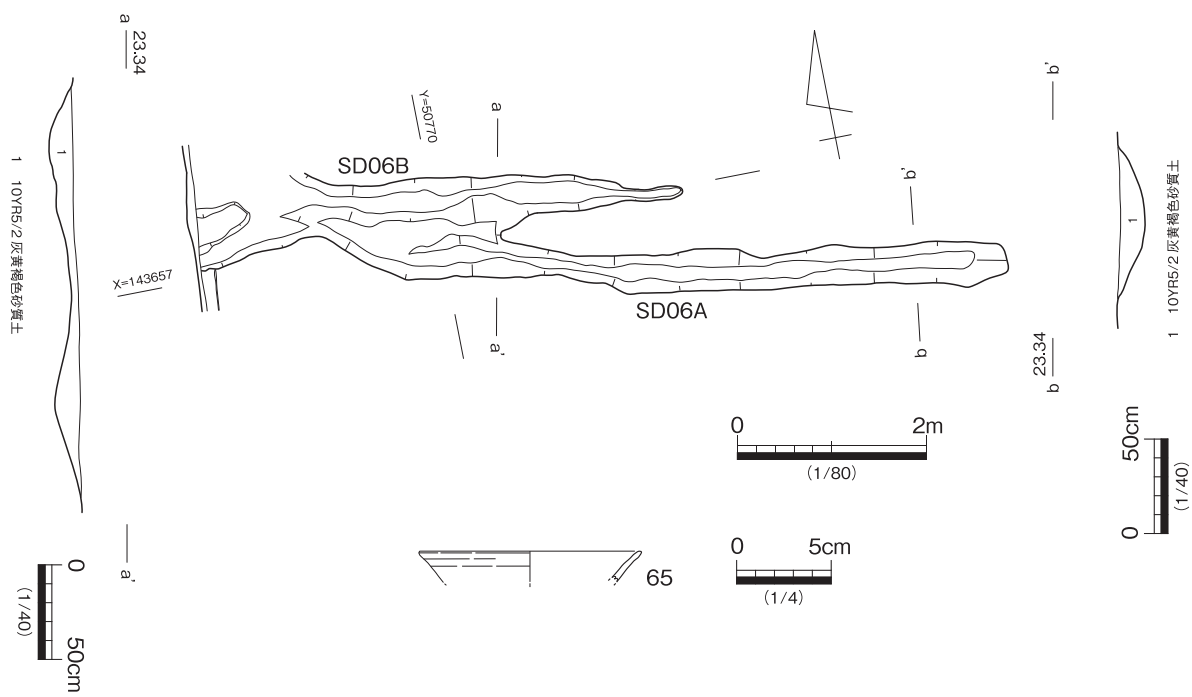
I区SD01 (第23図)

小規模な鋤溝状の遺構である。遺物は土師器鍋64・小片5点、須恵器小片1点が出土している。中世の時期が考えられる。

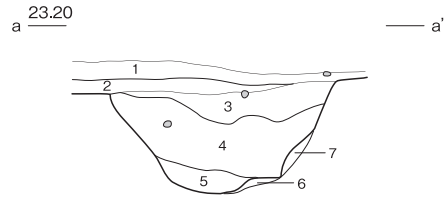
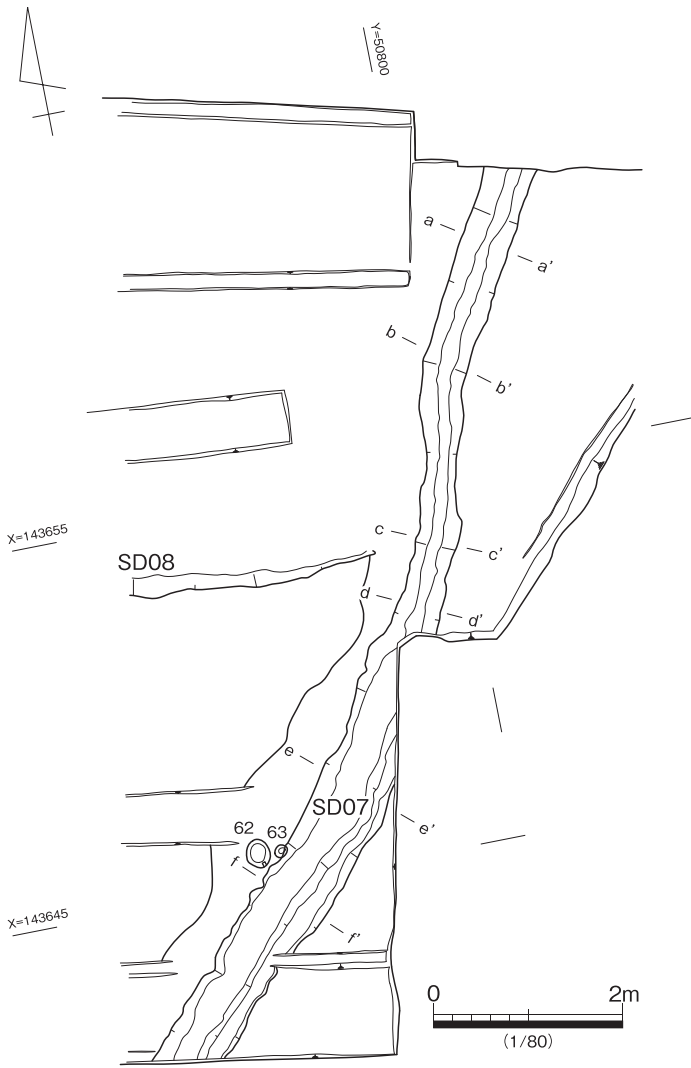


第23図 I区SD01平・断面図、出土遺物

第24図 I区SD02平・断面図



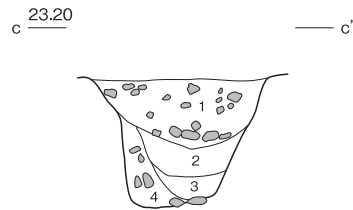
第25図 I区SD06平・断面図、出土遺物



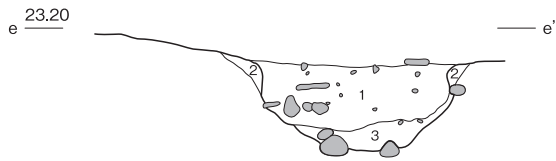
- 1 中世遺構面のベース (包含層)
- 2 10YR6/4 にぶい黄褐色細砂混粘土 (包含層)
- 3 10YR3/1 黒褐色 (弥生落ち込み) 粘土ブロック (埋戻土)
- 4 10YR3/1 黒褐色粘土ブロック、2.5Y7/8 黄色 (ベース) 粘土ブロック (埋戻土)
- 5 10YR5/1 褐灰色砂混粘土で、10YR5/1 褐灰色ブロック少し
- 6 5B7/1 明青灰色 (ベース)
- 7 2.5Y7/6 明黄褐色粘土 (ベース)



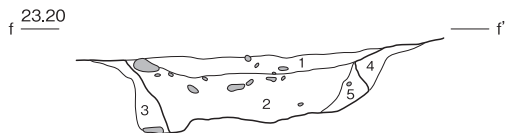
- 1 10YR6/4 にぶい黄褐色細砂混粘土 (包含層)
- 2 2.5Y7/8 黄色粘土 (ベース) ブロック+10YR4/2 灰黄褐色砂混粘土 (埋戻土)
- 3 10YR3/1 黒褐色粘土ブロック、2.5Y7/8 黄色 (ベース) 粘土ブロック (埋戻土)
- 4 2.5Y7/8 黄色粘土 (ベース) ブロック+10YR4/2 灰黄褐色砂混粘土 (埋戻土) 2に似ているがやや砂っぽい
- 5 2.5Y7/8 黄色粘土 (ベース) ブロック+5B7/1 明青灰色シルトブロック (ベース) +10YR4/2 灰黄褐色砂混粘土 (埋戻土)
- 6 10YR5/1 褐灰色砂質土 (礫混) (ベース)



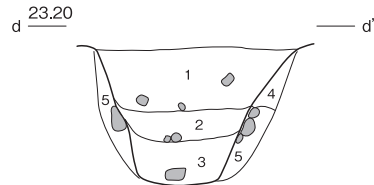
- 1 10YR5/2 灰黄褐色砂混粘土・礫多量
- 2 10YR2/1 黒色粘土ブロック (多い黒色落ち込み粘土) +10YR6/6 明黄褐色 (ベース) 粘土ブロック
- 3 10YR5/2 灰黄褐色粘土で 10YR2/1 黒色粘土 (黒色落ち込み粘土) 混
- 4 10YR5/2 灰黄褐色砂混粘土・礫多量



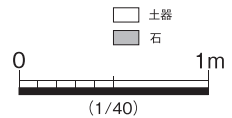
- 1 10YR7/6 明黄褐色粘質土ブロック (ベースブロック) 多量に含む
- 2 10YR6/8 明黄褐色粘土 (ベース)
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土



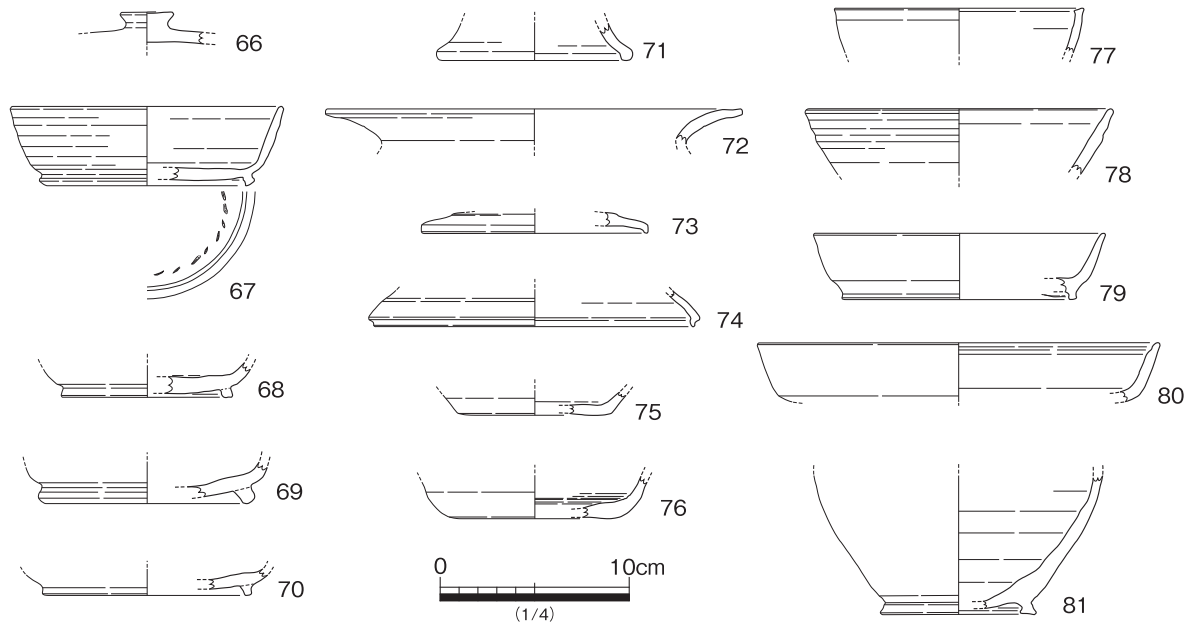
- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 (固い)
- 2 1で 10YR7/6 明黄褐色粘質土ブロック (ベースブロック) 多量に含む
- 3 5Y4/1 灰色粘土 (ベース?)
- 4 10YR6/8 明黄褐色粘土 (ベース)
- 5 2に近い、2よりベースブロック多い



- 1 10YR5/2 灰黄褐色砂混粘土、10YR6/6 明黄褐色粘土 (ベース) ブロック、礫混 (埋戻土)
- 2 2.5Y7/8 黄色粘土 (ベース) ブロック+10YR4/2 灰黄褐色砂混粘土 (埋戻土)
- 3 10YR5/2 灰黄褐色砂混粘土で 10YR6/6 明黄褐色粘土 (ベース) ブロック多量、礫混 (埋戻土)
- 4 10YR6/6 明黄褐色粘土 (ベース)
- 5 2.5Y5/1 黄灰色砂礫 (ベース)



第26図 I区SD07平・断面図



第27図 I区SD07出土遺物

I区SD02 (第24図)

小規模な鋤溝状の遺構である。遺物は、弥生土器1点、須恵器壺2点が出土している。中世の時期が考えられる。

I区SD06 (第25図)

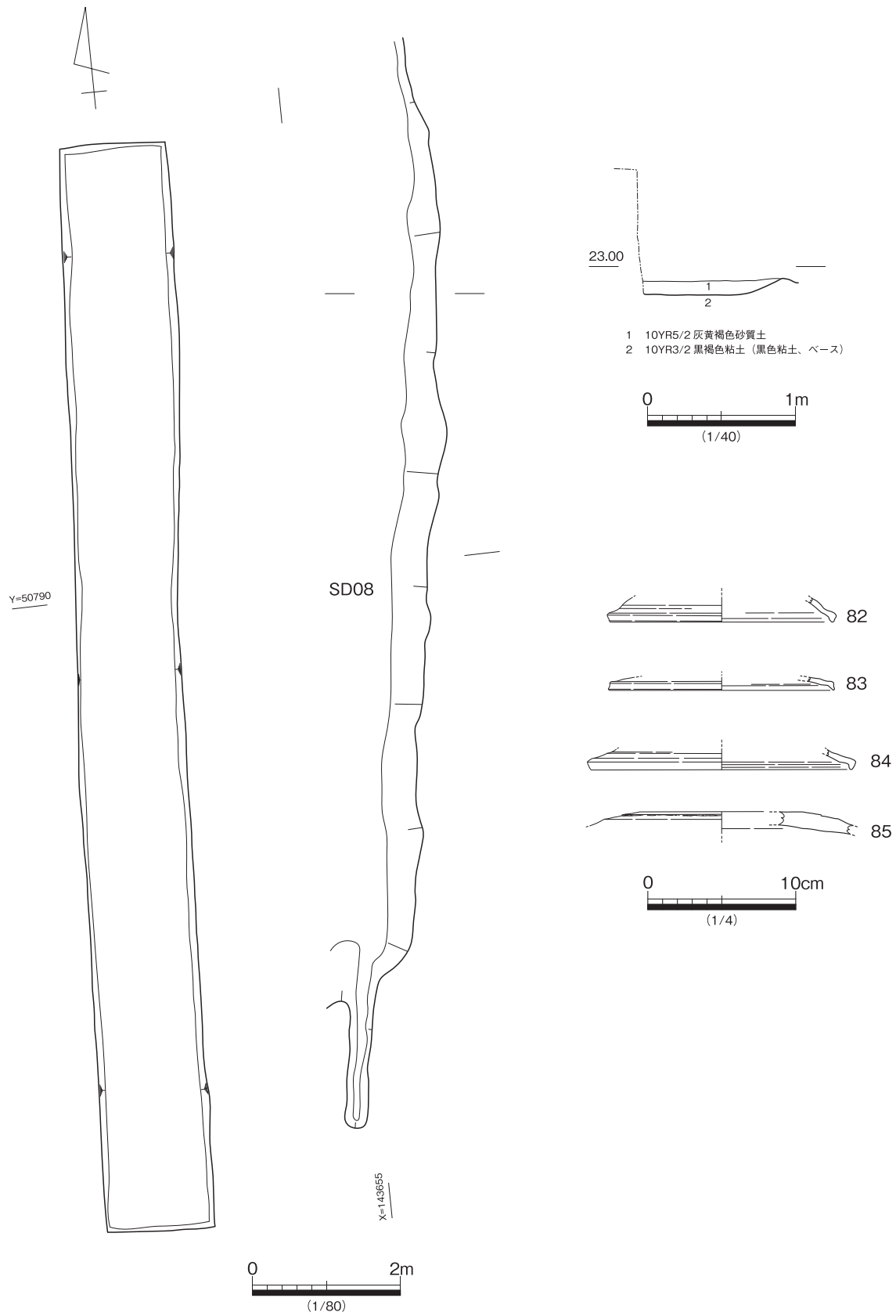
南北の2条の溝状遺構は新旧関係がなく、調査区西端で合流しているものと考えられる。合流地点では溝底が深くなっている。遺物は、土師器杯65・小片10点、須恵器小片3点が出土している。中世の時期が考えられる。

I区SD07 (第26・27図)

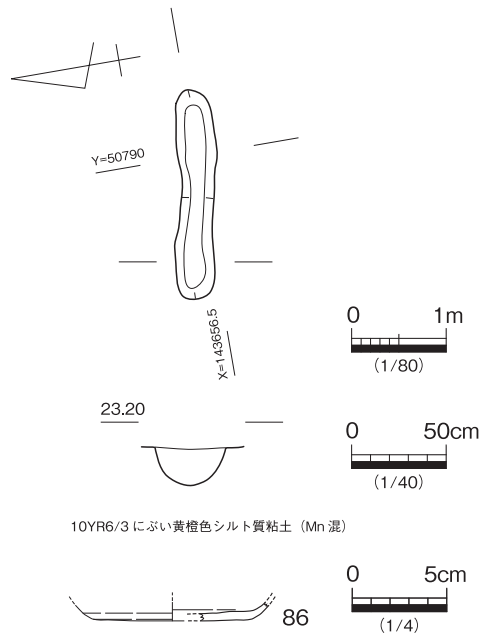
幅2m前後、深さ50cm前後の大規模な溝状遺構である。埋土上面は中世の遺構面となっている。埋土には円礫を多く含むが、これは基盤層に由来する円礫と考えられる。ブロック土による埋土であり、溝状遺構は廃棄時に埋め戻されたものと考えられる。方向は、条里型地割の方向とは大きく異なっている。須恵器、土師器がコンテナ1箱程度出土している。66～72は、埋土から出土した土器である。66・72は土師器である。67～71は須恵器である。73～81は上面から出土した須恵器である。8世紀の遺構と考えられる。

I区SD08 (第28図)

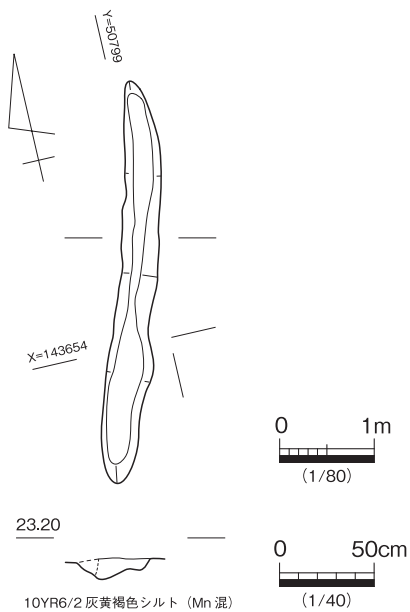
中世遺構の下位で検出された浅い遺構である。北側の輪郭は把握できていない。遺物は、須恵器82～85や土師器が出土し、中世の遺物は含まれない。出土遺物から考えるとSD07と同じ時期と考えられ、SD07に合流するものと考えられる。



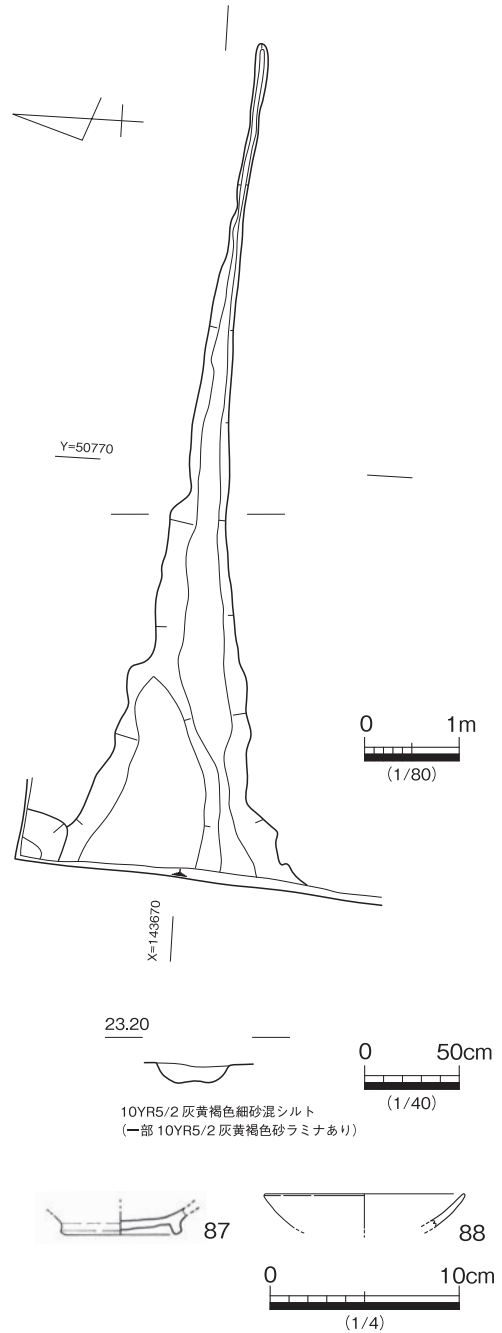
第 28 図 I 区 SD08 平・断面図、出土遺物



第 29 図 I 区 SD11 平・断面図、出土遺物



第 30 図 I 区 SD12 平・断面図



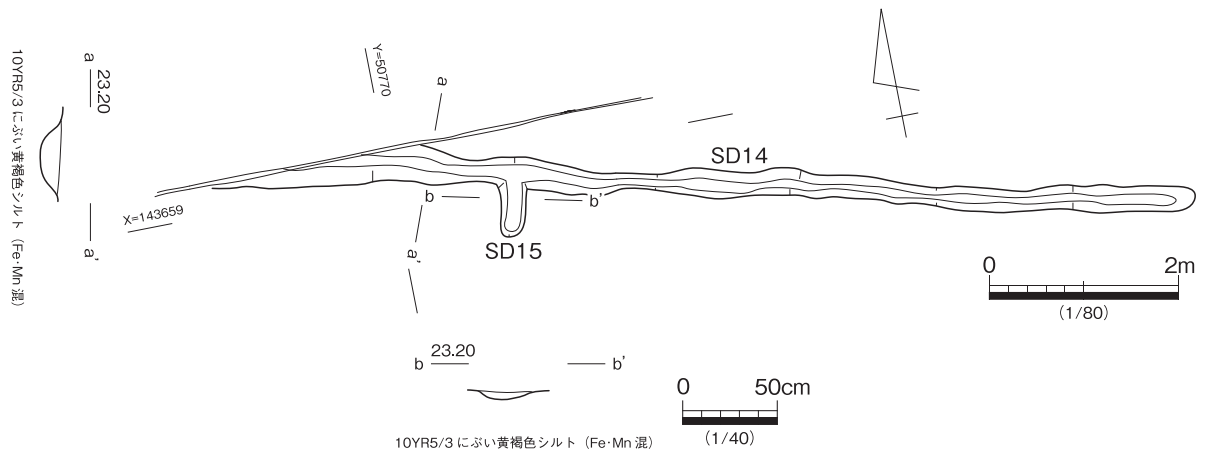
第 31 図 I 区 SD13 平・断面図、出土遺物

I 区 SD 1 1 (第 29 図)

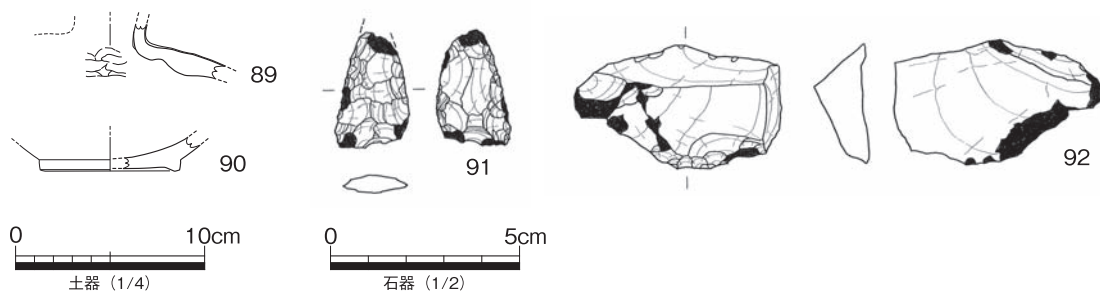
規模の小さい溝状遺構であるが、深さは深い。遺物は、須恵器小片 2 点、土師器杯 86 ほか 5 点、黒色土器 A 類小片 1 点が出土している。中世の時期と考えられる。

I 区 SD 1 2 (第 30 図)

鋤溝状の規模の小さい溝状遺構である。遺物は、土師器、須恵器の小片が出土している。中世の時期と考えられる。



第 32 図 I 区 SD14・15 平・断面図



第 33 図 I 区遺構外出土遺物

I 区 SD 1 3 (第 31 図)

調査区西壁付近で幅が広がっているように見えるが、断面図から判断すると狭いものと考えられる。遺物は、土師器小片、黒色土器 A 類椀 87 ほか 2 点、混入品と考えられる白磁皿 88 が出土している。中世の時期と考えられる。

I 区 SD 1 4・1 5 (第 32 図)

鋤溝状の小規模な溝状遺構である。遺物は、土師器小片 2 点、須恵器小片 3 点が出土している。中世の時期と考えられる。

I 区遺構外出土の遺物 (第 33 図)

89 は、表土掘削時に出土した須恵器瓶である。90 は、調査区壁切り時に出土した中国産白磁椀である。91 は、遺構検出時に出土した石鏃である。92 は、包含層出土のスクレイパーである。

第2節 II区の調査

概要と基本土層（第34・35図）

II区は、遺跡中央部に位置する調査区で、対象地の面積は約502㎡である。調査前は水田として利用されていた。現地表面の標高は、23.5～23.6mである。

土層序の観察は、調査区の北・西・南壁面において行った。現耕作土（第35図2層）の下位には、床土層（同図3層）及び旧耕作土層（同図4層）の水平堆積が認められ、これら耕土層を取り除くと、基本的には弥生時代以降の遺構面となる、ベース層の黄灰色砂礫及び黄色系粘土層（同図12～14層）が露出する。一方調査区北半部を中心に、耕土層下に最大厚0.1m程度のにぶい黄褐色粘土（同図5層）の堆積が確認された。本層下面より後述する掘立柱建物跡SBO1が掘り込まれており、中世以降の堆積層と考えられる。遺構面は、この包含層堆積部分を含めても概ね水平に検出され、掘立柱建物跡の各柱穴や旧流路（SRO1）の残存深度はいずれも0.2m前後と浅く、遺構面は大きく削奪されている可能性が想定される。なお遺構面の標高は、23.2～23.4mである。

本調査区では、既述したように旧流路（SRO1）とそれに流下する小溝状遺構群（SDO1・02）及び掘立柱建物跡1棟などが検出された。以下、各遺構について報告する。

掘立柱建物跡

II区SBO1（第36図）

II区南東隅部で検出した、東・南・西の3方に庇を伴う東西棟側柱建物である。調査を進めるなかで、建物東端部は調査区外に延長することが判明し、一部調査区を拡張して全形を捉えることはできたが、調査の都合で庇部分の柱穴2穴は確認していない。大半の柱穴は、旧流路（SRO1）上面より掘り込まれ、地形的条件にやや劣る場所に建てられていることや、単独で存在し建物群を構成しないことが、本建物の大きな特徴である。

建物本体の規模は、梁行2間（3.1m）×桁行3間（5.9m）で、主軸方位は、N74°Wである。遺物93はSP14及びSP11から出土したものの黒色土器A類椀で、口径及び高台径が大きく深いタイプで、古式のもので、10世紀代の可能性がある。SP14からは和泉型瓦器椀94が出土している。器形及び内面のヘラミガキが短い単位で繰り返されていることから初現期のもので、11世紀中葉から後半の時期と考えられる。以上から、この建物の年代は、11世紀中葉から後半と考えられる。

土坑

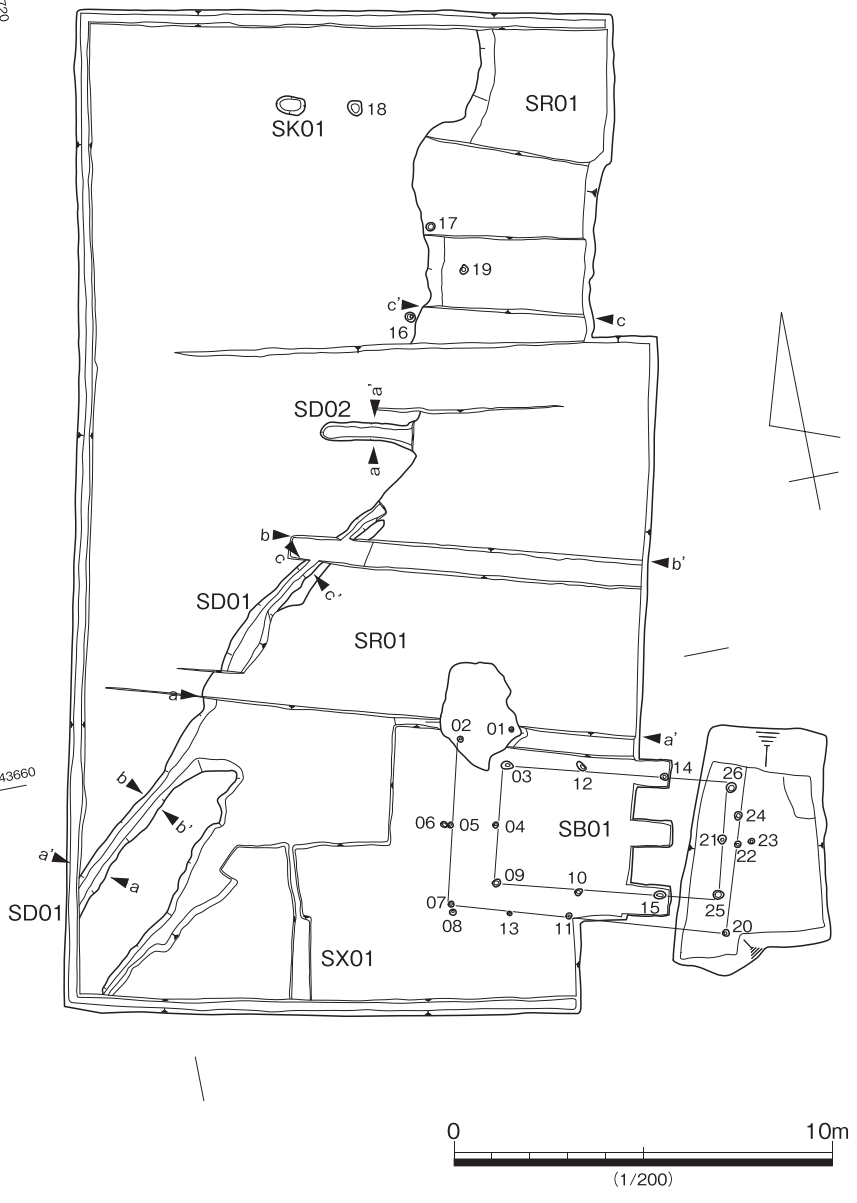
II区SKO1（第37図）

II区北西部で検出した。平面プランはやや歪な隅丸長方形を呈するものの、断面形は整った逆台形状を呈する。埋土は単層で、ベース層のブロック土が若干量混入し、人為的に埋め戻された可能性が想定される。

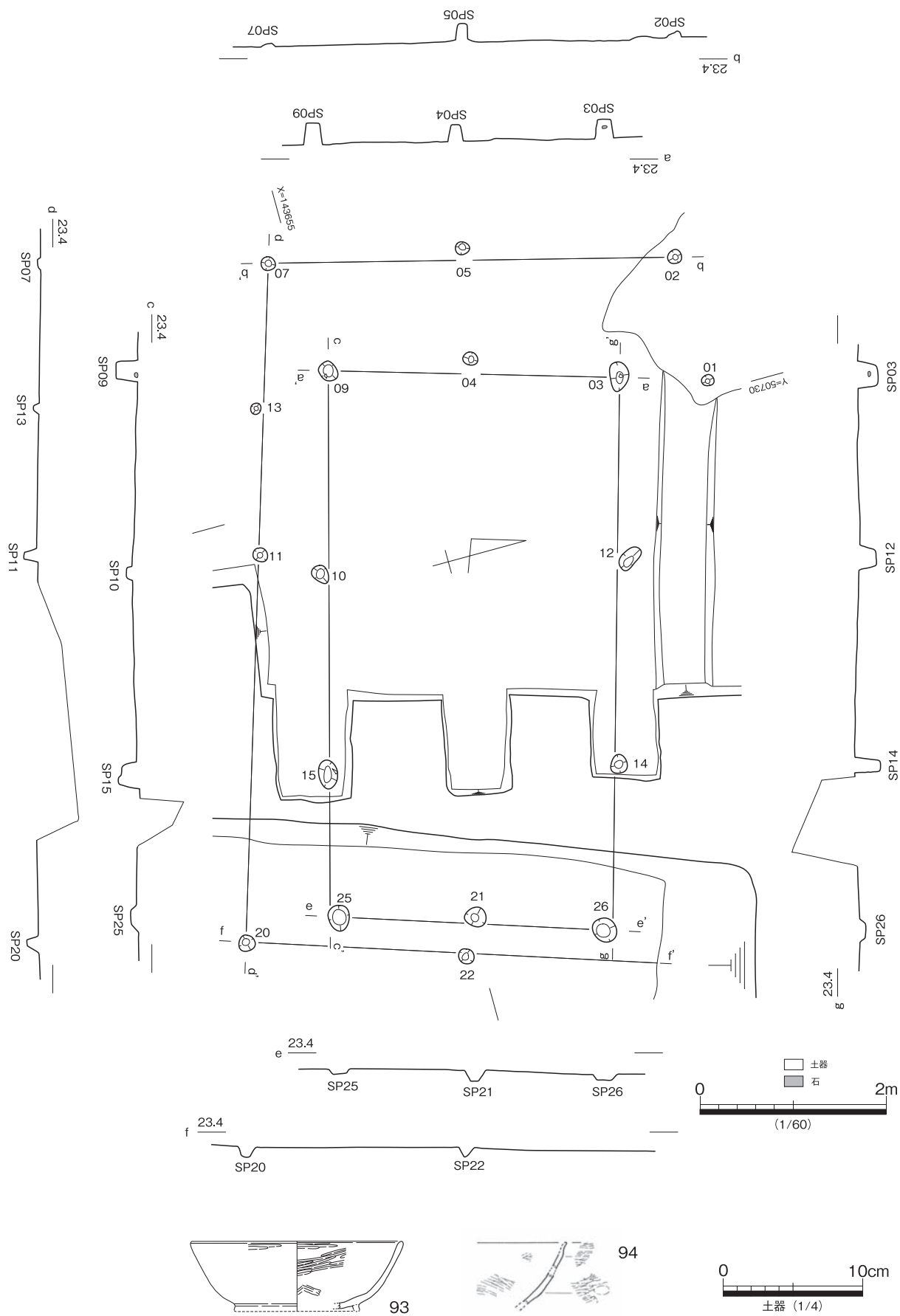
遺物は、須恵器、土師器の小片が出土している。埋土から中世の時期が考えられる。

y=50720

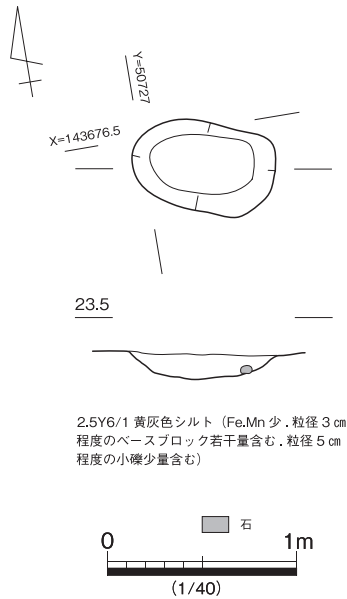
x=143660



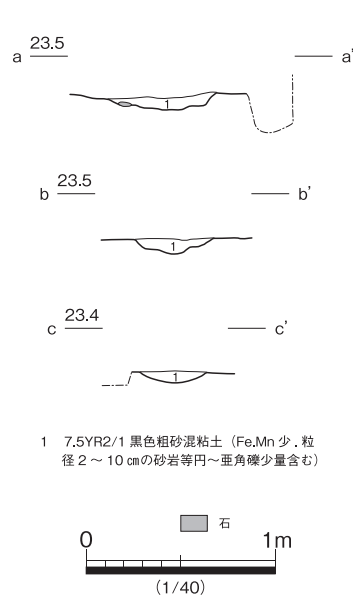
第 34 图 II 区平面图



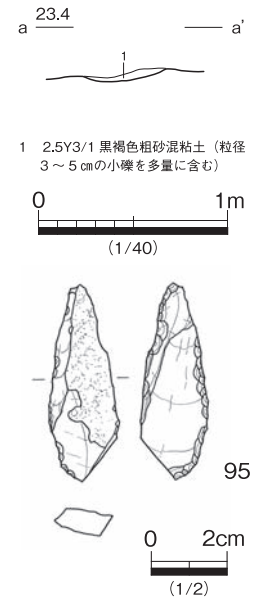
第36图 II区SB01平·断面图、出土遗物



第 37 図 II 区 SK01 平・断面図



第 38 図 II 区 SD01 断面図



第 39 図 II 区 SD02 断面図、出土遺物

溝状遺構

II 区 S D O 1 ・ O 2 (第 38 ・ 39 図)

II 区西部で検出した溝状遺構で、いずれも S R O 1 に合流し、S R O 1 と酷似した埋土が堆積しており、ほぼ同時期に埋没したことが想定される。

S D O 1 は、S R O 1 西岸付近を緩やかに屈曲して検出された小溝状遺構で、延長 13.35 m を確認した。流路方向は約 N 49° ~ 61° E、幅 0.34 ~ 0.55 m、残存深 0.06 ~ 0.08 m、断面形は概ね皿状を呈し、底面最深部の標高は 23.12 ~ 23.20 m で、高低差から北東方向に流下し S R O 1 に流入する。埋土は単層で、基本的に後述する S R O 1 上層と同じである。小礫を少量含むものの流水痕跡は確認されず、溝機能停止後穏やかな環境下で埋没したことが想定される。

遺物は、弥生土器小片が 1 点出土しているのみである。

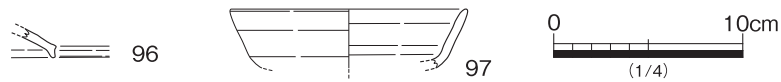
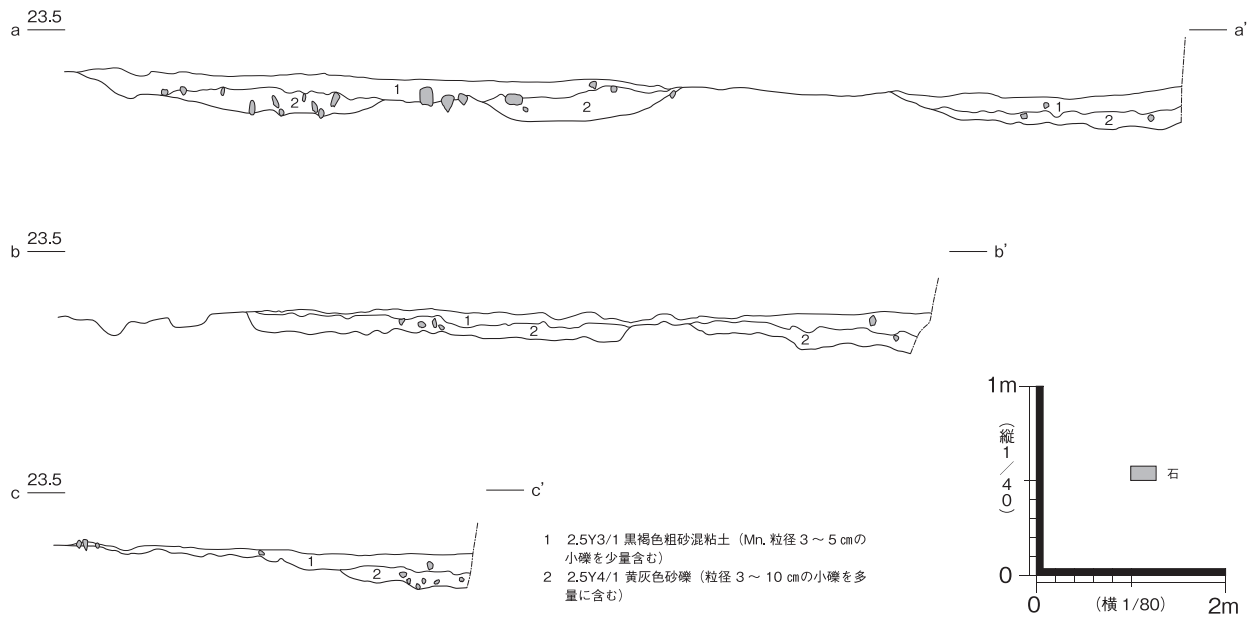
S D O 2 は、調査区中央部 S R O 1 西岸で検出した東西走る小溝状遺構で、削平のため延長 2.73 m を確認したにとどまる。流路方向は約 N 78° E、幅 0.44 m、残存深 0.05 m、断面形は皿状を呈し、底面最深部の標高は 23.07 ~ 23.14 m である。埋土は、後述する S R O 1 上層と同じで、堆積環境も S D O 1 と同じと考えられる。

遺物は、二次加工ある剥片 95 が出土している。

旧流路

II 区 S R O 1 (第 40 図)

II 区東半部において検出した埋没旧流路である。南北両端と東岸部は調査区外へ延長し、検出長は 27.6 m である。南半部で中州状にベース層の盛り上がり確認され、また後述する下層の堆積が途切れる部分もあり、複数の流路が分岐・合流し複雑に流下していたとみられる。流路方向は概ね N 30° E、流路幅 10.05 m 以上、残存深 0.15 ~ 0.2 m、底面最深部の標高は 23.04 ~ 23.15 m で、わずかな高低差な



第 40 図 II 区 SR01 平・断面図、出土遺物



第 41 図 II 区遺構外出土遺物

が北東方向へ流下していたと考えられる。

埋土は 2 層に分層された。上層は黒褐色粗砂混粘土で、既述した SD01・02 の埋土と共通し、低湿地状況下での自然堆積層と考えられる。下層は黄灰色砂礫層で、旺盛な水流下で堆積した、流路機能時の堆積層と考えられる。

遺物は、須恵器 96・97 が出土している。97 から 8 世紀の埋没と考えられる。

II 区遺構外出土の遺物 (第 41 図)

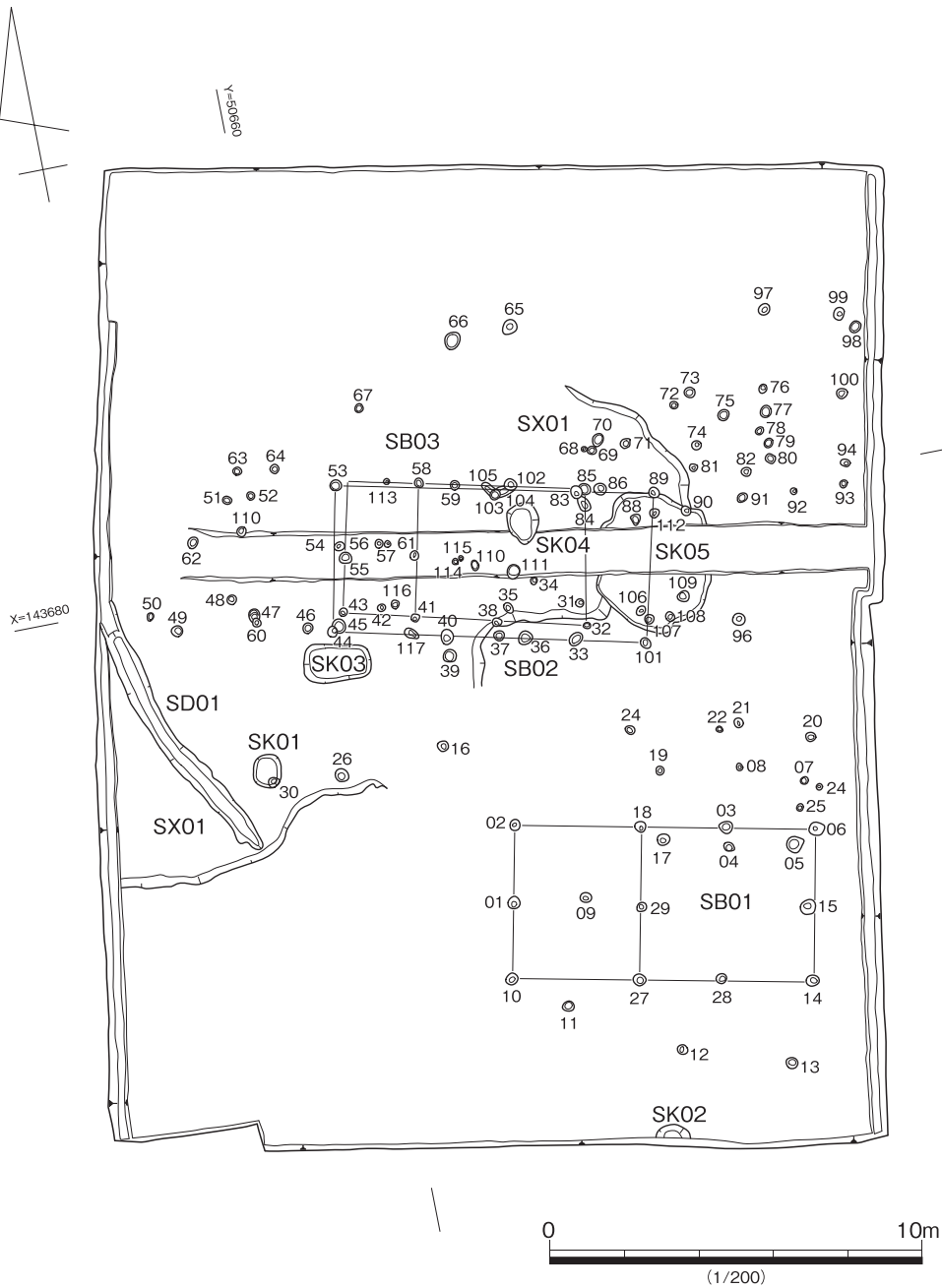
赤彩のある土師器皿 98 が、遺構検出時に出土している。

第3節 III区の調査

概要と基本土層（第42・43図）

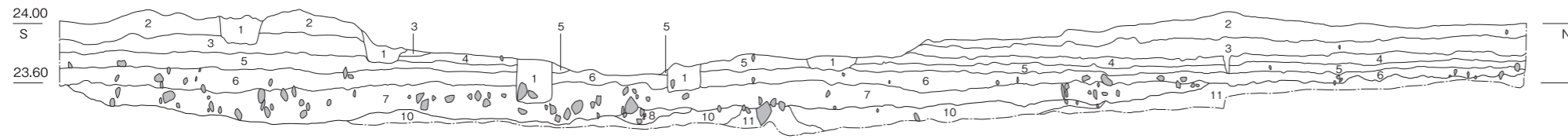
III区も、遺跡中央部に位置する調査区で、既述したII区とは西へ約43m隔たる。対象地の面積は約640㎡である。調査前は水田として利用されていた。現地表面の標高は、24.0～24.1mである。

土層序の観察は、調査区の東・北・西壁面において行った。現耕作土（第43図2層）の下位には、2～3層に細分される床土層及び旧耕作土層の水平堆積（同図3～5層）が認められ、これら耕土層を取り除くと、基本的には弥生時代以降の遺構面となる、灰黄褐色砂礫及び黄色系シルト層（同図10～

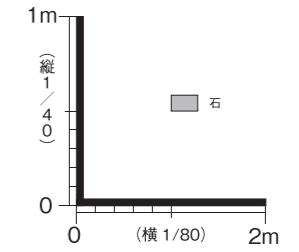
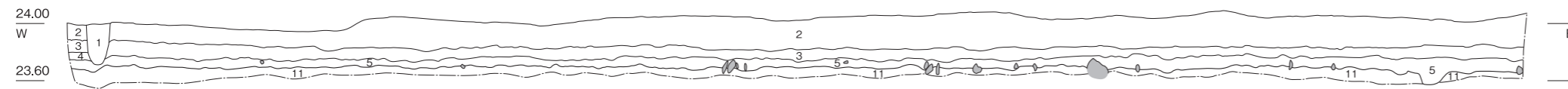


第42図 III区平面図

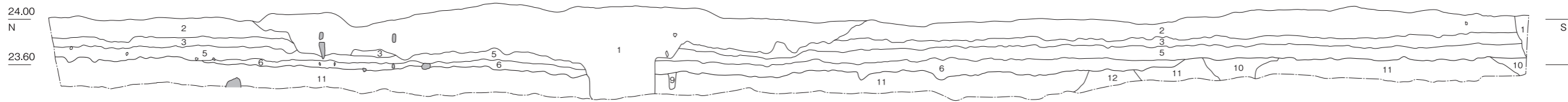
①Ⅲ区 西壁



②Ⅲ区 北壁



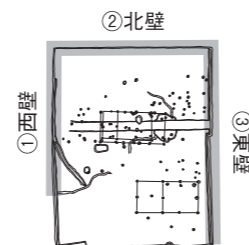
③Ⅲ区 東壁



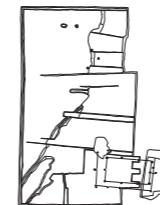
- 1 攪乱
- 2 耕作土
- 3 7.5Y6/1 灰色シルト (やや粘性あり) 旧耕作土
- 4 10YR7/6 明黄褐色シルト (Fe沈着, 粒径3cm程度の小礫少量含む) 床土
- 5 10YR5/8 黄褐色シルト (Fe, 粒径3cm程度の小礫を少量含む) 床土
- 6 10YR5/2 灰黄褐色シルト (Fe, Mn, 粒径3~10cmの砂岩等の円~垂角礫少量含む) 包含層
- 7 10YR3/2 黒褐色粗砂混粘土 (Fe, Mn, 弱粘質, 粒径3~10cmの砂岩等の円~垂角礫若干量含む) SX01埋土
- 8 10YR5/2 灰黄褐色粗砂混粘土 (Fe, Mn, 粗砂は少ない, 弱粘質, 粒径5cm以下のベースブロック一定量含む, 粒径3~5cmの小礫少量含む) SD01
- 9 2.5Y3/1 黒褐色粗砂混シルト (Mn, 砂少量混, 粒径3cm程度の小礫少量含む) Pit埋土
- 10 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (Mn, 粒径3~5cmの小礫少量含む) 地山
- 11 10YR4/2 灰黄褐色砂礫 (Mn, 粒径5~20cmの砂岩等の円~垂角礫を多量に含む) 地山
- 12 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト (Fe, やや粘性あり) 地山



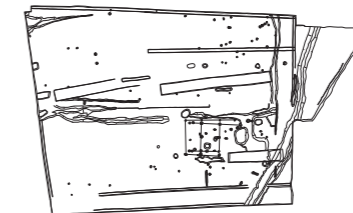
Ⅳ区



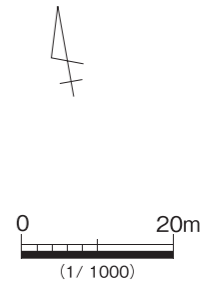
Ⅲ区



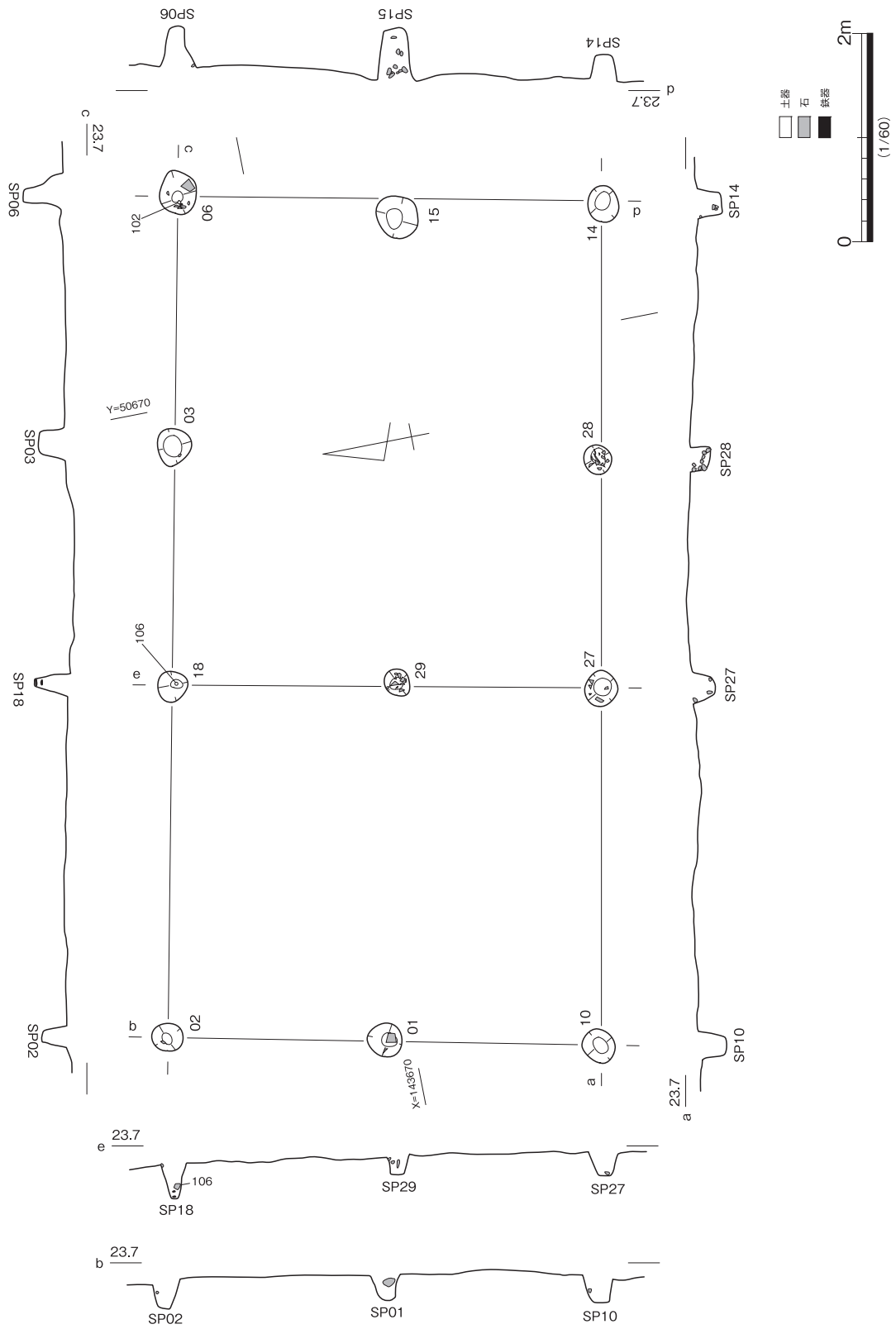
Ⅱ区



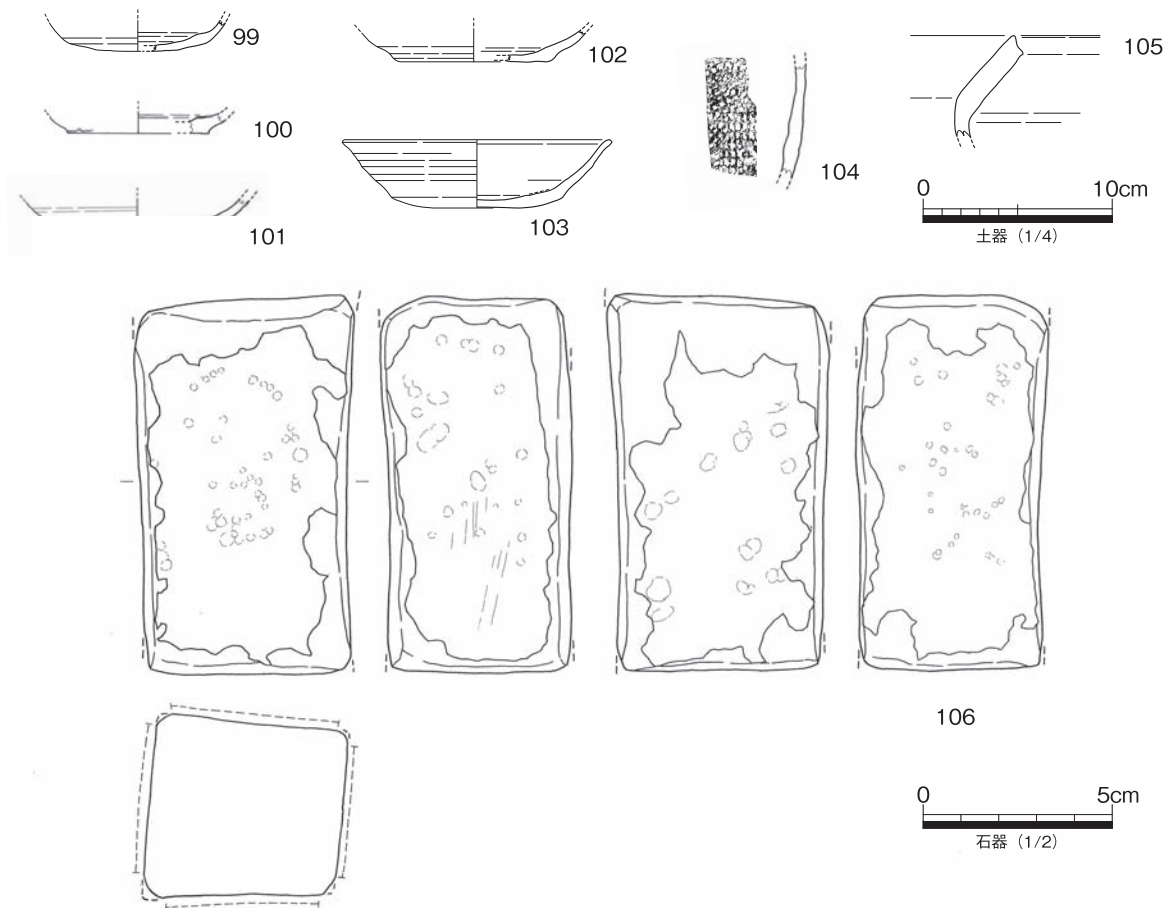
Ⅰ区



第43図 Ⅲ区調査区壁土層断面図



第 44 图 Ⅲ区 SB01 平・断面图



第45図 Ⅲ区SB01出土遺物

11層)が露出する。一方調査区南半部を中心に、耕土層下に最大厚0.15m程度のにぶい灰黄褐色シルト(同図6層)の水平堆積が確認された。本層下面より後述する掘立柱建物跡群や低地状落ち込み(SX01)などの遺構が掘り込まれている。その内容から浅い低地部を埋める自然堆積層の可能性が想定される。掘立柱建物跡群柱穴の残存深度には、0.2m前後と浅いものも一定数あり、遺構面は後世に大きく削奪されている可能性が想定される。なお遺構面の標高は、23.5～23.7mである。

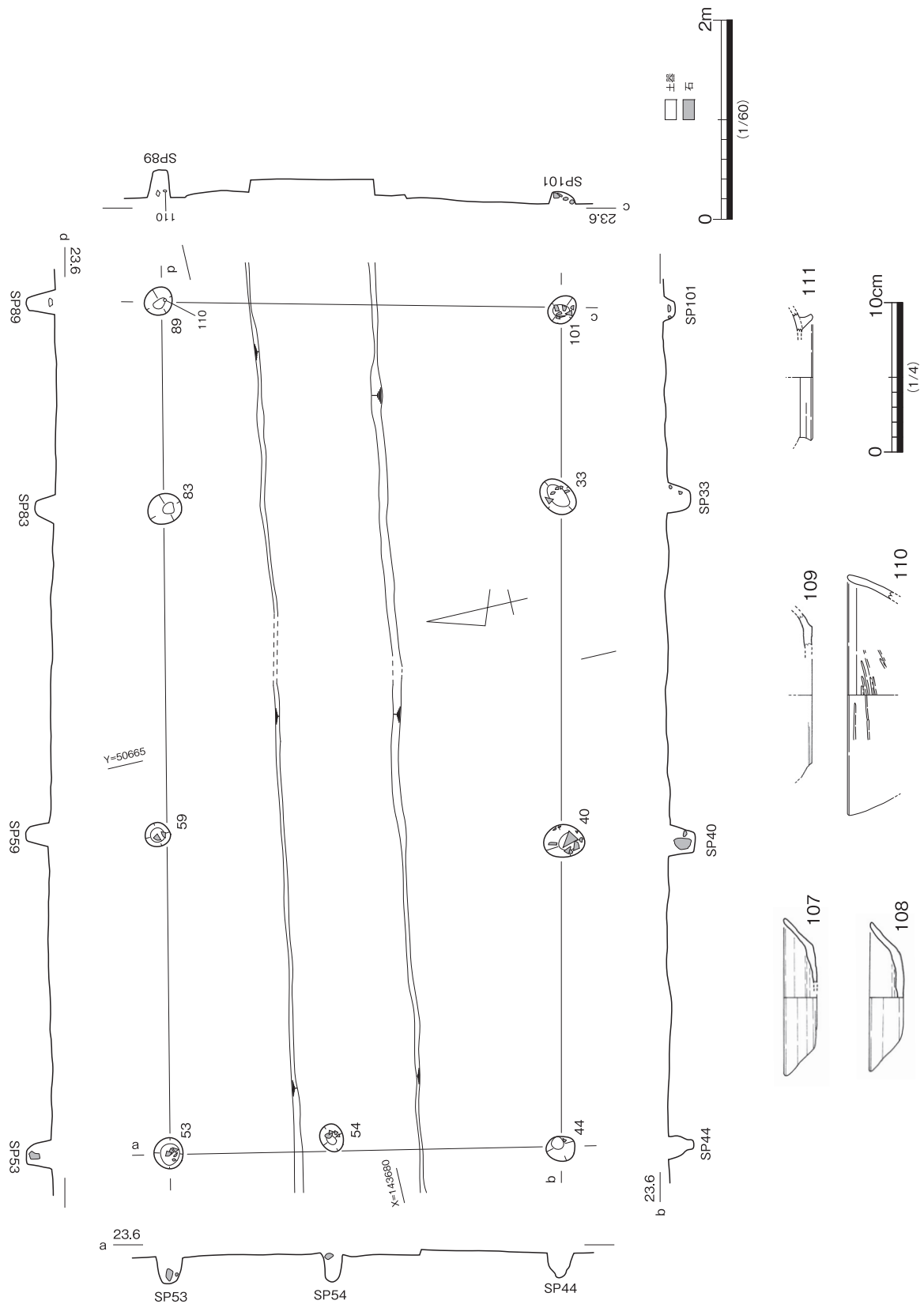
本調査区では、既述したように溝状遺構(SD01)及び3棟の掘立柱建物跡群(SB01～03)などが検出された。以下、各遺構について報告する。

掘立柱建物跡

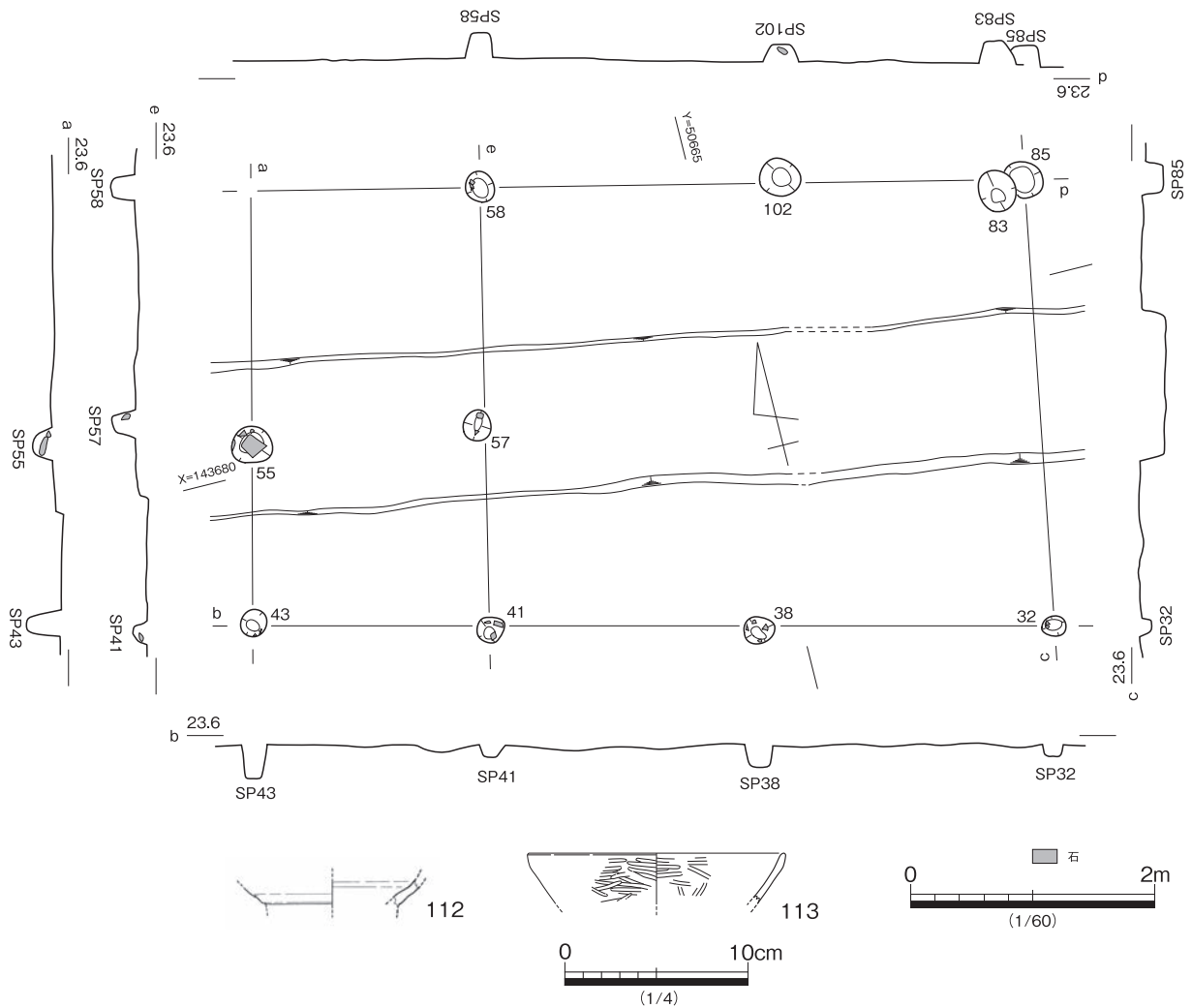
Ⅲ区SB01(第44・45図)

Ⅲ区南東部で検出した、東西棟側柱建物である。各柱穴は概ね整って配置され、主軸方位は周辺地割りの方向に合致する。柱穴内からは、多量の詰め石とみられる拳大程度の小礫が出土したが、これらは基本的にベース層に起因する自然礫であり、掘り方掘削時に得られた礫をそのまま転用した可能性が考えられる。この点は、本調査区で検出された他の掘立柱建物跡に共通する。

主軸方位は、N79°Wで、規模は梁行2間(4.1m)×桁行3間(8.1m)である。SP01からは、土師器杯99が出土している。SP02からは土師器杯101が出土している。SP06からは土師器杯



第 46 图 Ⅲ区 SB02 平・断面図、出土遺物



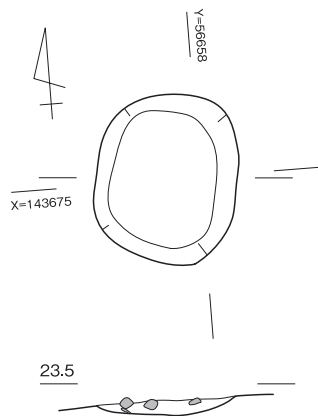
第47図 Ⅲ区SB03平・断面図、出土遺物

102、甕 105 が出土している。SP14の底面付近からは土師器杯 103 が1点出土している。またSP14からは須恵器壺 104 も出土している。SP18底面付近から鉄器2点と砥石1点 106 が出土している。SP29からは土師器杯 100 が出土している。建物は、杯 103 から11世紀頃の時期が考えられる。

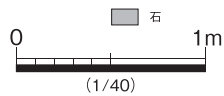
Ⅲ区SB02 (第46図)

Ⅲ区中央部で検出した、東西棟側柱建物である。桁方向の南北柱列には、多数の柱穴が配され、他の復元案も考えられたが、整合的な柱穴の位置関係を優先し、2間×3間の東西棟建物として報告する。柱穴の切り合い関係から、SB03・SK05・SX01より後出する。SB03とはほぼ重複して配され、主軸方向も概ね合致することから、建て直された可能性が想定される。

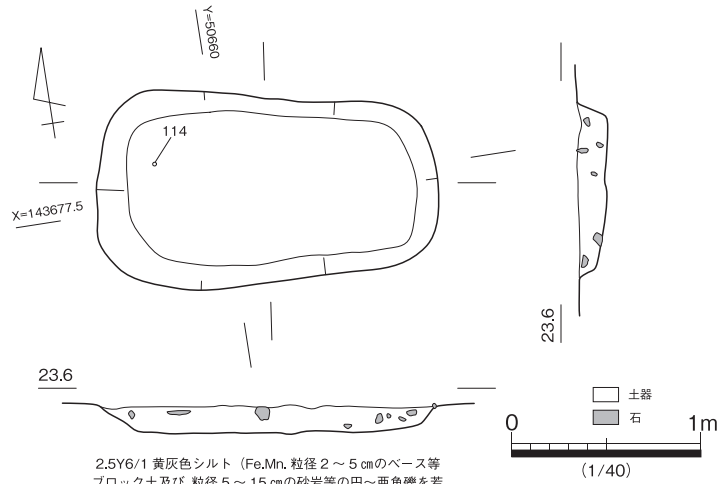
主軸方位はN77°Wで、規模は梁行2間(4.0m)×桁行3間(8.5m)である。SP89からは土師器杯 107・109、黒色土器B類椀 110 が出土している。SP53からは土師器杯 108 が出土している。SP40からは黒色土器A類椀 111 が出土している。建物の時期は、107、108 から11世紀頃と考えられる。



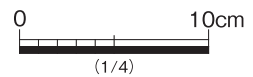
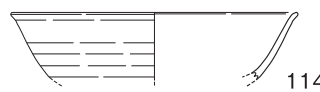
10YR4/1 褐灰色シルト (Fe. 粒径 3 ~ 12 cm の砂岩等の円～垂角礫やや多量に含む, 粒径 3 cm 程度のベースブロック若干量含む)



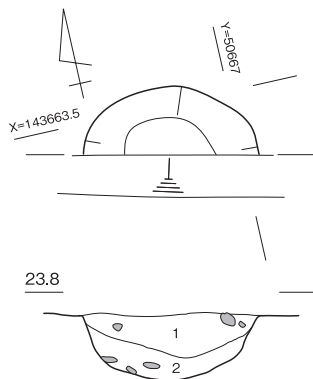
第 48 図 Ⅲ区 SK01 平・断面図



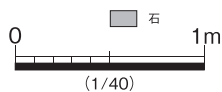
2.5Y6/1 黄灰色シルト (Fe.Mn. 粒径 2 ~ 5 cm のベース等ブロック土及び、粒径 5 ~ 15 cm の砂岩等の円～垂角礫を若干量含む, 炭化物粒少量含む)



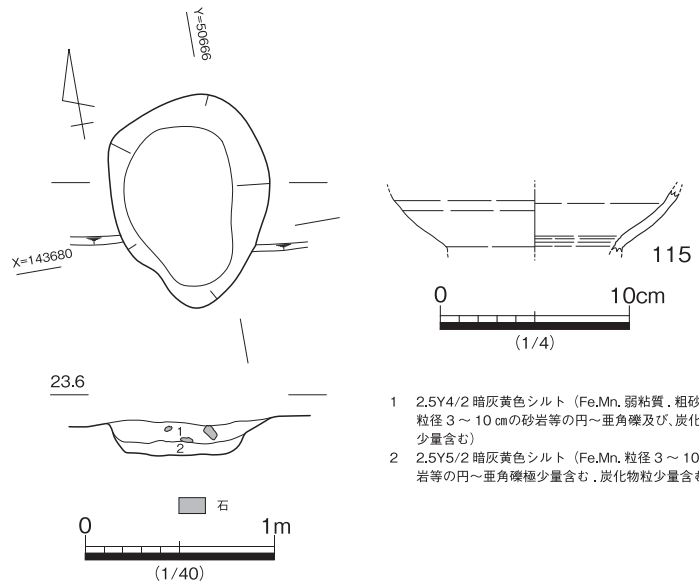
第 50 図 Ⅲ区 SK03 平・断面図、出土遺物



- 1 10YR5/2 灰黄褐色粘土 (Mn. ややシルト質, 粒径 3 ~ 10 cm の砂岩等の小礫を若干量含む)
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (Mn. 粒径 3 ~ 10 cm の小礫を若干量含む)



第 49 図 Ⅲ区 SK02 平・断面図



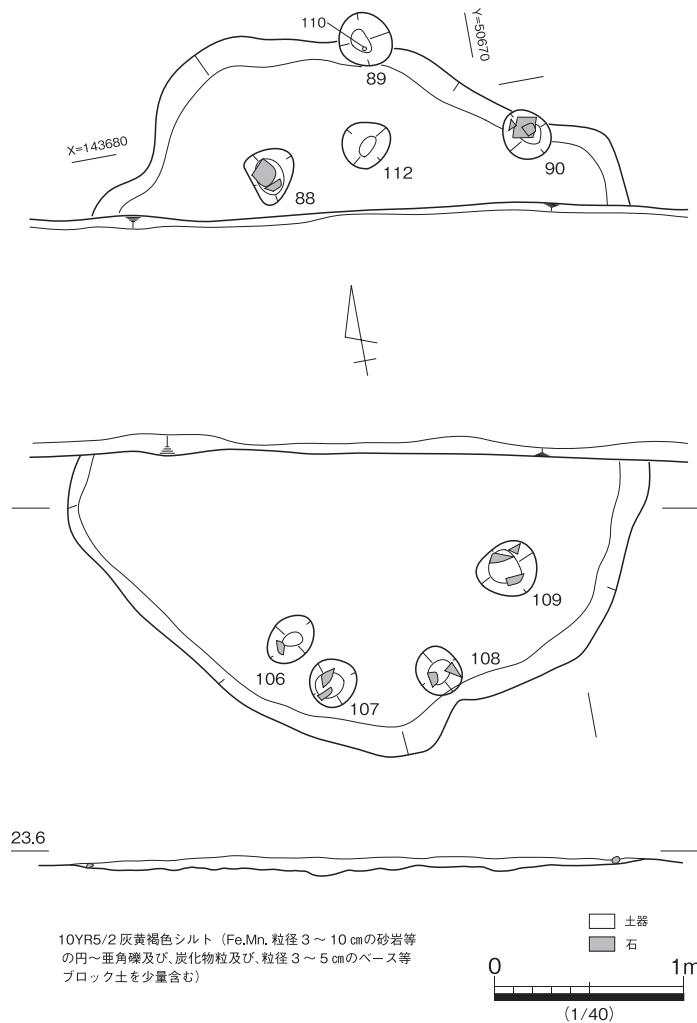
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト (Fe.Mn. 弱粘質, 粗砂, 粒径 3 ~ 10 cm の砂岩等の円～垂角礫及び、炭化少量含む)
- 2 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (Fe.Mn. 粒径 3 ~ 10 cm の砂岩等の円～垂角礫極少量含む, 炭化物粒少量含む)

第 51 図 Ⅲ区 SK04 平・断面図、出土遺物

Ⅲ区 S B 0 3 (第 47 図)

Ⅲ区中央部で検出した、東西棟側柱建物である。柱穴の切り合い関係から、S B 0 2 より先行し、S X 0 1 より後出する。既述したように、S B 0 2 の前身建物と考えられる。北西隅柱を欠く。

主軸方位は、N77° W で、規模は梁行 2 間 (3.6 m) × 桁行 3 間 (6.4 m) である。S P 5 8 からは土師器杯 112 が出土している。S P 1 0 2 から土師器碗 113 が出土している。



第 52 図 Ⅲ区 SK05 平・断面図

土坑

Ⅲ区 SK01 (第 48 図)

Ⅲ区西部で検出した。SP30と重複するが、切り合い関係よりSP30より後出する。平面プランは整った隅丸方形ないし楕円形を呈し、断面形は浅い逆台形状を呈する。埋土は単層で、ベース層のブロック土が若干量混入し、人為的に埋め戻された可能性が想定される。

遺物は出土していない。

Ⅲ区 SK02 (第 49 図)

Ⅲ区南端部で検出した。南半部は調査区外へ延長し、北半部のみ調査した。検出範囲より、平面形は径 1.0 m 程度の略円形を呈するものと考えられる。埋土は 2 層に細分されたが大差はなく、いずれもベース層に酷似し、人為的に埋め戻された可能性が高いと判断された。

遺物は、土師器小片が 5 点出土しているのみである。

Ⅲ区 SK03 (第 50 図)

Ⅲ区中央西より、SB02南西部で検出した。平・断面形とも安定した形状を呈する。埋土は単層で、ベース層のブロック土が若干量混入し、人為的に埋め戻された可能性が想定される。

遺物は、灰釉陶器椀 114 のほか土師器小片が出土している。灰釉陶器は、9 世紀後半の K90 窯式と考えられる。

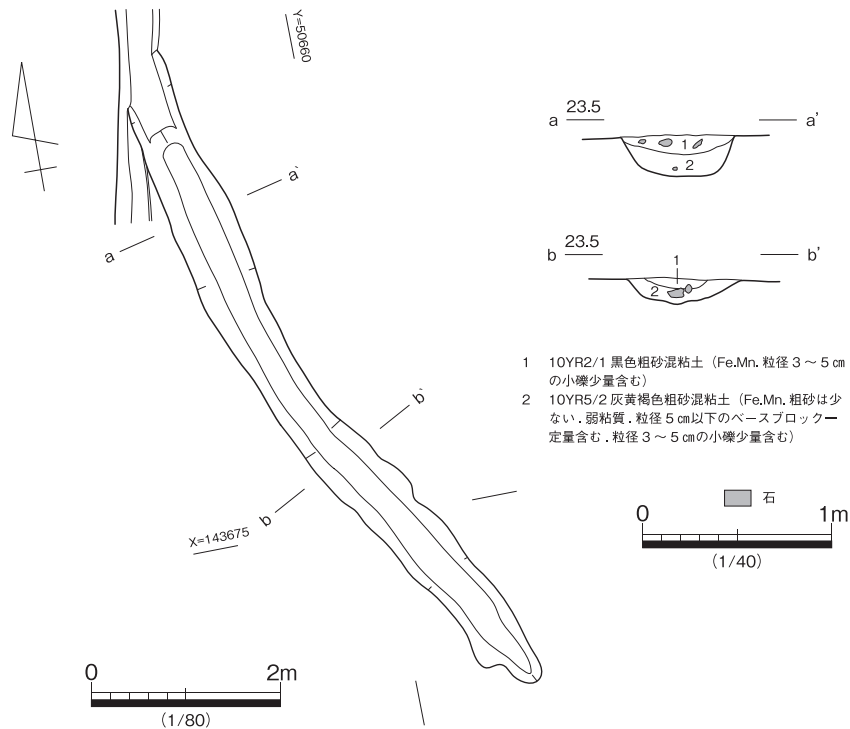
Ⅲ区 SK04 (第 51 図)

Ⅲ区中央部で検出した。南端部を試掘トレンチにより攪乱を蒙るが、全形は判断された。埋土は 2 層に細分され、それぞれ概ね水平に堆積する。両層とも大差はなく、いずれもベース層に酷似し、人為的に埋め戻された可能性が高いと判断された。

遺物は土師器杯 115 のほか、須恵器小片 2 点、土師器小片 20 点程度出土している。

Ⅲ区 SK05 (第 52 図)

Ⅲ区中央東よりで検出した、浅い落ち込みである。SB02と重複し、切り合い関係よりSB02よ



第 53 図 III 区 SD01 平・断面図

り先行する。平面形は整った形状を呈さず、底面には起伏が顕著に認められる。埋土は単層で、極少量のベース層のブロック土を混入するものの、均質な土壌で充填されており、人為的な遺構ではなく、自然地形の可能性が高いと判断された。

遺物は、須恵器小片 2 点、土師器小片 10 点が出土している。

溝状遺構

III 区 S D 0 1 (第 53 図)

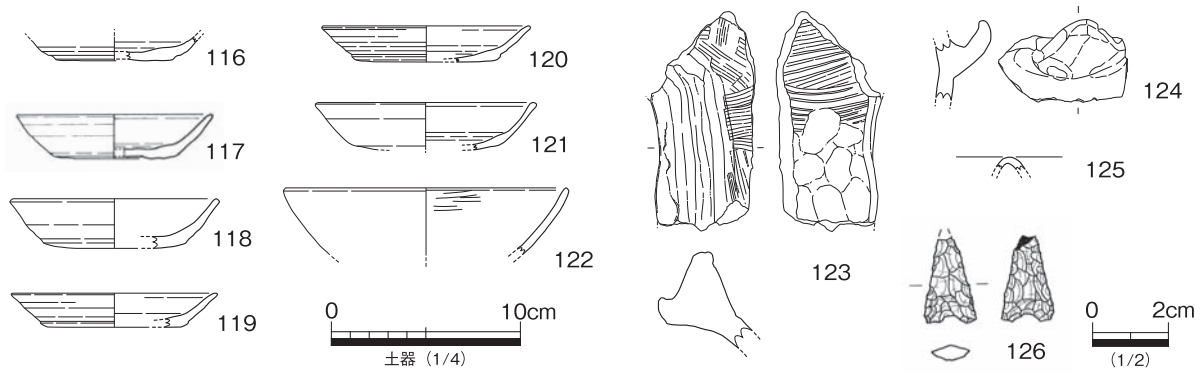
III 区西端、S X 0 1 底面で検出した小溝状遺構である。切り合い関係より S X 0 1 より先行する。北端は調査区外へ延長し、全長 8.29 m を検出した。緩やかに屈曲し、流路方向約 N 12° ~ 30° W、幅 0.6 ~ 0.62 m、残存深 0.11 ~ 0.22 m、断面形は概ね皿状ないし逆台形状を呈する。底面最深部の標高は 23.3 ~ 23.4 m で、高低差より北西方向へ流下すると考えられる。埋土は 2 層に細分された。下層(第 53 図 2 層)は、ベース層のブロック土が一定量混入し、人為的に埋め戻された可能性が高いと判断された。上層(同図 1 層)は、下層堆積後の溝上面に生じた窪地に堆積した自然堆積層と考えられる。

遺物は、弥生土器、土師器、須恵器の小片が 1 点ずつ出土しているのみである。

性格不明遺構

III 区 S X 0 1

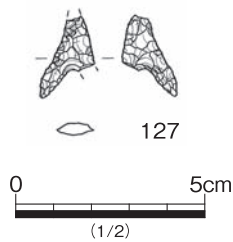
III 区中央西半部で検出した、不定形な落ち込みである。一定の平面規模や残存深があり、埋没旧流路の一部や窪地形を埋める堆積層など、自然地形の一部である可能性が想定される。残存深は 0.25 m 前後で、底面最深部の標高 23.32 m、断面形は緩やかな皿状を呈し、底面には起伏がやや顕著に認めら



第54図 Ⅲ区ピット出土遺物

れる。埋土は単層で、低湿地状況下での自然堆積の可能性が高いと判断された。

遺物は、少量の土師器、須恵器の小片と黒色土器A類碗1点が出土している。



第55図 Ⅲ区遺構外出土遺物

Ⅲ区ピット出土の遺物（第54図）

116～126はピットから出土した遺物である。土師器杯からいずれのピットもほぼ同じ時期と考えられる。125は灰釉陶器と考えられる。土師器足釜や小皿が出土していないことから、下限は13世紀前半と考えられる。

Ⅲ区遺構外出土の遺物（第55図）

127は床土から出土した石鎌である。

第4節 IV区の調査

概要と基本土層（第56・57図）

IV区は、遺跡西端部に位置する調査区で、既述したⅢ区とは西へ約95m隔たる。対象地の面積は約853㎡である。調査前は水田として利用されており、現地表面の標高は23.8m前後である。

土層序の観察は、調査区の北壁面において行った。現耕作土（第57図1層）の下位には、床土層（同図4層）及び旧耕作土層（同図3層）の水平堆積が認められ、これら耕土層を取り除くと、基本的には弥生時代以降の遺構面となる、明黄褐色粘土層（同図24層）が露出する。遺構面の標高は、23.2～23.4mである。

調査区の大半は旧流路跡であるSX01及びSX02及びその間で掘削されたSD01により占められている。旧流路跡は、高橋学氏による旧流路Bにあたり、古墳時代中期から古代前半に埋没が進行したとされている（註）。なお24層は、放射性炭素年代測定の結果、弥生時代前期の層と考えられる（第4章）。本調査区では、古代の溝状遺構（SD01、02）や土坑が検出された。以下、各遺構について報告する。（山下）

（註） 高橋学「高松平野の地形環境 ―弘福寺領山田郡田図比定地付近の微地形環境を中心に―」『讃岐国弘福寺領の調査』高松市教育委員会 1992

土坑

IV区SK01～03（第58・59・60図）

調査区南西隅部で検出した土坑群である。平面規模が掘削深度、埋土の特徴等は概ね共通することから、近似した性格を有する遺構群と判断される。いずれも床土層（調査区北壁4層）下面で検出し、後述するSX01最上層をベースとして掘り込まれている。

埋土は単層もしくは2層に細分され、ベース層ブロック土の混在などから、人為的な埋め戻し土と想定される。とくにSK01下層やSK03では、埋土中に多量の礫が混在しており、耕地化に伴う廃棄土坑と想定される。遺物は、いずれも礫群に混在するように出土している。

SK01からは近世以降の遺物が出土している。

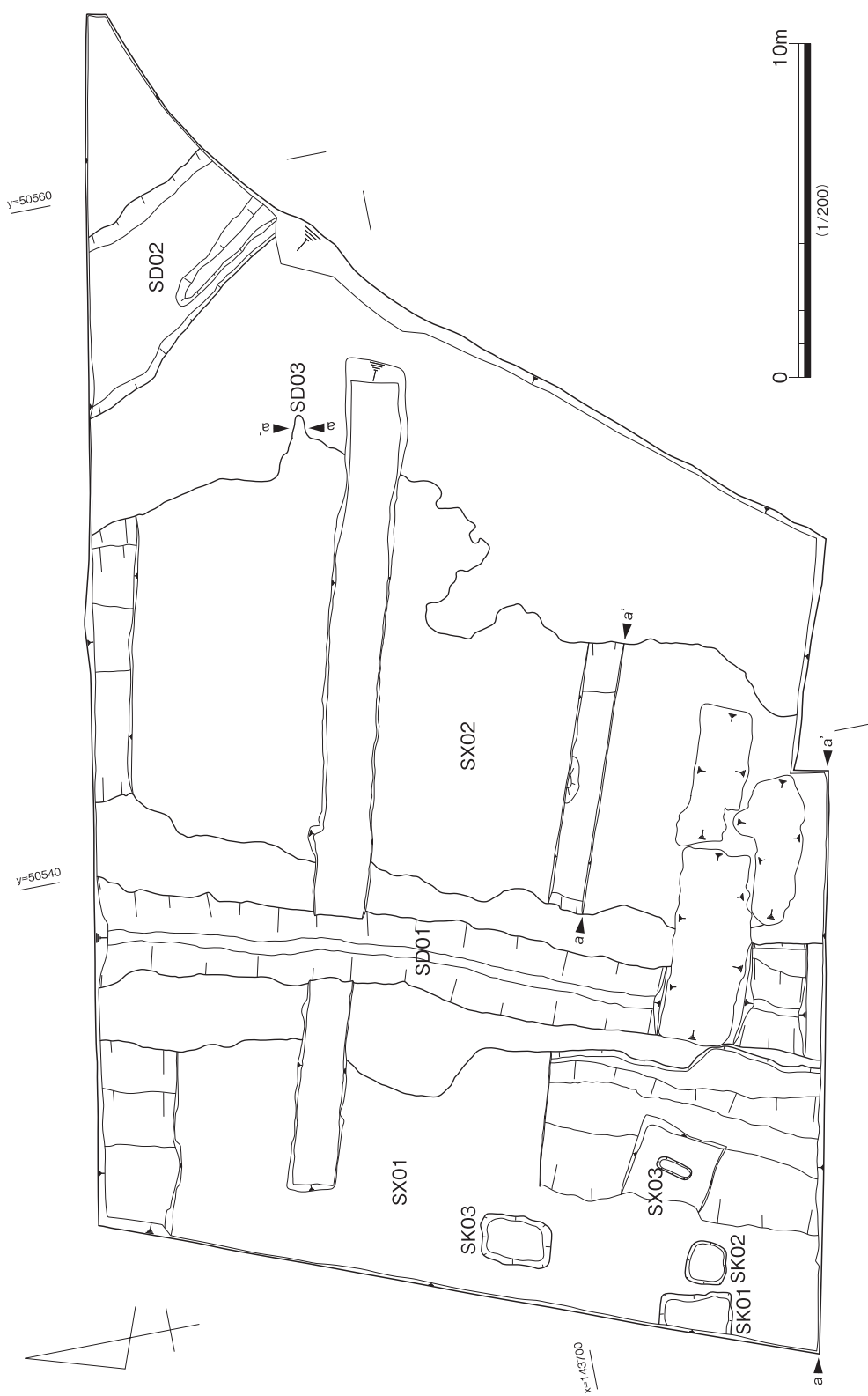
SK02からは磨滅した弥生土器や須恵器が出土している。

SK03からは弥生土器、土師器、須恵器が出土している。128は土師器の釜である。129は須恵器甕である。

溝状遺構

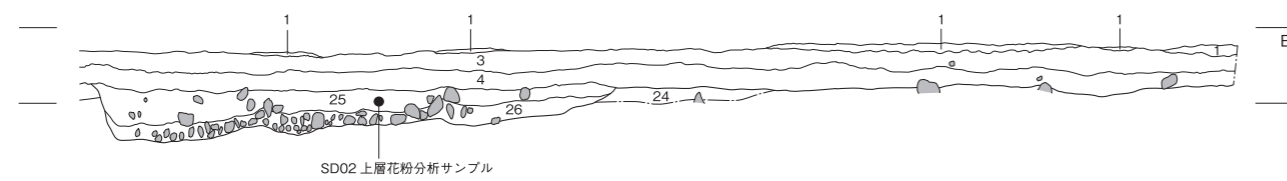
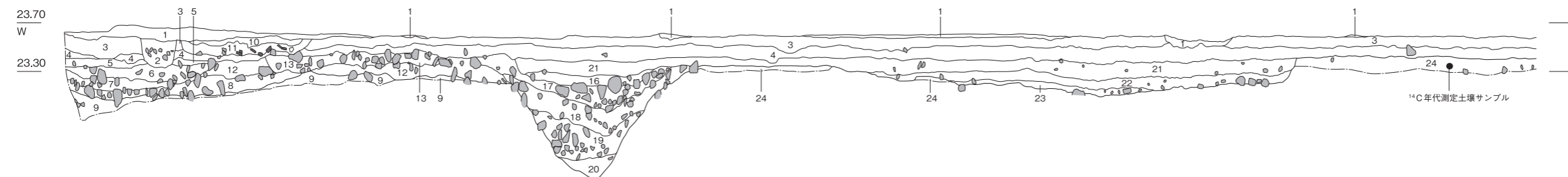
IV区SD01（第61・62・63・64図）

旧流路と考えられるSX01とSX02の間に掘削された溝状遺構である。埋土は6層に分けられている。北壁断面では、SD01の最上層の上部は、SX02の上層と連続し、最終埋没は同じ時期と考えられる。またSD01上・中層は北壁断面の12層より新しく、この12層はSX01の最下層よりは新しく、上層礫層よりは古いことから、SD01上層とSX01上層礫層は同じ時期の可能性はある。SD01の開削時期は、少なくともSX01、02が埋没した後ではなく、SX01、02とほぼ同じ

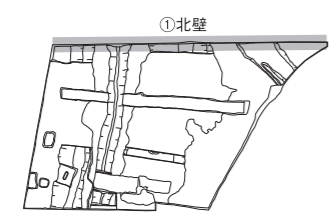
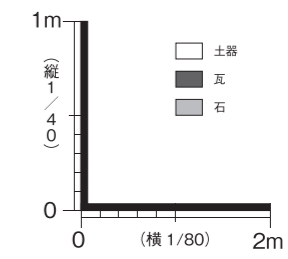


第 56 图 IV区平面图

①IV区 北壁



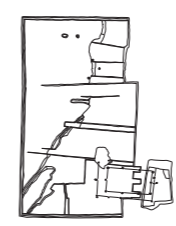
- 1 耕作土
- 2 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土 (粒径 3 ~ 7 cm の砂岩等の円~垂角礫と 3 層ブロック土を多量に含) 近・現代土埋土
- 3 2.5Y6/1 黄灰色シルト (Fe, 粒径 3 cm 程度の円礫を極少量含む) 旧耕作土
- 4 10YR6/8 明黄褐色粘土 (Fe, Mn 含) 床土
- 5 10YR3/1 黒褐色粘土 (Fe, Mn 含, やや強粘質) SX01 最上層
- 6 5Y6/1 灰色粗砂礫 (粒径 2 ~ 25 cm の砂岩を主とした円~垂角礫を多量に含む) SX01 上層礫層
- 7 7.5YR3/1 黒褐色粘土 (Fe, 粒径 3 ~ 20 cm の砂岩等の円~垂角礫を少量含む) SX01 中層
- 8 7.5YR3/2 黒褐色粗砂混粘土 (Fe, Mn, 粒径 3 ~ 20 cm の砂岩等の円~垂角礫を若干量含む) SX01 中層
- 9 7.5YR5/4 にぶい褐色粘土 (Fe, Mn 多, ややシルト質) 地山
- 10 10YR7/4 にぶい黄褐色粘土 (Fe, やや弱粘質, 粒径 3 cm 程度の小円礫極少量含む) 近・現代土埋土
- 11 10YR5/2 灰黄褐色シルト (Fe 少, 粒径 3 ~ 5 cm の小円礫, 瓦, 焼土等を多量に含む) 近・現代土埋土
- 12 10YR5/2 灰黄褐色シルト (Fe, Mn, 粒径 3 ~ 5 cm の小円礫少量含む) SX01 下層
- 13 10YR4/1 褐灰色粗砂質土 (Fe, Mn, 粒径 3 ~ 30 cm の砂岩等の円~垂角礫を多量に含む) 洪水礫層
- 14 欠
- 15 欠
- 16 10YR4/1 褐灰色粘土 (Fe, やや強粘質, 粒径 3 ~ 8 cm の砂岩等の円礫を少量含む) SD01 最上層
- 17 10YR4/2 灰黄褐色粗砂質土 (Mn, 粒径 3 ~ 20 cm の砂岩等の円~垂角礫をやや多量に含む) SD01 上層
- 18 10YR4/1 褐灰色粘土 (Fe, 粒径 3 ~ 10 cm の砂岩等の円礫を若干量含む) SD01 中層
- 19 2.5Y6/2 灰黄色シルト (粒径 3 ~ 20 cm の砂岩等の円礫をやや多量に含む) SD01 下層
- 20 2.5Y6/3 にぶい黄色中~粗砂 (粒径 3 ~ 10 cm の砂岩等の円礫を若干量含む) SD01 最下層
- 21 7.5YR4/2 灰褐色粘土 (Fe, Mn, わずかに粗砂混, 粒径 2 ~ 5 cm の小円礫少量含む) SD01 最上層・SX02 上層
- 22 10YR3/1 黒褐色粘土 (Fe, Mn, やや強粘質, 粒径 2 ~ 10 cm の砂岩等円~垂角礫少量含む) SX02 上~下層
- 23 10YR4/2 灰黄褐色粘土 (Fe, わずかに粗砂混, 粒径 3 ~ 20 cm の砂岩等の円~垂角礫少量含む) SX02 下層
- 24 10YR7/6 明黄褐色粘土 (Fe, Mn, ややシルト質, 粒径 5 ~ 20 cm の砂岩等の円~垂角礫少量含む) 地山
- 25 10YR4/2 灰黄褐色粘土 (Fe, Mn, やや強粘質, 粒径 5 ~ 20 cm の砂岩等の円~垂角礫少量含む) SD02 上層
- 26 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土 (Fe, 西半部で粗砂やや多く混じる, 粒径 3 ~ 20 cm の砂岩等の円~垂角礫多量含む) SD02 下層



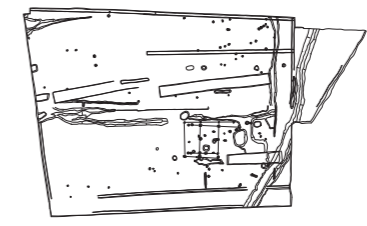
IV区



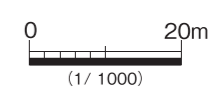
III区



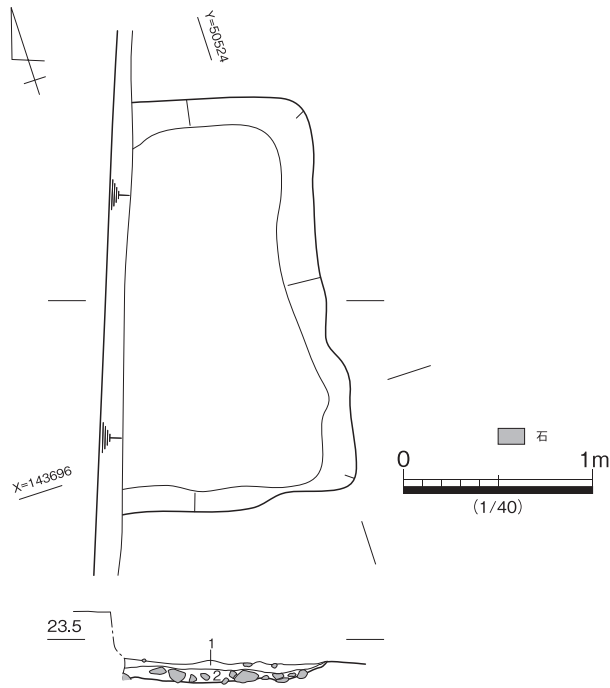
II区



I区

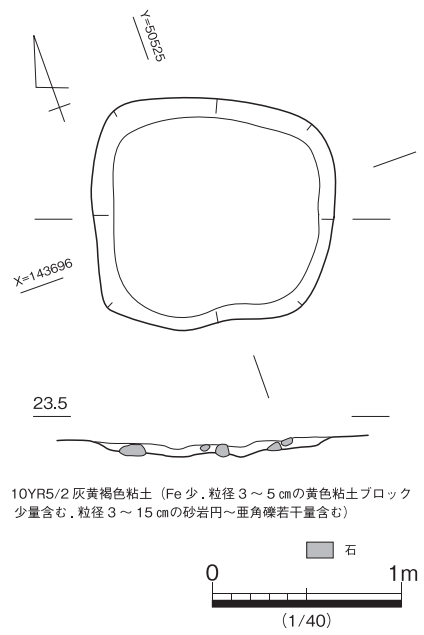


第 57 図 IV区調査区壁土層断面図



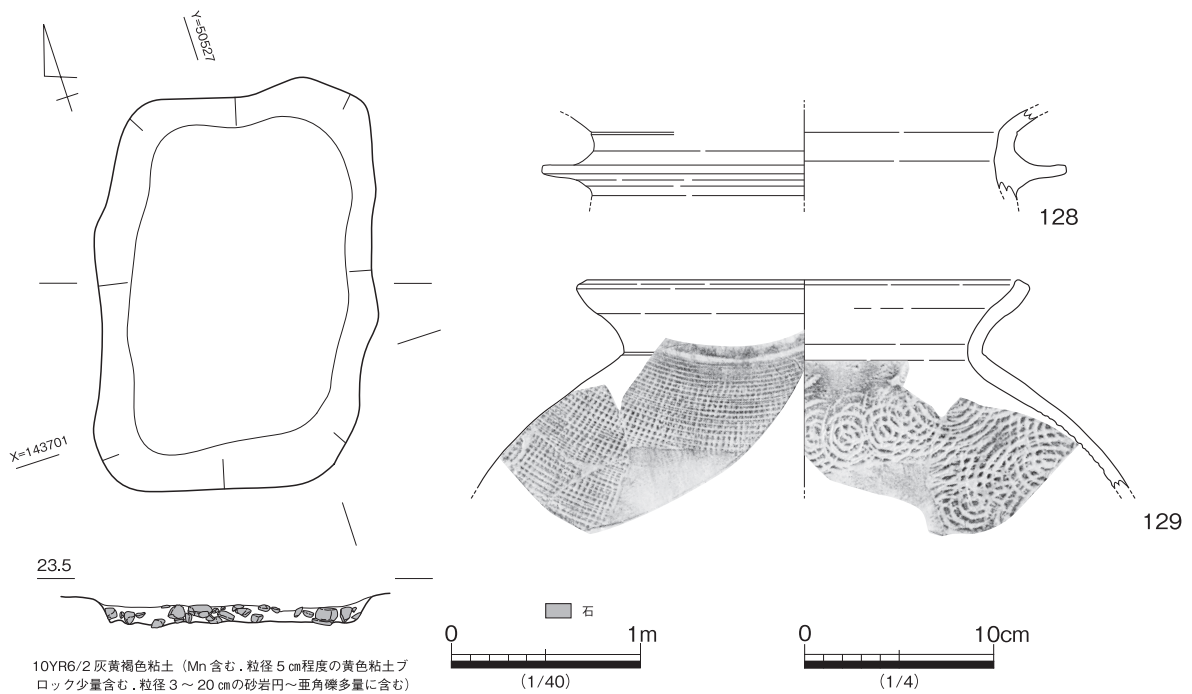
- 1 10YR5/2 灰黄褐色細砂 (粒径 3 ~ 10 cm の砂岩円～亜円礫少量含む、遺物多い)
- 2 10YR4/2 灰黄褐色細砂質土 (Fe. 粒径 5 ~ 15 cm の砂岩円～亜角礫多量に含む)

第 58 図 IV区 SK01 平・断面図



10YR5/2 灰黄褐色粘土 (Fe 少、粒径 3 ~ 5 cm の黄色粘土ブロック少量含む、粒径 3 ~ 15 cm の砂岩円～亜角礫若干量含む)

第 59 図 IV区 SK02 平・断面図



10YR6/2 灰黄褐色粘土 (Mn 含む、粒径 5 cm 程度の黄色粘土ブロック少量含む、粒径 3 ~ 20 cm の砂岩円～亜角礫多量に含む)

第 60 図 IV区 SK03 平・断面図、出土遺物

時期の可能性もある。(山下)

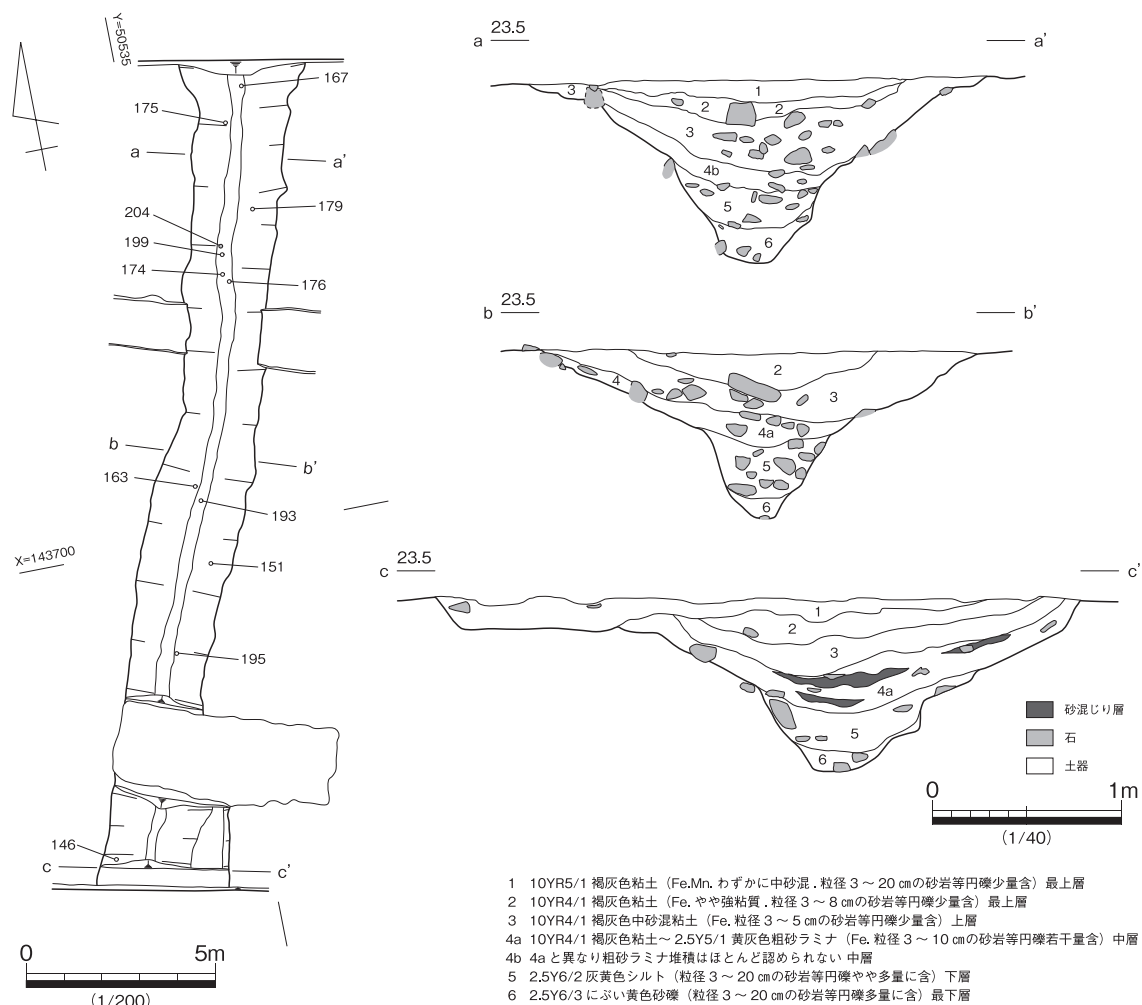
130～143は、SD01最上層から出土した土器である。130～140は須恵器で、最も新しいと考えられるのは、133の須恵器杯で、佐藤編年Ⅲ-1段階9世紀後葉の時期である。141～143は土師器である。

144～169は上層出土土器である。144～149は須恵器杯である。150は土師器杯である。151・152は高台付杯である。153～157は須恵器皿である。158～163は須恵器壺、甕である。164～169は土師器である。最も新しいものは148、153で、佐藤編年Ⅲ-1段階9世紀後葉と考えられる。

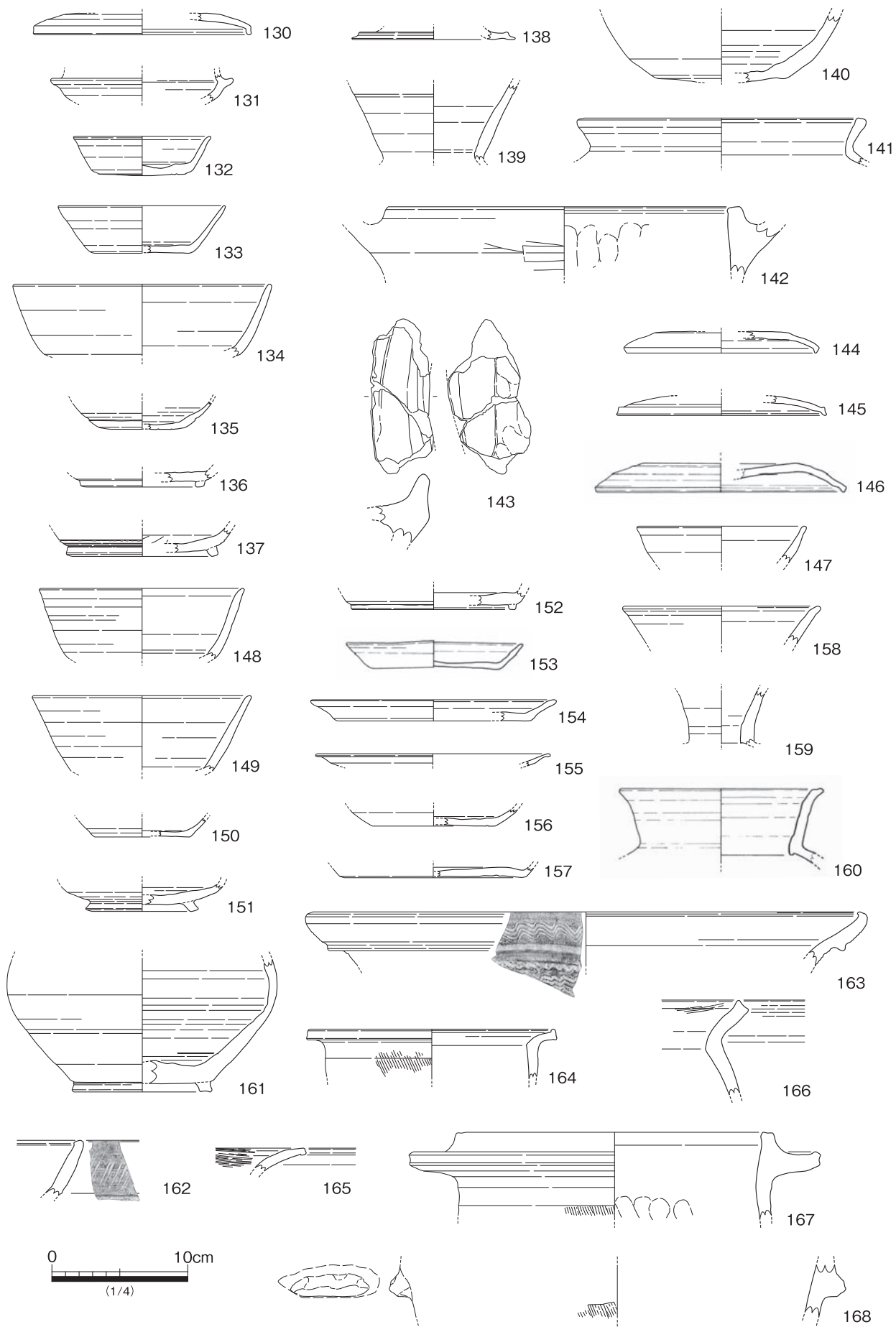
170～185は中層出土土器である。170～182は須恵器である。183～185は土師器である。いずれも奈良時代のものと考えられる。172は、中村浩氏の陶器編年Ⅳ-3段階(8世紀後半)のもので、金属器の佐波理椀を模倣した器形である。

186～202は下層出土の土器である。186～192は須恵器である。193～202は土師器である。191が最も新しいものと考えられ、佐藤編年Ⅱ-2段階で8世紀中葉の時期が考えられる。

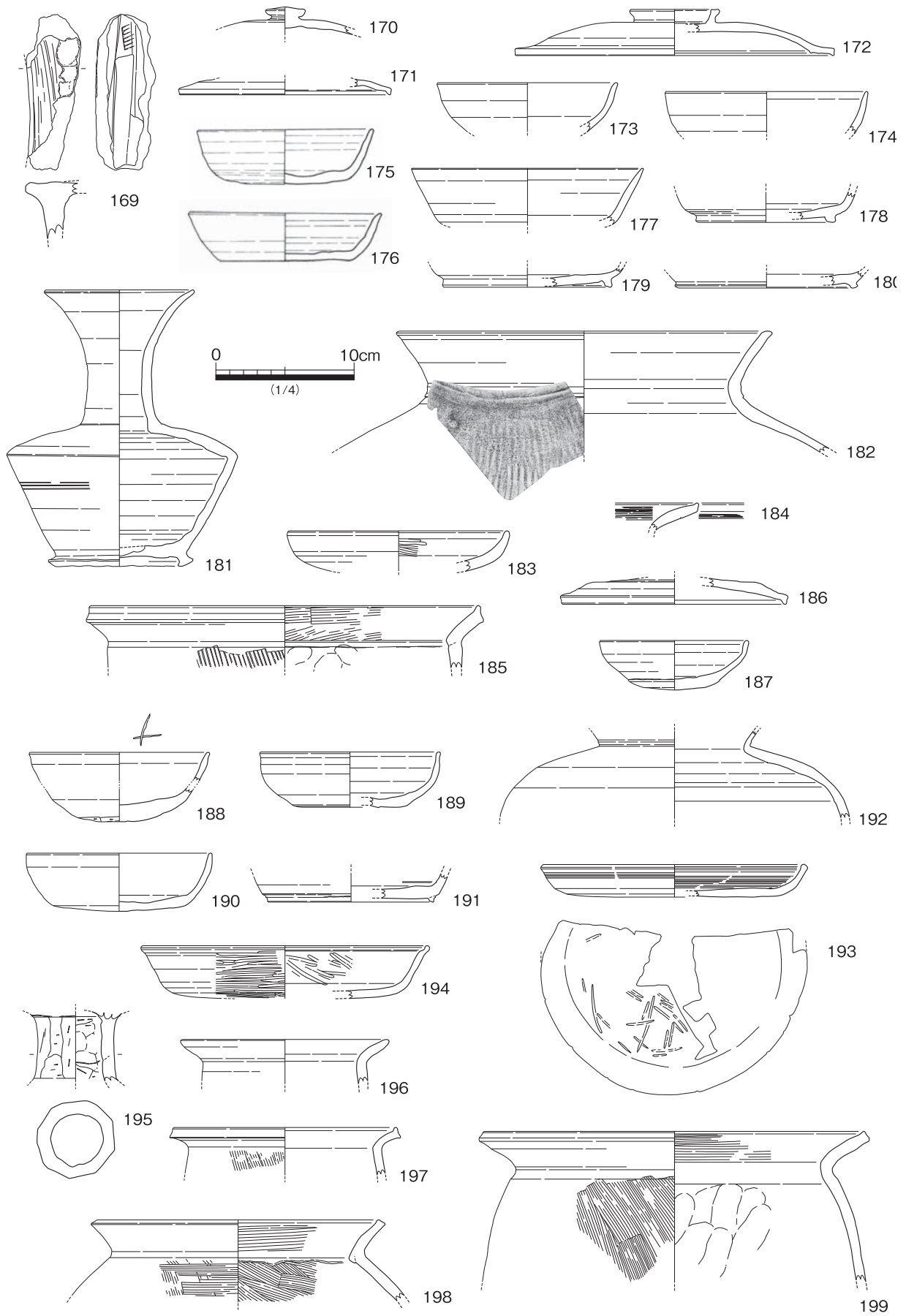
203は土層観察用畔の上面で出土した須恵器である。204は中層から出土した石鏃である。205は中層から出土した鉄製刀子と考えられる。



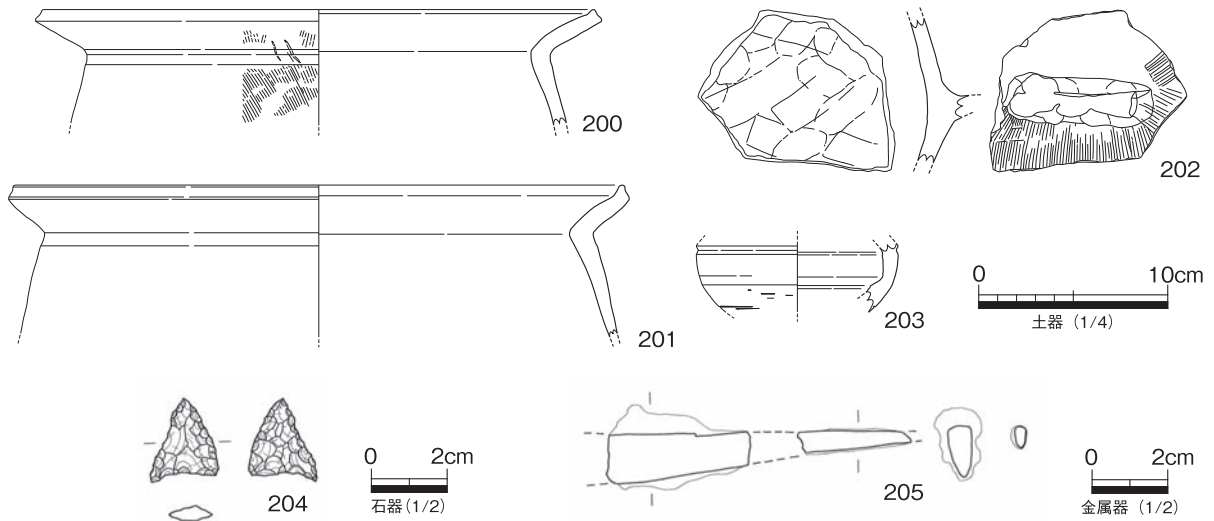
第61図 IV区 SD01 平・断面図



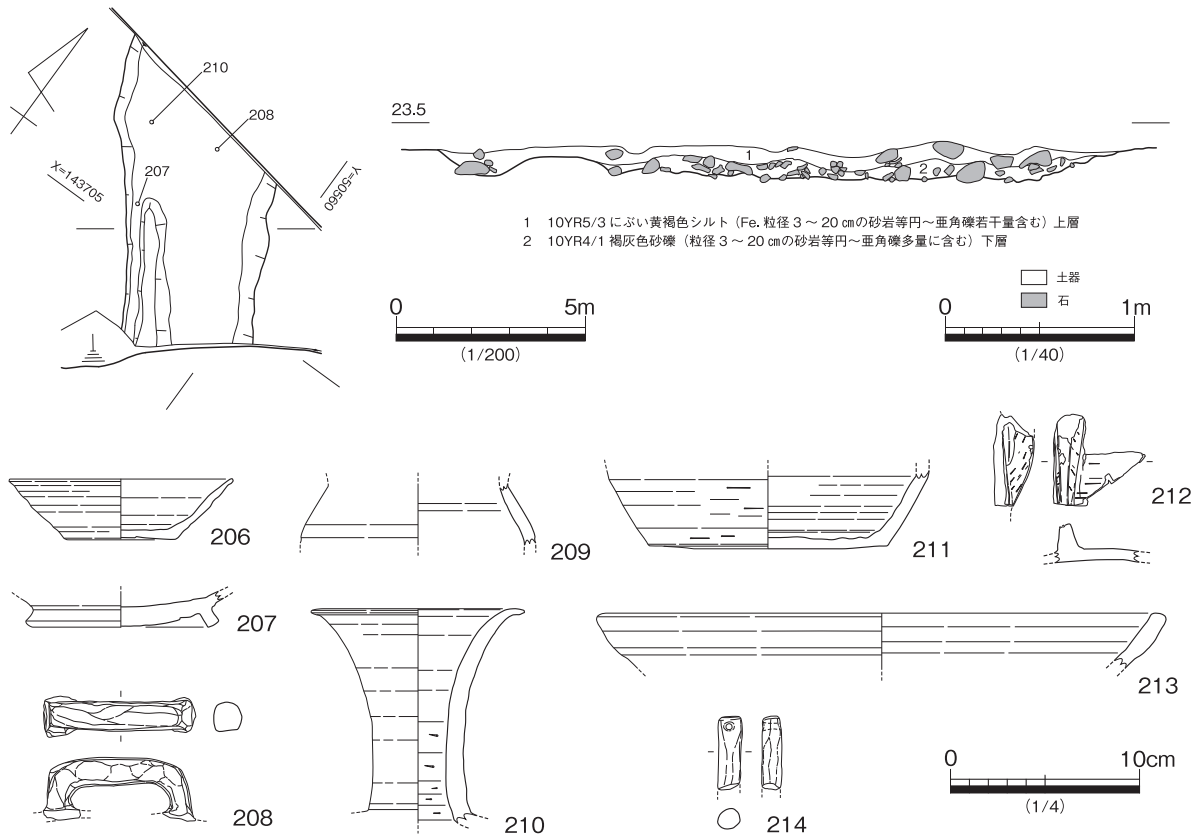
第 62 图 IV区 SD01 出土遗物 (1)



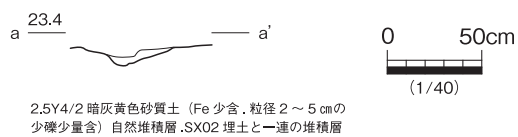
第 63 图 IV区 SD01 出土遺物 (2)



第64図 IV区 SD01 出土遺物 (3)



第65図 IV区 SD02 平・断面図、出土遺物



第66図 IV区 SD03 断面図

IV区SD02（第65図）

細い流路が合流したような平面形で、深さは20～30cmと浅い。方向から考えてSD01に合流する可能性が考えられる。（山下）

出土遺物は、206・207は上層出土の須恵器である。206は佐藤編年Ⅲ－2段階で10世紀前葉と考えられる。208～213は下層出土須恵器である。214は、上面出土の棒状土錘である。

IV区SD03（第66図）

SX02に流れ込む小溝状遺構と考えられる。遺物は土師器小片1点が出土しているのみである。（山下）

IV区SX01（第67・68・69図）

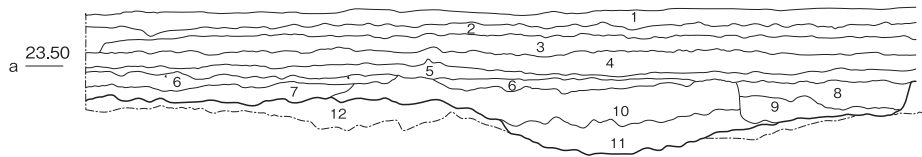
検出面から最深部まで40cm程度の深さである。完掘調査は行っていない。第67図のうち6層は最上層で、これは既述したとおりSD01の上層と一致する。7層（上層礫層）は礫が多量に混入し遺物が多量に出土している。8、9層（中層）は別の遺構とも考えられたが、平面形がはっきりしていないため、SX01として調査を実施した。10、11層は下層である。（山下）

出土した遺物は、215～274である。215～220は礫層上面から出土した遺物である。221～223は礫層から出土した遺物である。220は須恵器杯で、佐藤編年Ⅱ－5段階、9世紀中葉と考えられる。224～265は上層礫層から出土した遺物である。224～257は須恵器である。258～264は土師器である。229は佐藤編年Ⅲ－2段階10世紀前葉と考えられる。266～271は下層出土の土器である。8世紀頃のものと考えられる。272は黒粘土から出土した須恵器提瓶あるいは平瓶の口縁部である。その他石鏃273とガラス小玉274が出土している。以上よりSX01は8世紀頃に埋没を開始し、10世紀頃には埋没を完了したのと考えられる。

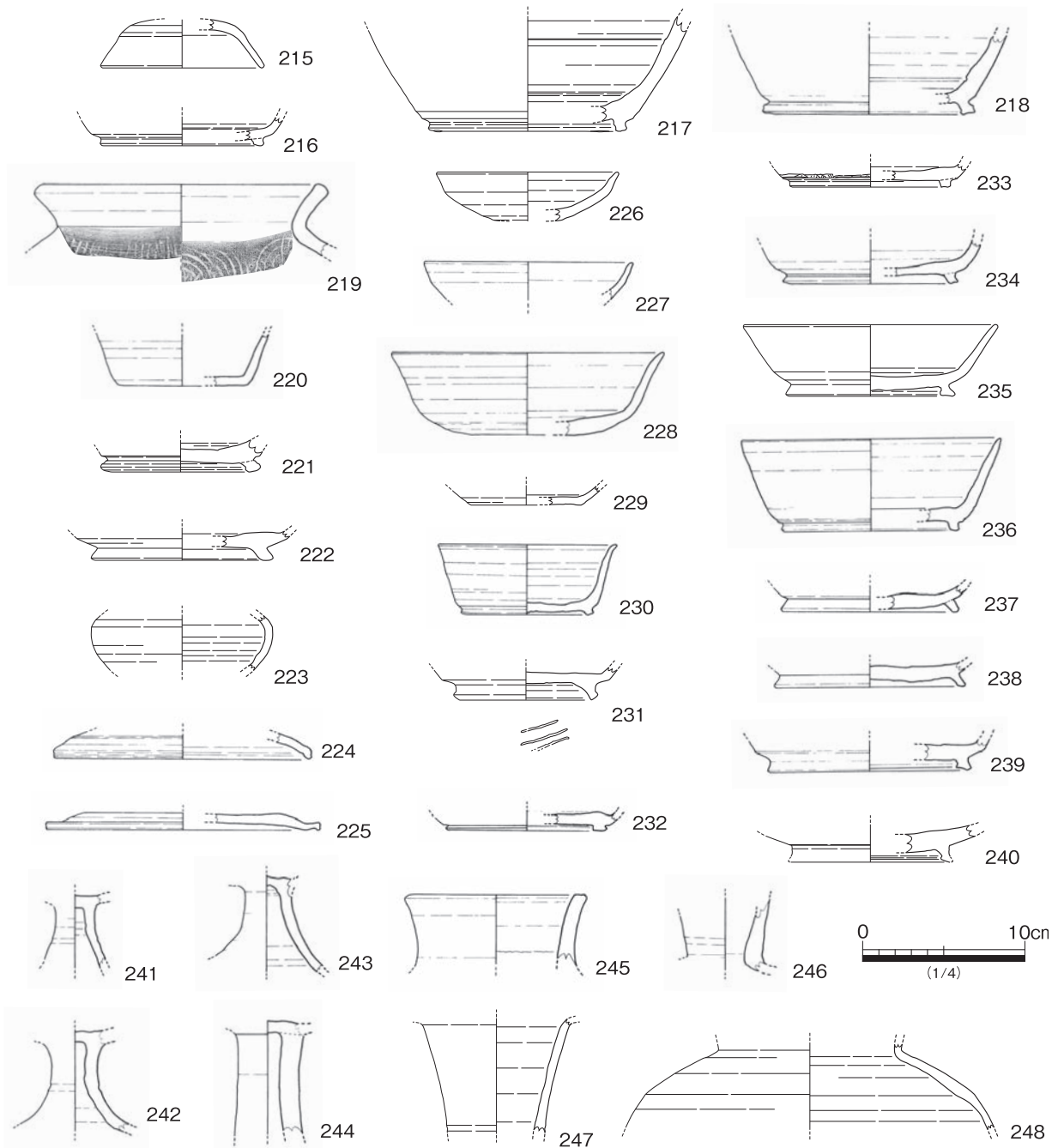
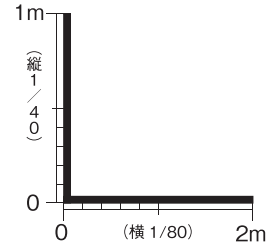
IV区SX02（第70図）

検出面から最深部まで深さ30cm程度である。底面は23.1m前後で調査区内での傾斜は見られないが、大きくは北へ流下するものと考えられる。土層は3層に分かれる。1、2層は均質的な堆積層で自然堆積と考えられ、特に2層は黒褐色を呈し、低湿地状況での堆積と考えられる。3層は基盤層と類似した層である。（山下）

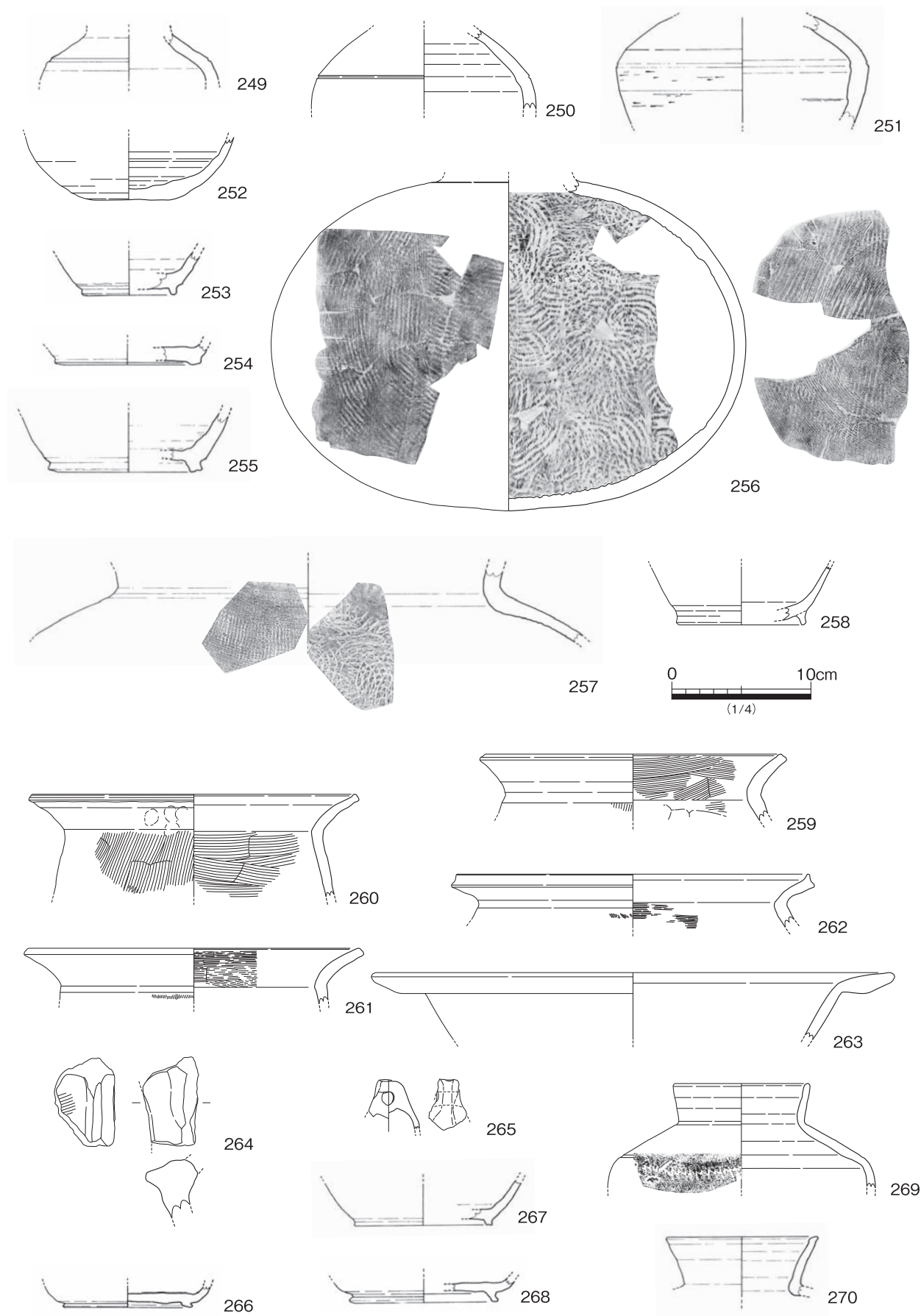
遺物は、上面から275、276の須恵器が出土している。277は上層黒粘土層上面から出土した須恵器杯である。278～280は上層から出土した土器である。278、279は須恵器で、280は黒色土器B類碗である。高台径が7.4cmで、ハの字状に開く細いものであることから11世紀頃のものと考えられる。281は下層出土の須恵器甕である。282～286は出土層位不明である。284は佐藤編年Ⅱ－5段階（9世紀中葉）、286は佐藤編年Ⅱ－5～Ⅲ－1段階（9世紀後半）と考えられる。以上から、SX02はSX01とほぼ同じ時期と考えられる。



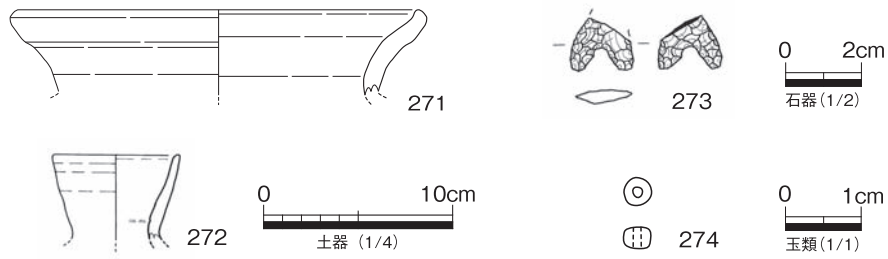
- 1 耕作土
- 2 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト (Fe. 含) 旧耕作土
- 3 2.5Y6/1 黄灰色砂混り粘土 (Fe. 含、中砂少量混) 旧耕作土 3層に近似
- 4 10YR7/8 黄褐色砂混り粘土 (Fe,Mn 含、中砂少量混) 旧耕作土
- 5 2.5Y6/1 黄灰色粘土 (Fe,Mn 含、ややシルト質) 旧耕作土
- 6 10YR3/1 黒褐色粘土 (Fe,Mn 含、やや強粘質) SX01 最上層
- 7 5Y6/1 灰色粗砂礫 (粒径 2~2.5cm の砂岩を主とした円~亜角礫を多量に含む) SX01 上層礫層
- 8 10YR5/1 褐色粘土 (Fe,Mn 含、粒径 2~3cm の 9 層ブロック少量含) SX01 中層
- 9 10YR3/1 黒褐色粘土 (Fe,Mn 含、炭化物細粒少量含) SX01 中層
- 10 2.5Y6/2 灰黄色粘土 (Fe,Mn 含、ややシルト質、粒径 5~20cm 程度の砂岩等円~亜角礫若干量含) SX01 下層
- 11 2.5Y7/2 灰黄色シルト (Fe,Mn 含、粒径 5~20cm の砂岩等円~亜角礫少量含) SX01 下層
- 12 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト (Fe. 粒径 5~30cm の砂岩等円~亜角礫を多量に含む) 地山



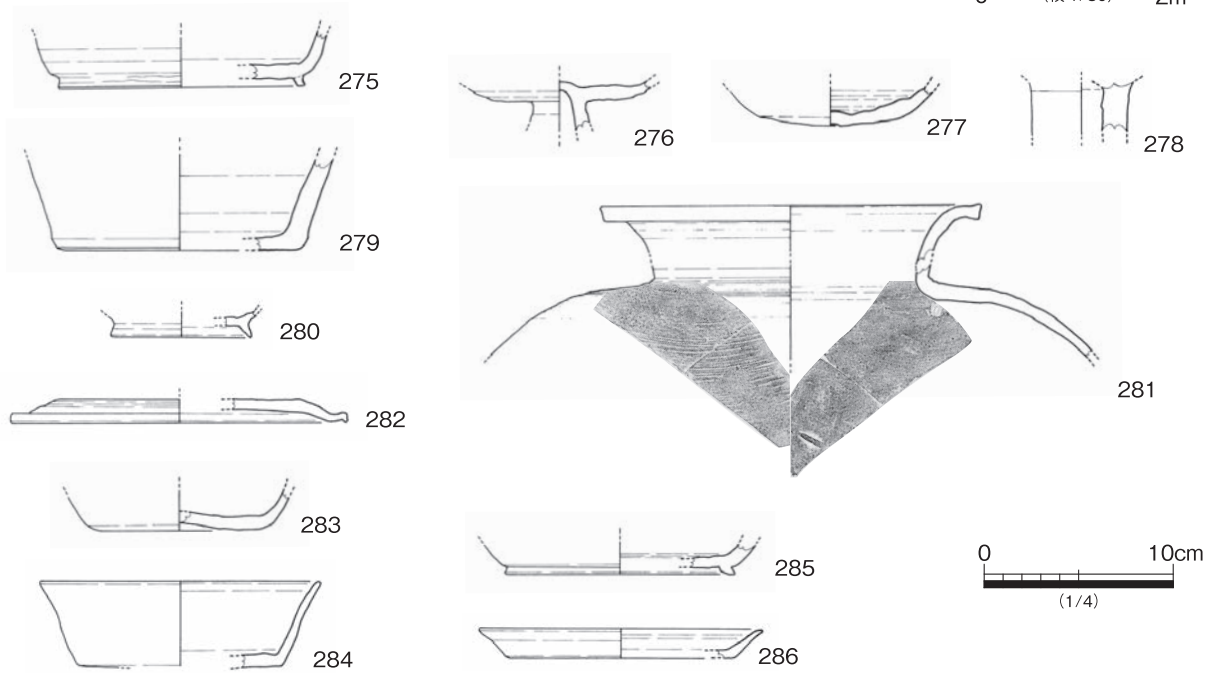
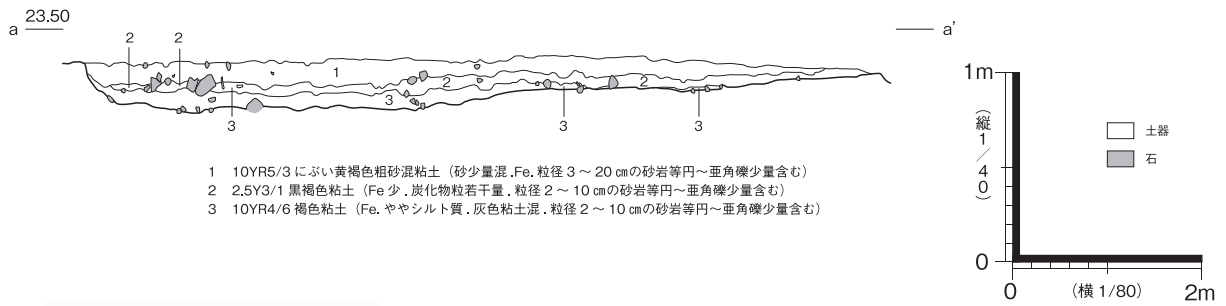
第 67 図 IV区 SX01 断面図、出土遺物 (1)



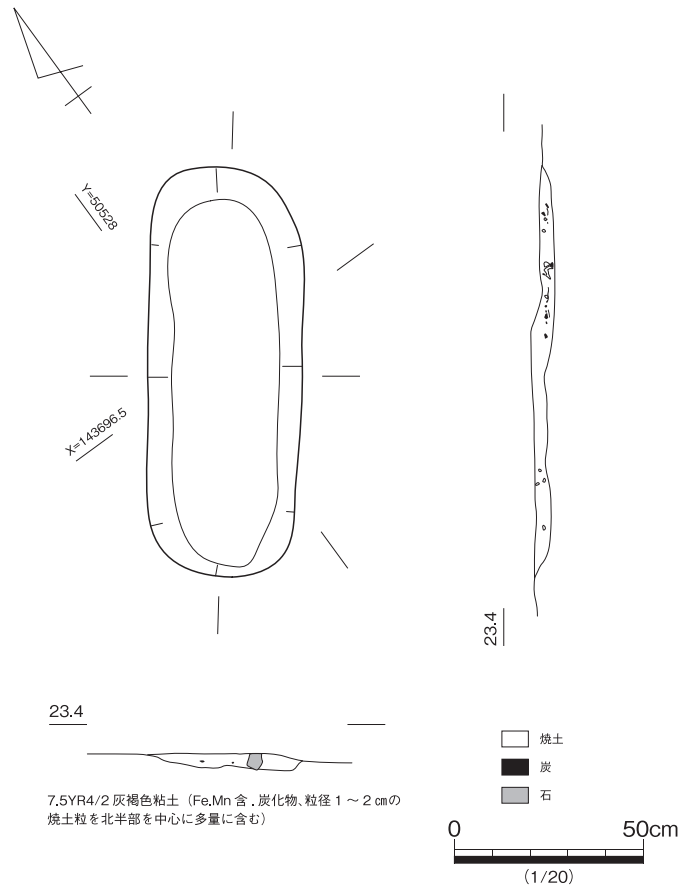
第 68 图 IV区 SX01 出土遺物 (2)



第 69 図 IV区 SX01 出土遺物 (3)



第 70 図 IV区 SX02 断面図、出土遺物



第 71 図 IV区 SX03 平・断面図

IV区 SX03 (第 71 図)

SX01 中・下層堆積後に掘り込まれ、上面に SX01 上層礫層が覆うことから、古代の遺構と考えられる。

出土遺物は、磨滅した弥生土器あるいは土師器の小片が 30 点程度出土しているのみである。須恵器は出土していない。

第4章 自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 放射性炭素年代測定

1. はじめに

放射性炭素年代測定は、呼吸作用や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。過去における大気中の ^{14}C 濃度は変動しており、年代値の算出に影響を及ぼしていることから、年輪年代学などの成果を利用した較正曲線により ^{14}C 年代から暦年代に較正する必要がある。

ここでは、多肥平塚遺跡において採取された堆積物を対象に、加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を行い遺構の構築年代を検討した。測定にあたっては、米国の Beta Analytic Inc. の協力を得た。

2. 試料と方法

測定試料は、多肥平塚遺跡のIV区北壁24層で採取された堆積物3点である。試料は調製後、加速器質量分析計を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

第4表 測定試料及び処理

試料名	地点	種類	前処理・調整	測定法
No.1	IV区 北壁 24層	腐植質土壌	酸洗浄	AMS
No.2	IV区 北壁 24層	腐植質土壌	酸洗浄	AMS
No.3	IV区 北壁 24層	腐植質土壌	酸洗浄	AMS

※ AMS (Accelerator Mass Spectrometry) は加速器質量分析法

3. 結果

年代測定結果を第5表に示す。

第5表 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	未補正 ^{14}C 年代 ¹⁾ (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ ²⁾ (‰)	^{14}C 年代 ³⁾ (年 BP)	暦年代 (西暦) ⁴⁾	
No.1	248782	2300 ± 40	-24.0	2320 ± 40	交点 : cal	BC 390
					1 σ : cal	BC 400 ~ 380
					2 σ : cal	BC 410 ~ 360
No.2	248783	2160 ± 40	-24.0	2180 ± 40	交点 : cal	BC 340, BC 330, BC 200
					1 σ : cal	BC 360 ~ 290,
					cal	BC 240 ~ 180
					2 σ : cal	BC 370 ~ 150,
					cal	BC 140 ~ 110
No.3	248784	2160 ± 40	-24.1	2170 ± 40	交点 : cal	BC 200
					1 σ : cal	BC 350 ~ 290,
					cal	BC 220 ~ 170
					2 σ : cal	BC 370 ~ 100

(1) 未補正 ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は 国際的慣例により Libby の 5568 年を使用した (実際の半減期は 5730 年)。

(2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

$$\delta^{13}\text{C} (\text{‰}) = \frac{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C}) [\text{試料}] - (^{13}\text{C}/^{12}\text{C}) [\text{標準}]}{(^{13}\text{C}/^{12}\text{C}) [\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ [標準] = 0.0112372 である。

(3) ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25(‰) に標準化することによって得られる年代である。

(4) 暦年代 Calendar Age

^{14}C 年代測定値を実際の年代値 (暦年代) に近づけるには、過去の宇宙線強度の変動などによる大気中 ^{14}C 濃度の変動および ^{14}C の半減期の違いを較正する必要がある。暦年較正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値およびサンゴの U/Th (ウラン/トリウム) 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新の較正曲線である IntCal04 (Calibration Issue of Radiocarbon 46(3), 2004) では BC24050 年までの換算が可能である (樹木年輪データは BC10450 年まで)。

暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ (68% 確率) と 2 σ (95% 確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の 1 σ ・2 σ 値が表記される場合もある。

4. 所見

加速器質量分析計 (AMS) による放射性炭素年代測定の結果、多肥平塚遺跡の IV 区北壁 24 層の堆積物は、試料 No.1 で 2320 ± 40 年 BP (2 σ の暦年代で BC 410 ~ 360 年)、試料 No.2 で 2180 ± 40 年 BP (同 BC 370 ~ 150 年、BC 140 ~ 110 年)、試料 No.3 では 2170 ± 40 年 P (同 BC 370 ~ 100 年) の年代値が得られた。

文献

Paula J Reimer et al., (2004) IntCal04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029-1058.

尾寄大真 (2005) INTCAL98 から IntCal04 へ. 学術創成研究費 弥生農耕の起源と東アジア No.3 - 炭素年代測定による高精度編年体系の構築 -, p.14-15.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p.1-36.

II. 花粉分析

1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2. 試料

分析試料は、IV区 SD01 最上層から採取された試料 1、IV区 SD01 上層から採取された試料 2、IV区 SD02 上層から採取された試料 3 の計 3 点である。

3. 方法

花粉の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- (1) 試料から 1 cm³ 採量
- (2) 0.5% リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加え 15 分間湯煎
- (3) 水洗処理の後、0.5mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- (4) 25% フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置
- (5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸 9：濃硫酸 1 のエルドマン氏液を加え 1 分間湯煎）を施す
- (6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- (7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- (8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって 300～1000 倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示す。イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。また、この処理を施すとクスノキ科の花粉は検出されない。

4. 結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉 6、樹木花粉と草本花粉を含むもの 1、草本花粉 13、シダ植物胞子 1 形態の計 21 である。これらの学名と和名および粒数を（第 6 表）に示し、花粉数が 100 個以上計数できた試料は、周辺の植生を復元するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを（第 72 図）に示す。主要な分類群は顕微鏡写真に示した（図版 37）。また、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マツ属複維管束亜属、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ハシバミ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科

〔草本花粉〕

イネ科、カヤツリグサ科、タデ属、ソバ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子

(2) 花粉群集の特徴

1) IV区 SD01 (最上層 (試料1)、上層 (試料2))・第72図

下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する。

上層(試料2)では草本花粉の占める割合が高く、約80%を占める。特にイネ科が高率に出現し、ヨモギ属が伴われ、アブラナ科、アカザ科－ヒユ科、キク亜科、セリ亜科などが低率に出現し、ソバ属も出現する。樹木・草本花粉のクワ科－イラクサ科や樹木花粉のマツ属複維管束亜属、コナラ属コナラ亜属が低率に出現する。

最上層(試料1)では草本花粉の占める割合がさらに高くなる。草本花粉ではヨモギ属が優占しイネ科が伴われる。他にカヤツリグサ科、タデ属、ソバ属が微増する。樹木・草本花粉のクワ科－イラクサ科が減少する。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属の他マツ属複維管束亜属、コナラ属アカガシ亜属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ハシバミ属がわずかに出現する。

2) IV区 SD02 上層 (試料3)・第72図

花粉密度が極めて低く、樹木花粉のコナラ属コナラ亜属がわずかに認められた。

5. 花粉分析から推定される植生と環境

(1) IV区 SD01 (最上層 (試料1)、上層 (試料2))

上層(試料2)では、イネ科の割合が高く、乾燥を好むヨモギ属が伴われる。堆積地周辺は乾燥した環境が示唆され、SD01の土手などにこれらが繁茂していたと考えられる。栽培植物を含むアブラナ科、栽培植物であるソバ属が出現し、耕地雑草であるアカザ科－ヒユ科などが伴って出現することから、周辺での畑作が示唆される。樹木・草本花粉のクワ科－イラクサ科はカラムシやカナムグラなどが考えられ、溝周囲に生育していた。近隣にはマツ属複維管束亜属、コナラ属コナラ亜属などの二次林種の樹木が生育していたと推定される。

最上層(試料1)では草本花粉の占める割合がさらに高くなり、ヨモギ属が優占し、乾燥化が考えられ、ソバなどの畑作が示唆される。

(2) IV区 SD02 上層 (試料3)

花粉密度が極めて低く、検出された花粉は傷みがひどく花粉などの有機質遺体が分解されるよう

な乾燥あるいは乾湿を繰り返すような堆積環境であった。また、堆積時間が速かったことなどがえられる。

6. まとめ

IV区のSD01（最上層（試料1）、上層（試料2））、IV区SD02上層（試料3）とも花粉密度が低く、花粉の傷みが顕著であり、乾燥や土壌生成作用による分解が考えられる。常時流れ滞水する溝ではなく、季節的や引水時に流れがあり滞水する溝であったと考えられる。IV区のSD01では、ヨモギ属やイネ科が分布し、ソバ属の検出から、周辺にソバなどの畑の分布が示唆された。

参考文献

- 金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店， p.248-262.
高倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集， 60p.
中村純（1973）花粉分析．古今書院， p.82-110.
中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として．第四紀研究 .13,p.187-193.
中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学， 第10号， p.21-30.
中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集， 91p.

第6表 多肥平塚遺跡IV区における花粉分析結果

分類群		SD01		SD02
		最上層	上層	上層
学名	和名	1	2	3
Arboreal pollen	樹木花粉			
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複維管束亜属	2	6	
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ		1	
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1		
<i>Corylus</i>	ハシバミ属	1		
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	5	5	1
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	1	1	

Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉			
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	2	8	

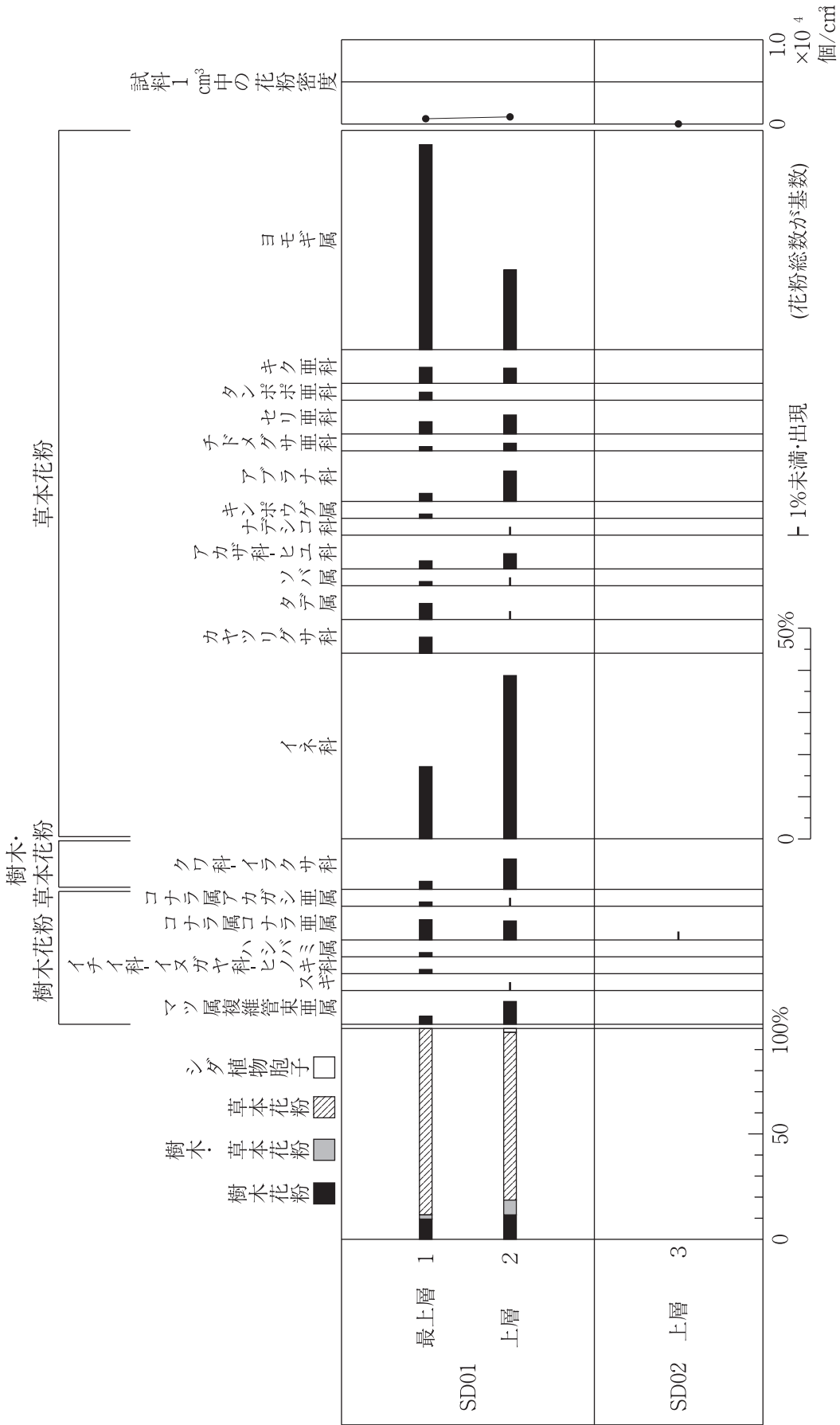
Nonarboreal pollen	草本花粉			
Gramineae	イネ科	18	43	
Cyperaceae	カヤツリグサ科	4		
<i>Polygonum</i>	タデ属	4	1	
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属	1	1	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	2	4	
Caryophyllaceae	ナデシコ科		1	
<i>Ranunculus</i>	キンポウゲ属	1		
Cruciferae	アブラナ科	2	8	
Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科	1	2	
Apiioideae	セリ亜科	3	5	
Lactucoeidae	タンポポ亜科	2		
Asteroideae	キク亜科	4	4	
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	51	21	

Fern spore	シダ植物孢子			
Monolate type spore	単条溝孢子		2	

Arboreal pollen	樹木花粉	10	13	1
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	2	8	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	93	90	0
Total pollen	花粉総数	105	111	1

Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	6.3	8.5	1.2
		×10 ²	×10 ²	×10

Unknown pollen	未同定花粉	9	10	1
Fern spore	シダ植物孢子	0	2	0
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)
Charcoal fragments	微細炭化物			



第72図 多肥平塚遺跡IV区における花粉ダイアグラム

第5章 まとめ

遺構の変遷

多肥平塚遺跡で検出された遺構を時代ごとに整理する。

奈良時代

I区下層及びIV区で大溝状遺構及び旧河川跡が検出されている。I区SD07は奈良時代の大溝状遺構で、SD08はそれに合流するものと考えられる。これらは奈良時代のうちに埋没したものと考えられる。SD07の方向は、現在この遺跡の周囲に見られる条里型地割の方向とは異っており、この地域における条里型地割の施工時期を考える上で参考となる。

IV区は、現在の地割に旧河川跡が見られる部分であるが、この埋没過程で見られるのが大溝状遺構SD01とSD02、及び旧流路SX01及びSX02である。IV区SD01は、下層出土の土器から奈良時代半ばには埋没を開始し、平安時代前半（9世紀後葉）には埋没を完了したものと考えられる。SD02は、SD01に合流する溝状遺構と考えられる。SX01及びSX02は、平面形がやや不整で、深さもあまり深くない。人工的な溝ではなく旧河川の流路と考えられる。これらの開削時期は明らかではないが、最終埋没時期はほぼ同じ頃と考えられる。

平安時代後半（11世紀頃）

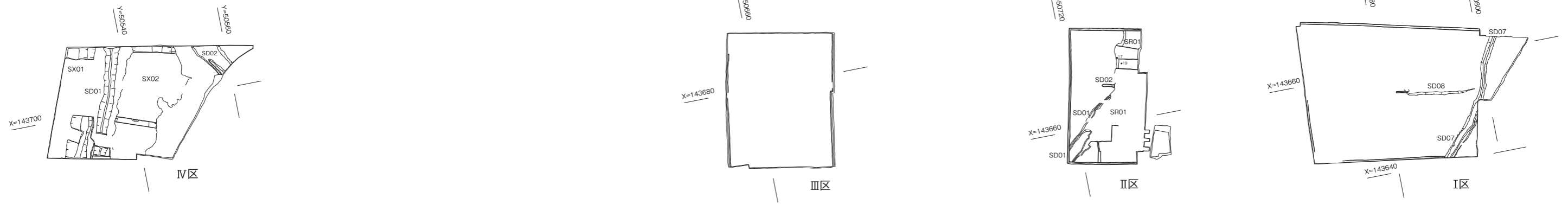
II区及びIII区で掘立柱建物跡が検出されている。いずれも東西棟で、主軸方位はN74°～79°Wである。この遺跡周辺の条里型地割の方向とはほぼ同じかわずかにずれる。II区で1棟、III区で最大2棟が同時併存の可能性が高い。調査区が狭いことから、周辺の建物跡の状況は不明な部分が多いが、II区及びIII区の両側は、試掘調査の結果遺構が希薄とされていることから、併存する建物が周囲に多数存在する可能性は低いものと考えられる。

県内では平安時代後半期には、当遺跡のほか丸亀市東坂元秋常遺跡、同市郡家原遺跡など少数の掘立柱建物跡群からなる集落が見つかることがある。いずれも中心的な建物規模は、4m×8m前後である。このような建物がどのような性格をもったものかは今後の課題である。

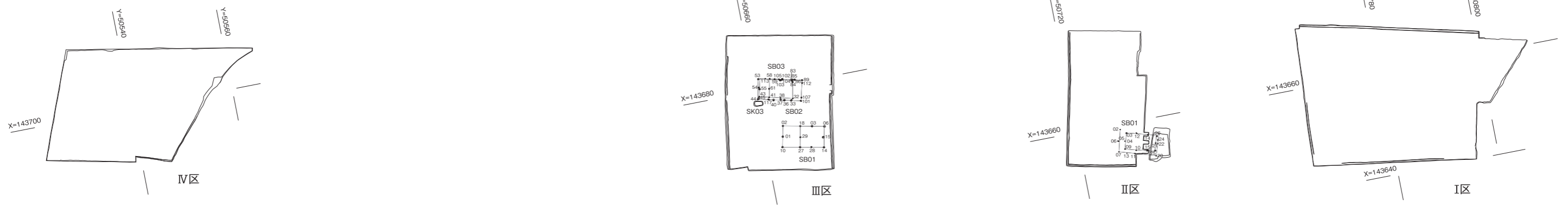
鎌倉時代（13世紀後半～14世紀前葉）

I区で、掘立柱建物跡、溝状遺構、土坑が検出されている。建物の規模は柱穴の配置がやや不規則であることから確実ではないが、周りに雨落ち溝と考えられる溝状遺構がある。また、建物跡の北には、溝状遺構で区画された方形の区画が存在する。

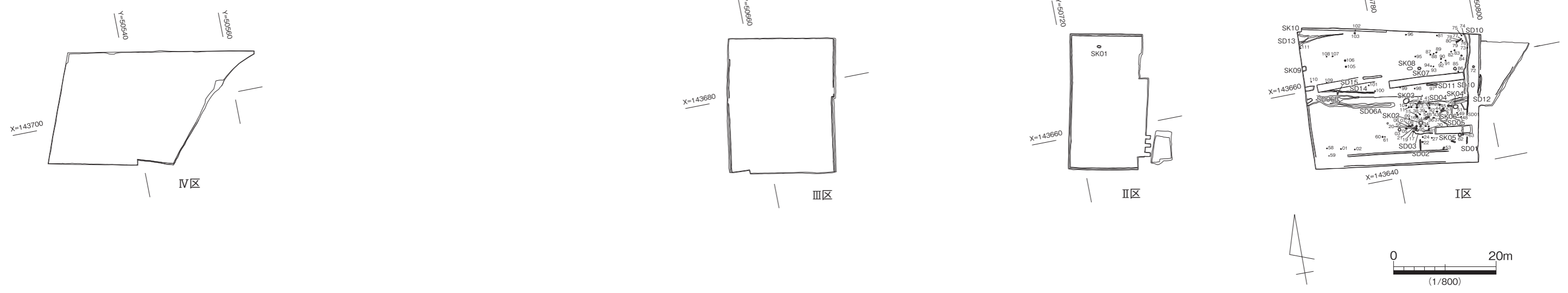
奈良時代



平安時代後半 (11世紀頃)



鎌倉時代 (13世紀後半～14世紀前葉)



第73図 遺構変遷図

第7表 土器 観察表

報 文 番 号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存 率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部・軸		
1	I 区	SP05		土師器	皿	回転ナ ⁺	回転ナ ⁺					中・少	(11.0)			7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	破片	
2	I 区	SP14		土師器	杯	体:回転ナ ⁺ 底:ナ ⁺	体:回転ナ ⁺ 底:ナ ⁺					中・多	(5.7)			7.5YR8/6 浅黄橙	7.5YR8/6 浅黄橙	1/8	
3	I 区	SP20		土師器	杯	口縁~体:回転ナ ⁺ 底:回転ナ ⁺ 後ナ ⁺	回転ナ ⁺					中・多	(10.1)	2.2		2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	2/8	
4	I 区	SP40		土師器	碗	回転ナ ⁺	不明(ナ ⁺)					細・少	(6.5)			10YR8/4 浅黄橙	5YR6/6 橙	4/8	
5	I 区	SP54 B		土師器	皿	回転ナ ⁺	回転ナ ⁺					細・多	(8.7)			10YR4/3 にぶい 黄褐	10YR4/3 にぶい 黄褐	1/8	
6	I 区	SP54 B		土師器	杯	体:回転ナ ⁺ 底:回転ナ ⁺ 後ナ ⁺	回転ナ ⁺					細・少	(6.0)			2.5Y8/2 灰白	5Y7/1 灰白	2/8	
7	I 区	SK01		土師器	皿	回転ナ ⁺ 未調整	回転ナ ⁺					細・少	(5.9)	0.8		7.5YR7/4 にぶい 橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8	
8	I 区	SD03 瓦落とし		須恵器	壺	ナ ⁺ 調整後板ナ ⁺	ナ ⁺ 後指ナ ⁺					細・少				N7/ 灰白	N7/ 灰白	破片	
9	I 区	SD04		土師器	皿	口縁:回転ナ ⁺ 底:回転ナ ⁺ ナ ⁺	回転ナ ⁺					細・少	(6.0)	1.0		7.5YR7/4 にぶい 橙	7.5YR7/4 にぶい 橙	破片	
10	I 区	SD04		土師器	皿	不明(ナ ⁺)	不明(ナ ⁺)					細・少	(6.2)	0.8		10YR7/4 にぶい 黄橙	10YR7/4 にぶい 黄橙	1/8	
11	I 区	SD04 P1		土師器	杯	不明(ナ ⁺)	不明(ナ ⁺)					細・多	10.7	2.5		10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	5/8	
12	I 区	SD04		瓦器	碗	ナ ⁺ ナ ⁺ ナ ⁺	ナ ⁺ ナ ⁺ ナ ⁺					細・少				N5/ 灰	N5/ 灰	破片	
13	I 区	SD04 B-C間		土師器	足釜	口縁:指ナ ⁺ 後ナ ⁺ ナ ⁺ 体:不明	ナ ⁺ ナ ⁺					細・多	(25.6)			10YR6/4 にぶい 黄橙	10YR6/3 にぶい 黄橙	破片	外面つばす ナ ⁺ ナ ⁺
14	I 区	SD04 P2		常滑焼	甕	自然釉	指ナ ⁺					中・多				5YR3/4 暗赤褐	2.5Y6/1 黄灰	破片	格子ナ ⁺ ナ ⁺ ナ ⁺ ナ ⁺
15	I 区	SD10		土師器	皿	口縁:(ナ ⁺) 底:回転ナ ⁺ ナ ⁺	不明(ナ ⁺)					細・多	(8.0)	1.2	(5.5)	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	2/8	
16	I 区	SD10		黒色土器 A類	碗	不明(ナ ⁺)	不明(ナ ⁺)					細・少	(6.2)			2.5Y7/2 灰黄	N4/ 灰	1/8	
17	I 区	SD10		瓦器	碗	体:指ナ ⁺ 底:ナ ⁺ ナ ⁺	不明(ナ ⁺)					細・少	(4.0)			5Y8/1 灰白	5Y7/2 灰白	1/8	
18	I 区	SD05		土師器	皿	口縁:回転ナ ⁺ 底:回転ナ ⁺ ナ ⁺	口縁:回転ナ ⁺ 底:回転ナ ⁺					細・少	(5.7)	0.8	(4.8)	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/3 淡黄	2/8	
19	I 区	SD05		土師器	皿	口縁:回転ナ ⁺ 底:回転ナ ⁺ ナ ⁺	不明(ナ ⁺)					細・少	(5.8)	0.9	(4.5)	10YR7/4 にぶい 黄橙	10YR8/2 灰白	1/8	
20	I 区	SD05		土師器	皿	口縁:回転ナ ⁺ 底:回転ナ ⁺ ナ ⁺	回転ナ ⁺					細・少	(6.0)	0.8	(5.1)	2.5YR4/2 灰赤	2.5YR4/2 灰赤	3/8	
21	I 区	SD05		土師器	皿	口縁:回転ナ ⁺ 底:回転ナ ⁺ ナ ⁺	回転ナ ⁺					細・少	(6.2)	0.7	(5.4)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8	
22	I 区	SD05		土師器	杯	口縁~体:回転ナ ⁺ 底:ナ ⁺ ナ ⁺	回転ナ ⁺					細・多	(11.0)	2.4	(6.0)	10YR8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1/8	
23	I 区	SD05		土師器	杯	口縁~体:回転ナ ⁺ 底:ナ ⁺ ナ ⁺	回転ナ ⁺					細・多	(11.4)			10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	破片	

報文 番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存 率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部・釉		
24	I区	SD05		土師器	鍋	口縁:ハナ状工具ヨ リ; 体:指押	口縁:ハナ状工具ヨ リ; 体:ナ									10YR3/1 黒褐	7.5YR6/6 橙	破片	
25	I区	SD05		土師器	足釜	口縁:ヨリ; 体:格子外後ナ	指押後ナ									10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	破片	
26	I区	SD05		土師器	鍋	口縁:ヨリ; 体:ハナ後ナ?	口縁:ヨリ; 体:ハナ									2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/4 浅黄	破片	
27	I区	SD05		須恵器	杯	回転ナ	回転ナ									5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	破片	
28	I区	SD05		西村産 須恵器	鉢	板ナ	板ナ									N6/ 灰	5Y7/1 灰白	破片	
29	I区	SD05		中国産 白磁	碗	下端無釉	施釉									10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	破片	
30	I区	SD05		土師質 土器	土鍾	ナ	-					(厚) 1.8	(長) 4.1			10YR8/3 浅黄橙	-	8/8	
33	I区	SK03		土師器	杯	口縁~体:回転ナ; 底:不明(ナ)	回転ナ									2.5Y5/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	破片	
34	I区	SK03		土師器	杯	体:回転ナ; 底:回転ナナ	回転ナ									2.5Y6/1 黄灰	2.5Y7/1 灰白	1/8	
35	I区	SK04		土師器	皿	口縁:回転ナ; 底:回転ナナ	回転ナ									2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1/8	
36	I区	SK04		土師器	杯	口縁~体:回転ナ; 底:回転ナ後ナナ 状圧痕	口縁~体:回転ナ; 底:不明(ナ)									7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	2/8	
37	I区	SK04		黒色土器 A類	碗	不明(ナ)	ハナナキ									2.5Y8/1 灰白	N2/ 黒	破片	
38	I区	SK05		土師器	杯	体:不明(ナ) 底:回転ナナ	不明(付着物)									2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1/8	
39	I区	SK05		土師器	足釜	不明(付着物)	ナ									10YR7/4 にぶい 黄橙	10YR7/3 にぶい 黄橙	破片	
40	I区	SK06		土師器	皿	口縁:回転ナ; 底:回転ナナ	回転ナ									10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	1/8	
41	I区	SK06		土師器	皿	口縁:回転ナ; 底:回転ナナ	口縁~底端:回転 ナ; 底:中央ナ									10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	4/8	
42	I区	SK06		土師器	皿	口縁:回転ナ; 底:回転ナナ	口縁~底端:回転 ナ; 底:中央ナ									2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	5/8	
43	I区	SK06		土師器	皿	口縁:回転ナ; 底:回転ナナ	回転ナ									10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	3/8	
44	I区	SK06		土師器	杯	口縁~体:回転ナ; 底:回転ナ後ナナ 状圧痕	回転ナ									10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	2/8	
45	I区	SK06		土師器	杯	口縁~体:回転ナ; 底:回転ナナ	回転ナ									10YR7/4 にぶい 黄橙	10YR4/1 褐灰	2/8	
46	I区	SK06		土師器	杯	口縁~体:回転ナ; 底:回転ナナ	回転ナ									2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1/8	
47	I区	SK06		土師器	碗	回転ナ	板ナ									2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1/8	
48	I区	SK06		東播系 須恵器	鉢	口縁:回転ナ; 体:ナ	口縁:回転ナ; 体:ナ									N6/ 灰	N5/ 灰	破片	
49	I区	SK06		土師器	足釜	口縁:ヨリ; 体:ナ後指押	指押後ナ									2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	破片	

報 文 番 号	調 査 区	遺 構 名	層 位	種 類	器 種	調 整		胎 土				法 量				色 調		残 存 率	備 考
						外 面	内 面	石 英 ・ 長 石	赤 色 粒	角 閃 石	雲 母	砂 粒	口 径 (cm)	器 高 (cm)	底 径 (cm)	其 他 (cm)	外 部 ・ 釉		
50	I 区	SK06		土師器	鍋	口縁上半: 竹工具 ココナ; 口縁下半~ 体: 指押	行									10YR6/3 におい 黄橙	2.5Y8/2 灰白	破片	
51	I 区	SK06		中国産 白磁	碗	体下半~底: 無釉・ 削り出し高台	施釉						(5.2)			5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	2/8	
52	I 区	SK06		中国産 白磁	碗	無釉・上端回転 ・削り出し高台	施釉						(7.2)			5Y8/1 灰白	5Y7/2 灰白	2/8	
53	I 区	SK06		瓦	平瓦	下: 縄目状	上: 布目									N8/ 灰白	N8/ 灰白	破片	上端すず付 着
57	I 区	SP03		土師器	足釜	指押後行	一									7.5YR5/6 明褐	一	8/8	
58	I 区	SP43		土師器	杯	口縁~体: 回転 底: 回転	回転						(8.0)			10YR5/2 灰黄褐	10YR4/3 におい 黄褐	破片	
59	I 区	SP44		土師器	杯	回転	回転									10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	破片	
60	I 区	SP57		土師器	足釜	不明 (ナツク)	不明 (ナツク)									10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	破片	
61	I 区	SP76		黒色土器 A類	碗	不明 (ナツ)	不明 (ナツ)									5YR6/3 におい 橙	N4/ 灰	破片	
62	I 区	SP79		土師器	杯	回転	回転									2.5Y7/3 浅黄	2.5Y8/2 灰白	破片	
63	I 区	SP87		土師器	杯	不明 (ナツ)	不明 (ナツ)						(6.0)			2.5YR6/4 におい 橙	2.5Y7/2 灰黄	1/8	
64	I 区	SD01		土師器	鍋	口縁端: ココナ 下半: 指押	ココナ									10YR5/2 灰黄褐	2.5Y8/2 灰白	破片	
65	I 区	SD06 (西部)		土師器	杯	不明 (ナツ)	不明 (ナツ)									10YR7/4 におい 黄橙	10YR7/4 におい 黄橙	破片	
66	I 区	SD07		土師器	杯蓋	不明 (ナツ)	不明 (ナツ)									7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	6/8	
67	I 区	SD07 D-Etr 間		須恵器	高台付杯	口縁~高台: 回転 体: 回転 底: 底	回転 底: 底						(10.6)			N 7/ 灰白	N 7/ 灰白	3/8	外底爪圧痕
68	I 区	SD07 D-Etr 間		須恵器	高台付杯	体~高台: 回転 底: 底	回転						(8.9)			N 6/ 灰	N 6/ 灰	2/8	
69	I 区	SD07 D-Etr 間		須恵器	高台付杯	体~高台: 回転 底: 底	回転						(10.6)			2.5 Y 7/1 灰白	2.5 Y 7/1 灰白	1/8	
70	I 区	SD07 D-Etr 間		須恵器	高台付杯	高台: 回転 底: 底	回転						(10.8)			5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	1/8	
71	I 区	SD07 石除 去中・清掃 中		須恵器	高杯	回転	回転						(9.7)			N 5/ 灰	N 5/ 灰	1/8	
72	I 区	SD07 D-Etr 間		土師器	甕	不明 (ナツ)	不明 (ナツ)									10 Y R 8/4 浅黄 橙	10 Y R 8/4 浅黄 橙	破片	
73	I 区(北 東拡張)	SD07 上面		須恵器	杯蓋	回転	回転								N7/ 灰白	N7/ 灰白	破片		
74	I 区(北 東拡張)	SD07 上面		須恵器	杯蓋	回転	回転								7.5Y6/1 灰	N7/ 灰白	破片		
75	I 区(北 東拡張)	SD07 上面		須恵器	杯	体: 回転 底: 底	回転						(8.0)			N6/ 灰	N6/ 灰	1/8	
76	I 区(北 東拡張)	SD07 上面		須恵器	杯	体: 回転 底: 底	回転						(9.0)			5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	1/8	
77	I 区(北 東拡張)	SD07 上面		須恵器	杯	回転	回転								N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	破片		
78	I 区(北 東拡張)	SD07 上面		須恵器	杯	回転	回転								N5/ 灰	N5/ 灰	破片		

報文番号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量			色調		残存率	備考	
						外面	内面	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)			外部・釉
79	I区(北東掘張)	SD07 上面		須恵器	高台付杯	回転ナ	回転ナ						(15.2)	(3.5)	(12.4)		N7/灰白	N7/灰白	破片
80	I区(北東掘張)	SD07 上面		須恵器	皿	回転ナ	回転ナ						(21.1)				N6/灰	N6/灰	破片
81	I区	旧河道(SD07の上)	上層	須恵器	壺	回転ナ	回転ナ								(8.0)		N5/灰	N6/灰	2/8
82	I区	SD08		須恵器	杯蓋	回転ナ	回転ナ						(15.0)				N6/灰	7.5Y6/1灰	破片
83	I区	SD08		須恵器	杯蓋	回転ナ	回転ナ						(15.2)				N6/灰	N5/灰	破片
84	I区	SD08		須恵器	杯蓋	回転ナ	回転ナ								(17.6)		7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	破片
85	I区	SD08		須恵器	杯蓋	上半:回転ナ 下半:ナ	ナ										N7/灰白	N6/灰	破片
86	I区	SD11		土師器	杯	回転ナ 底:ナ	回転ナ								(8.4)		10YR8/2灰白	2.5Y7/1灰白	1/8
87	I区	SD13		黒色土器A類	碗	高台:回転ナ 底:ナ	不明(マ)								5.8		10YR7/4にぶい 黄橙	2.5 Y 4/1 黄灰	4/8
88	I区	SD13		白磁	皿	施釉	施釉						(10.5)				5Y7/2灰白	5Y7/2灰白	1/8
89	I区	表土剥ぎ		須恵器	平瓶	不明(自然釉)	不明(自然釉)										7.5Y5/3灰オリー フ	N8/灰白	破片
90	I区(北東掘張)	東壁切り		中国産白磁	碗	無釉、削り出し高台	施釉								(7.4)		5Y8/2灰白	7.5Y8/2灰白	2/8
93	II区	南 SP11		黒色土器A類	碗	口縁:ナ 以下不明(マ)	ナ						(15.0)				7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR2/1 黒	1/8
94	II区	南 SP14		瓦器	碗	指押え後上半ナ	ナ										N 3/ 暗灰	N 4/ 灰	1/8 未溝
96	II区	南 SR01(中掘)		須恵器	杯蓋	回転ナ	回転ナ										N7/灰白	N7/灰白	破片
97	II区	南 SR01(中掘)		須恵器	杯	回転ナ	回転ナ						(12.4)				N7/灰白	N7/灰白	1/8
98	II区	北上面精査		土師器	皿	ナ	ナ						(22.8)				5YR5/8明赤褐	10YR8/4浅黄橙	破片
99	III区	南 SP01		土師器	杯	体:回転ナ 底:回転ナ 底:ナ	体:回転ナ 底:ナ								(7.1)		7.5YR6/3にぶい 褐	7.5YR6/4にぶい 橙	2/8
100	III区	SP29		土師器	杯	体:回転ナ 底:ナ	回転ナ								7.5		2.5Y7/8黄	2.5Y8/3淡黄	1/8 未溝
101	III区	南 SP02		土師器	杯	体:回転ナ 底:ナ	回転ナ								8.4		7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙	1/8 未溝
102	III区	SP06 P1		土師器	杯	不明(マ)	不明(マ)								(7.7)		5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	1/8
103	III区	南 SP14 P1		土師器	杯	上半:回転ナ 下半:不明(マ)	回転ナ						(14.0)	(3.6)	(9.0)		7.5YR7/4にぶい 橙	7.5YR7/4にぶい 橙	1/8
104	III区	南 SP14		須恵器	壺	格子ナ	ナ										N 5/ 灰	N 6/ 灰	8/8
105	III区	南 SP06		土師器	甕	ヨコナ	口縁:ヨコナ 体:ナ										7.5YR6/4にぶい 橙	7.5YR6/4にぶい 橙	破片
107	III区	SP89 P1		土師器	杯	口縁~体:不明(マ) 底:回転ナ	不明(マ)						(10.3)	2.2	7.0		10YR7/3にぶい 黄橙	10YR7/4にぶい 黄橙	4/8
108	III区	SP53 P1		須恵器	杯	口縁~体:回転ナ 底:回転ナ?後板ナ	口縁~体:回転ナ 底:不明(マ)						(9.6)	2.3	(5.9)		10YR7/4にぶい 黄橙	10YR7/4にぶい 黄橙	2/8

報 文 番 号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色调		残存率	備考		
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部・釉			内部・胎土	
109	Ⅲ区	SP89		土師器	杯	体:回転ナ 底:ナ	回転ナ									7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	1/8 未満			
110	Ⅲ区	SP89 P3		黒色土器 B類	碗	ハツガキ	ハツガキ									10YR2/1 黒	10YR2/1 黒	破片			
111	Ⅲ区	SP40		黒色土器 A類	碗	不明(ナ)	不明(ナ)									2.5 Y 7/3 浅黄	N 4/ 灰	破片			
112	Ⅲ区	SP58		土師器	杯	回転ナ	回転ナ									5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	1/8 未満			
113	Ⅲ区	SP102		土師器	碗	ハツガキ	ハツガキ									7.5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙	1/8			
114	Ⅲ区	SK03 P1		灰軸陶器	碗	施釉	施釉									5 Y 7/1 灰白	5 Y 7/1 灰白	2/8			
115	Ⅲ区	SK04 南半	上層	土師器	杯	回転ナ	回転ナ									10YR7/2 にぶい 黄橙	7.5YR6/4 にぶい 橙	破片			
116	Ⅲ区	SP117		土師器	杯	体:回転ナ 底:回転ナ	回転ナ									(6.7)	7.5YR7/4 にぶい 橙	2/8			
117	Ⅲ区	SP45		土師器	杯	口縁~体:回転ナ 底:回転ナ	回転ナ									(6.4)	10YR8/4 浅黄橙	10YR7/4 にぶい 黄橙	2/8		
118	Ⅲ区	SP84 P2		土師器	皿	口縁~体:回転ナ 底:不明(ナ)	不明(ナ)									(10.7)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	2/8		
119	Ⅲ区	SP36		土師器	皿	口縁~体:回転ナ 底:不明(ナ)	回転ナ									(7.0)			1/8		
120	Ⅲ区	SP36 P1		土師器	杯	口縁~体:回転ナ 底:回転ナ	回転ナ									(7.4)	7.5 Y R 7/6 橙	7.5 Y R 6/6 橙	1/8		
121	Ⅲ区	SP37 P1		土師器	杯	口縁~体:回転ナ 底:回転ナ	口縁~体:回転ナ 底:ナ									(7.6)	7.5 Y R 6/4 にぶ い橙	7.5 Y R 5/1 褐灰	1/8		
122	Ⅲ区	SP36		黒色土器 A類	碗	不明(ナ)	ハツガキ									(14.8)	N3/ 暗灰		1/8		
123	Ⅲ区	SP84 P1		土師器	甕	ハツ後ナ	上半:ハツ 下半:指ナ										10YR3/1 黒褐	10YR4/3 にぶい 黄褐	8/8		
124	Ⅲ区	SP98 P1		須恵器	把手	不明(ナ)	不明(ナ)										N6/ 灰	N6/ 灰	8/8		
125	Ⅲ区	SP46		灰軸陶器	壺?	不明	不明										5 Y 8/1 灰白	5 Y 7/1 灰白	破片		
128	Ⅳ区	SK03 北半		土師器	釜	不明(ナ)	不明(ナ)										2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	1/8		
129	Ⅳ区	SK03 北半		須恵器	甕	口縁~胴 ナ	口縁~胴 ナ										(22.6)			破片	
130	Ⅳ区	SD01 北半	最上層	須恵器	杯蓋	口縁~胴 ナ	口縁~胴 ナ										(15.7)	N6/ 灰	N6/ 灰	破片	
131	Ⅳ区	SD01 南半	最上層	須恵器	杯	回転ナ	回転ナ										N6/ 灰	N5/ 灰	1/8		
132	Ⅳ区	SD01 南半	最上層	須恵器	杯	口縁~体:回転ナ 底:回転ナ	口縁~体:回転ナ 底:回転ナ										(6.4)	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8	
133	Ⅳ区	SD01 北半 (北7t)	最上層	須恵器	杯	口縁~体:回転ナ 底:回転ナ	口縁~体:回転ナ 底:回転ナ										(6.8)	N6/ 灰	N6/ 灰	1/8	内外面ひだ すき
134	Ⅳ区	SD01 北半 (北)	最上層	須恵器	高台付杯	回転ナ	回転ナ										(18.7)	N6/ 灰	N7/ 灰白	破片	
135	Ⅳ区	SD01 北半 (北7tより)	最上層	須恵器	杯	体:回転ナ 底:回転ナ	体:回転ナ 底:ナ										(6.4)	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	4/8	
136	Ⅳ区	SD01 北半 (北)	最上層	須恵器	高台付杯	高台:回転ナ 底:回転ナ	高台:回転ナ 底:回転ナ										(8.0)	N5/ 灰	N5/ 灰	2/8	

報 文 番 号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色調		残存 率	備考
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部・釉		
137	IV区	SD01 南半	最上層	須恵器	高台付杯	体~高台:回転 底:回転	体:回転 底:板									N8/灰白	N8/灰白	1/8	
138	IV区	SD01 南半	最上層	須恵器	高杯	回転	回転									N7/灰白	N7/灰白	破片	
139	IV区	SD01 北半 (北7tより 北)	最上層	須恵器	壺	回転	回転									N6/灰	N6/灰	1/8	
140	IV区	SD01 南半	最上層	須恵器	壺	体	回転									N7/灰白	2.5Y7/1 灰白	3/8	
141	IV区	SD01 北半 (北7tより 北)	最上層	土師器	壺	コナテ	コナテ									2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	1/8	
142	IV区	SD01 北半	最上層	土師器	甕	上半:コナテ 下半:板	指神+後コナテ									10YR6/2 灰黄褐	10YR7/3 にぶい 黄橙	破片	
143	IV区	SD01 北半 (北7tより 北)	最上層	土師器	甕	体	指神+									10YR6/3 にぶい 黄橙	143	8/8	
144	IV区	SD01 北半 (北7t)	上層	須恵器	杯蓋	回転	回転									N6/灰	N6/灰	1/8	
145	IV区	SD01 北半	上層	須恵器	杯蓋	回転	回転									N4/灰	N5/灰	破片	
146	IV区	SD01	上層 P1	須恵器	杯蓋	上半:回転 下半:回転	回転									N6/灰	N7/灰白	4/8	
147	IV区	SD01 北半 (北7t)	上層	須恵器	杯	回転	回転									N7/灰白	N7/灰白	1/8	
148	IV区	SD01 北半	上層	須恵器	杯	回転	回転									N6/灰	N7/灰白	破片	
149	IV区	SD01 北半	上層	須恵器	杯	回転	回転									5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	1/8	
150	IV区	SD01 南半	上層	土師器	杯	体:回転 底:回転	不明									5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	2/8	
151	IV区	SD01	上層 P2	須恵器	高台付杯	不明	体:回転 底:不明									5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	1/8	
152	IV区	SD01 北半	上層	須恵器	高台付杯	高台:回転 底:体	底端:回転 中央:体									N6/灰	N6/灰	1/8	
153	IV区	SD01 北半 (北7t)	上層 P15	須恵器	皿	口縁:回転 底:回転	口縁:回転 底:体									5PB3/1 暗青灰	N6/灰		外面ひだす き
154	IV区	SD01 北半 (北7t)	上層	須恵器	皿	口縁:回転 底:不明	口縁:回転 底:体									2.5Y5/1 黄灰	2.5Y7/1 灰白	破片	
155	IV区	SD01 北半	上層	須恵器	皿	回転	回転									N6/灰	N6/灰	破片	
156	IV区	SD01 北半 (北7t)	上層	須恵器	皿	体:回転 底:回転	回転									N4/灰	5Y6/1 灰	5/8	
157	IV区	SD01 北半	上層	須恵器	皿	体:不明 底:回転	不明									2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	4/8	
158	IV区	SD01 北半	上層	須恵器	壺	回転	回転									5Y6/1 灰	5Y6/2 灰オリー フ	破片	
159	IV区	SD01 北半	上層	須恵器	壺	回転	回転									N4/灰	N4/灰	3/8	
160	IV区	SX01 北半 上層礫層	上層礫層	須恵器	壺	回転	回転									10Y3/1 オリー フ 黒	7.5Y5/1 灰	1/8	
161	IV区	SD01 北半 (北7tより 北)	上層	須恵器	壺	体~高台:回転 底:体	体:回転 底:体									N8/灰白	N8/灰白	2/8	
162	IV区	SD01 中央 7t	上層	須恵器	甕	回転	回転									N6/灰	N6/灰	破片	
163	IV区	SD01	上層 P4	須恵器	甕	回転	回転									N7/灰白	N7/灰白	破片	5条縞描文

報 文 番 号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量				色调		残存率	備考
						外面	内面	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	外部・釉		
164	IV区	SD01 北半	上層	土師器	甕	口縁:ヨコナ メ後上端ヨコナ 体:ハナ	口縁:ヨコナ 体:ナ								10YR4/3にぶい 黄橙	10YR3/3暗褐	破片		
165	IV区	SD01 中央	上層	土師器	甕	ヨコナ	ハナ								10YR7/3にぶい 黄橙	10YR7/4にぶい 黄橙	破片		
166	IV区	SD01 北半	上層	土師器	甕	不明(ナナ)	口縁:ハナ後ナ 体:不明(ナナ)								10YR6/4にぶい 黄橙	10YR6/4にぶい 黄橙	破片		
167	IV区	SD01	上層 P14	土師器	釜	口縁:ヨコナ 体:ハナ	口縁:ヨコナ 体:指ナ								5YR6/6橙	5YR4/1褐灰	1/8		
168	IV区	SD01 北半	上層	土師器	鍋	ハナ	不明(ナナ)								5YR6/4にぶい 橙	5YR6/6橙	破片		
169	IV区	SD01 中央	上層	土師器	甕	ハナ後ナ	ハナ後ナ								10YR6/4にぶい 黄橙	7.5YR5/4にぶい 褐	8/8		
170	IV区	SD01 北半	中層	須恵器	蓋	回転ナ	口縁:回転ナ 天井:ナ								10BG6/1青灰	10BG6/1青灰	5/8		
171	IV区	SD01 (北7t)	中層	須恵器	杯蓋	回転ナ	回転ナ								N6/灰	N6/灰	破片		
172	IV区	SD01 南半	中層	須恵器	杯蓋	口縁:回転ナ つまみ:回転ナ 天井:不明(自然釉)	口縁:回転ナ 天井:不明								2.5Y7/1灰白	N7/灰白	2/8		
173	IV区	SD01 北半	中層	須恵器	杯	回転ナ	回転ナ								N7/灰白	N7/灰白	2/8		
174	IV区	SD01	中層 P11	須恵器	杯	回転ナ	回転ナ								N7/灰白	N7/灰白	1/8		
175	IV区	SD01	中層 P16	須恵器	杯	口縁~体:回転ナ 底:回転ナ利後ナ	口縁~体:回転ナ 底:ナ								N6/灰	N6/灰	5/8		
176	IV区	SD01	中層 P10・11	須恵器	杯	口縁~体:回転ナ 底:回転ナ利	回転ナ								5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	4/8		
177	IV区	SD01 北半	中層	須恵器	杯	回転ナ	回転ナ								N4/灰	N7/灰白	破片		
178	IV区	SD01 (北7t)	中層	須恵器	高台付杯	体~高台:回転ナ 底:回転ナ利後ナ	回転ナ								N6/灰	N7/灰白	1/8		
179	IV区	SD01	中層 P12	須恵器	高台付杯	体~高台:回転ナ 底:不明(ナナ)	不明(ナナ)								N7/灰白	N7/灰白	2/8		
180	IV区	SD01 (北7t)	中層	須恵器	高台付杯	不明(ナナ)	不明(ナナ)								N3/暗灰	2.5Y7/4浅黄	破片		
181	IV区	SD01	中層 P12・15	須恵器	壺	口縁~高台:回転 ナ底:ナ	口縁~体:回転ナ 底:ナ								N6/灰	N5/灰	6/8		
182	IV区	SD01 南半	中層	須恵器	甕	口縁:回転ナ 体:平行外利後回転ナ	回転ナ								N6/灰	N4/灰	破片		
183	IV区	SD01 北半	中層 P10	土師器	皿	口縁:ヨコナ 体:ナ	ハナカキ								10YR7/3にぶい 黄橙	10YR7/3にぶい 黄橙	1/8		
184	IV区	SD01 北半	中層	土師器	甕	ハナ後ヨコナ	ハナ								10YR6/3にぶい 黄橙	10YR6/3にぶい 黄橙	破片		
185	IV区	SD01 南半	中層 P3	土師器	甕	口縁:ヨコナ 体:ハナ	口縁:ハナ後ヨコナ 体:指ナ後ヨコナ								7.5YR6/6橙	7.5YR6/6橙	6/8		
186	IV区	SD01 南半	下層	須恵器	杯蓋	回転ナ	回転ナ								N5/灰	N5/灰	1/8		
187	IV区	SD01 南半	下層	須恵器	杯	口縁~体:回転ナ 底:回転ナ利	口縁~体:回転ナ 底:ナ								7.5Y7/1灰白	N8/灰白	4/8		
188	IV区	SD01 南半	下層	須恵器	杯	口縁:回転ナ 底:ハナナリ	回転ナ								N6/灰	N6/灰	5/8	見込みにハナ 描き記号	

報 文 番 号	調 査 区	遺 構 名	層 位	種 類	器 種	調 整		胎 土				法 量			色 調		残 存 率	備 考
						外 面	内 面	石 英 ・ 長 石	赤 色 粒	角 閃 石	雲 母	砂 粒	口 径 (cm)	器 高 (cm)	底 径 (cm)	其 他 (cm)		
189	IV区	SD01 南半	下層	須恵器	杯	回転子	回転子						3.5	(8.0)	N6/灰	N6/灰	1/8	
190	IV区	SD01 南半	下層	須恵器	杯	口縁～体:回転子 底:回転子	回転子						4.2	4.8	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	4/8	
191	IV区	SD01 南半	下層	須恵器	高	体～高台:回転子 底:不明(自然釉)	体:回転子 底:不明(自然釉)						(11.8)		N3/暗灰	N5/灰	1/8	
192	IV区	SD01 南半	下層	須恵器	壺	回転子	回転子								N7/灰白	N6/灰	2/8	
193	IV区	SD01 南半	下層	土師器	皿	口縁:ヨコ子 底:ハミガキ?	口縁:ヨコ子 底:ハミガキ?						2.4	(15.6)	5YR6/8橙	5YR6/8橙	4/8	
194	IV区	SD01 南半	下層	土師器	皿	ハミガキ	ハミガキ						(17.4)		5YR6/8橙	5YR6/8橙	1/8	赤彩
195	IV区	SD01 北半	下層	土師器	高杯	ハミガキ	指押後ハミガキ								10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙	7/8	
196	IV区	SD01 北半	下層	土師器	甕	不明(ヤリ)	不明(ヤリ)								5YR6/6橙	5YR6/6橙		破片
197	IV区	SD01 北半 (北7E)	下層	土師器	甕	口縁:ヨコ子 体:ハミガキ	口縁:ヨコ子 体:ハミガキ						(14.7)		7.5YR5/3にぶい 縄	7.5YR4/1褐灰	1/8	
198	IV区	SD01 北半	下層	土師器	甕	口縁:不明(ヤリ) 体:ハミガキ	ハミガキ						(20.3)		10YR6/6明黄褐	10YR7/4にぶい 黄橙	1/8	
199	IV区	SD01 北半	下層	土師器	甕	口縁:ヨコ子 体:ハミガキ	口縁:ハミガキ 体:指押後ハミガキ						(27.3)		10YR5/6黄褐	7.5YR6/6橙	1/8	
200	IV区	SD01 北半	下層	土師器	甕	口縁:ハミガキ 体:ハミガキ	口縁:ハミガキ 体:ハミガキ						(29.0)		5YR6/6橙	5YR6/6橙		破片
201	IV区	SD01 南半	下層	土師器	甕	口縁:ヨコ子 体:不明(ヤリ)	口縁:ヨコ子 体:不明(ヤリ)						(32.0)		7.5YR7/4にぶい 橙	10YR7/3にぶい 黄橙	2/8	
202	IV区	SD01 北半	下層	土師器	甕	ハミガキ	指押後板子								2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	8/8	
203	IV区	SD01 北半 上面清掃中	下層	須恵器	壺	上半:回転子 下半:回転子	上半:回転子 下半:回転子								5Y7/1灰白	N8/灰白	破片	
206	IV区	SD02	上層	須恵器	杯	口縁～体:回転子 底:回転子	回転子						3.7	(5.7)	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	5/8	ひだすき
207	IV区	SD02	上層	須恵器	高台付杯	不明(ヤリ)	不明(ヤリ)							9.2	7.5Y7/1灰白	N7/灰白	8/8	
208	IV区	SD02	下層	須恵器	把手	指子	指子								N5/灰	—	8/8	
209	IV区	SD02 北半	下層	須恵器	壺	回転子	回転子								N7/灰白	N7/灰白	破片	
210	IV区	SD02	下層	須恵器	壺	回転子	上半:不明(自然釉) 下半:ハミガキ						10.2		N5/灰	N6/灰	7/8	
211	IV区	SD02	下層	須恵器	壺	回転子	回転子						(12.5)		7.5Y6/1灰	N8/灰白	4/8	
212	IV区	SD02 南半	下層	須恵器	壺	耳:ハミガキ 体:ハミガキ	回転子								N5/灰	N5/灰	8/8	
213	IV区	SD02 北半	下層	須恵器	甕	回転子	回転子						(29.0)		N7/灰白	N7/灰白	破片	
214	IV区	SD02 上面		土師質	棒状土錘	不明(ヤリ)	—						(幅) 1.1 (現存 長)3.9		10YR8/3浅黄橙	—	8/8	
215	IV区	SX01 北側 溝	礫層上面	須恵器	杯蓋	口縁～体:回転子	回転子						(9.8)		2.5Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	2/8	
216	IV区	SX01 北側 溝	礫層上面	須恵器	高台付杯	回転子	回転子						(9.6)		N6/灰	N7/灰白	1/8	
217	IV区	SX01 北半	礫層上面	白磁?	壺	体:回転子 端:ハミガキ 底:回転子	回転子						(11.5)		2.5Y7/1灰白	N8/灰白	1/8	
218	IV区	SX01 北半	礫層上面	須恵器	壺	回転子	回転子						(11.8)		2.5Y7/1灰白	2.5Y8/1灰白	1/8	
219	IV区	SX01 北側 溝	礫層上面	須恵器	甕	口縁:回転子 体:平行片	口縁:回転子 体:同心円片						(16.9)		N8/灰白	5Y8/1灰白	1/8	

報 文 番 号	調 査 区	遺 構 名	層 位	種 類	器 種	調 整		胎 土				法 量			色 調		残 存 率	備 考	
						外 面	内 面	石 英 ・ 長 石	赤 色 粒	角 閃 石	雲 母	砂 粒	口 径 (cm)	器 高 (cm)	底 径 (cm)	其 他 (cm)			外 部 ・ 軸
220	IV区	SX01	北半	須惠器	杯	体:回転付 底:回転付	体~底端:回転付 底中央:付									7.5Y7/1 灰白	7.5Y5/1 灰	2/8	
221	IV区	SX01	西部	須惠器	高台付杯	高台:回転付 底:付	底端:回転付 底中央:付									5Y8/1 灰白	N7/ 灰白	2/8	
222	IV区	SX01	西部	須惠器	高台付杯	不明(ヤ)	不明(ヤ)									7.5Y7/1 灰白	2.5Y7/4 浅黄	3/8	
223	IV区	SX01	西部	須惠器	壺	回転付	不明(ヤ)									N6/ 灰	破片	1/8	未調
224	IV区	SX01	北半	須惠器	杯蓋	回転付	口縁:回転付 天井:付									N7/ 灰白	2.5Y7/1 灰白	1/8	
225	IV区	SX01	北半	須惠器	杯蓋	口縁:回転付 天井:付	口縁:回転付 天井:付									N5/ 灰	N6/ 灰	1/8	
226	IV区	SX01	上層磔層 PI	須惠器	杯	回転付	回転付									N7/ 灰白	N7/ 灰白	2/8	
227	IV区	SX01	北半	須惠器	杯	回転付	回転付									5B4/1 暗青灰	5B5/1 青灰	1/8	
228	IV区	SX01	北半	須惠器	杯	不明(ヤ)	不明(ヤ)									2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1/8	
229	IV区	SX01	南半	須惠器	杯	体:回転付 底:回転付	回転付									2.5Y8/1 灰白	N7/ 灰白	2/8	
230	IV区	SX01	南半	須惠器	高台付杯	口縁~高台:回転付 底:回転付	口縁~底端:回転付 底中央:付									N7/ 灰白	N7/ 灰白	6/8	
231	IV区	SX01	南半	須惠器	高台付杯	体~高台:回転付 底:付	底端:回転付 中央:付									N7/ 灰白	N7/ 灰白	3/8	外底:ハラ描 き文
232	IV区	SX01	北半	須惠器	高台付杯	高台:回転付 底:不明(ヤ)	底端:回転付 中央:付									5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	1/8	
233	IV区	SX01	北半	須惠器	高台付杯	体~高台:回転付 底:付	底端:回転付 中央:付									N6/ 灰	N6/ 灰	2/8	
234	IV区	SX01	南半	須惠器	高台付杯	体~高台:回転付	体~底端:回転付 底中央:付									N7/ 灰白	N7/ 灰白	2/8	
235	IV区	SX01	南半	須惠器	高台付杯	口縁~底端:回転付 底中央:付	口縁~底端:回転付 底中央:付									N6/ 灰	N6/ 灰	7/8	
236	IV区	SX01	北半	須惠器	高台付杯	回転付	回転付									5RP5/1 紫灰	N7/ 灰白	2/8	
237	IV区	SX01	北半	須惠器	高台付杯	体:不明(ヤ) 底:回転付	不明(ヤ)									2.5 Y 7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄	2/8	
238	IV区	SX01	北半	須惠器	高台付杯	底:回転付	底端:回転付 中央:不明(ヤ)									2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/3 浅黄	1/8	
239	IV区	SX01	北半	須惠器	高台付杯	回転付	体:回転付 底:付									2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	1/8	
240	IV区	SX01	北半	須惠器	皿	回転付	回転付									N4/ 灰	N7/ 灰白	1/8	
241	IV区	SX01	北半	須惠器	高杯	回転付	杯:付 下半:回転付									5Y6/1 灰	2.5Y7/1 灰白	6/8	
242	IV区	SX01	北半	須惠器	高杯	回転付	不明(ヤ)									N7/ 灰白	N7/ 灰白	4/8	
243	IV区	SX01	北半	須惠器	高杯	不明(ヤ)	不明(ヤ)									2.5 Y 8/1 灰白	2.5 Y 8/1 灰白	5/8	
244	IV区	SX01	北半	須惠器	高杯	不明(ヤ)	不明(ヤ)									5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	7/8	
245	IV区	SX01	北半	須惠器	壺	回転付	回転付									2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	1/8	
246	IV区	SX01	南半	須惠器	平瓶	回転付	回転付									10Y5/1 灰	N6/ 灰	3/8	
247	IV区	SX01	南半	須惠器	壺	回転付	回転付									N5/ 灰	N5/ 灰	1/8	
248	IV区	SX01	北半	須惠器	壺	回転付	回転付									N7/ 灰白	N8/ 灰白	1/8	
249	IV区	SX01	北半	須惠器	壺	回転付	回転付									N6/ 灰	N7/ 灰白	1/8	

報 文 番 号	調査区	遺構名	層位	種類	器種	調整		胎土				法量			色調		残存 率	備考	
						外面	内面	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)			外部・釉
250	IV区	SX01 北半	上層礫層	須恵器	壺	不明(自然釉)	回転付									2.5GY4/1 青 リープ灰	N7/灰白	1/8	
251	IV区	SX01 北半	上層礫層	須恵器	壺	上半:回転付 下半:回転付	上半:回転付 下半:付									N6/灰	2.5Y7/1 灰白	1/8	
252	IV区	SX01 南半	上層礫層	須恵器	壺	付	回転付						(6.0)			N5/灰	N5/灰	7/8	
253	IV区	SX01 南半	上層礫層	須恵器	壺	体~高台:回転付 底:付	体:不明						(6.4)			N5/灰	N5/灰	1/8	
254	IV区	SX01 南半	上層礫層	須恵器	壺	回転付	不明					(10.5)				N8/灰白	N8/灰白	1/8	
255	IV区	SX01 北半	上層礫層	須恵器	壺	体:不明	回転付					(9.9)				N7/灰白	2.5Y7/1 灰白	1/8	
256	IV区	SX01 北半	上層礫層	須恵器	横瓶	平行付後付	同心円付									N6/灰	N6/灰	3/8	
257	IV区	SX01 南半	上層礫層	須恵器	甕	頸:付 体:不明	頸:付 体:不明									N7/灰白	N7/灰白	1/8	
258	IV区	SX01 南半	上層礫層	土師器	椀	不明	不明					(8.6)				5Y8/1 灰白	10YR6/6 明黄褐	1/8	
259	IV区	SX01 北半	上層礫層	土師器	甕	口縁:付 体:不明	口縁:付 体:不明					(21.2)				黄橙	7.5YR6/4 に ぶい 橙	1/8	
260	IV区	SX01 北半	上層礫層	土師器	甕	口縁:付 体:不明	口縁:付 体:不明					(23.0)				10YR7/4 に ぶい 黄橙	10YR7/3 に ぶい 黄橙	1/8	
261	IV区	SX01 北半	上層礫層	土師器	甕	口縁:付 体:不明	口縁:付 体:不明					(23.6)				7.5YR5/3 に ぶい 黄橙	7.5YR6/4 に ぶい 黄橙	1/8	259と同一個 体か
262	IV区	SX01 南半	上層礫層	土師器	甕	口縁:付 体:不明	口縁:付 体:不明					(25.0)				10YR7/4 に ぶい 黄橙	10YR7/4 に ぶい 黄橙		
263	IV区	SX01 北半	上層礫層	土師器	鍋	付	付					(37.0)				5YR7/3 に ぶい 橙	10YR8/4 浅黄橙	1/8	
264	IV区	SX01 南半	上層礫層	土師器	甕	不明	不明									7.5YR4/2 灰褐	5YR5/6 明赤褐	8/8	
265	IV区	SX01 南半	上層礫層		飯蛸壺	不明	不明									7.5YR6/4 に ぶい 橙	7.5YR6/4 に ぶい 橙	8/8	
266	IV区	SX01 北半	下層黒粘 土層	須恵器	高台付杯	不明	底端:回転付 中央:付					(9.1)				5 Y 7/1 灰白	5 Y 7/1 灰白	2/8	
267	IV区	SX01 南半	下層礫層	須恵器	高台付杯	回転付	回転付					9.9				N6/灰	N6/灰	2/8	
268	IV区	SX01 南半	下層	須恵器	高台付杯	体~高台:回転付 底:付	体:不明					(9.9)				5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	1/8	
269	IV区	SX01 北半	下層礫層	須恵器	壺	口縁:回転付 体:不明	回転付									7.5Y7/1 灰白	N7/灰白	4/8	
270	IV区	SX01 南半	下層	須恵器	甕	不明	不明					(10.8)				7.5Y7/1 灰白	N7/灰白	1/8	
271	IV区	SX01 西部	下層礫層	須恵器	甕	不明	不明					(21.0)				7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	1/8	
272	IV区	SX01 北半	黒粘土	須恵器	平瓶 or 提瓶	回転付	回転付					(6.5)				N7/灰白	2.5Y7/1 灰白	1/8	
275	IV区	SX02 上面		須恵器	高台付杯	体~高台:回転付 底:付	回転付					13.0				N5/灰	N6/灰	1/8	
276	IV区	SX02 上面		須恵器	高杯	回転付	底端:回転付 底中央:付 脚:回転付									2.5 Y 6/1 黄灰	2.5 Y 6/1 黄灰	2/8	
277	IV区	SX02 北半	上層黒粘 土層上面	須恵器	杯	体:不明	不明					(7.4)				5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	2/8	
278	IV区	SX02 北半	上層	須恵器	高杯	不明	不明									N8/灰白	N8/灰白	7/8	
279	IV区	SX02 上面	上層	須恵器	壺	体:不明 底:不明	付					(13.0)				N6/灰	N7/灰白	2/8	

報 文 番 号	調 査 区	遺 構 名	層 位	種 類	器 種	調 整		胎 土				法 量				色 調		残 存 率	備 考
						外 面	内 面	石 英 ・ 長 石	赤 色 粒	角 閃 石	雲 母	砂 粒	口 径 (cm)	器 高 (cm)	底 径 (cm)	其 他 (cm)	外 部 ・ 軸		
280	IV区	SX02 南半 トシナ	上層	黒色土器 B類	碗	回転ナ	一									2.5Y3/1 黒褐		1/8 未測	
281	IV区	SX02 南半 (トシナ)	下層	須恵器	甕	口縁：回転ナ 体：上部ナ 以下：ナ	口縁：回転ナ 体：ナ						(20.0)			N6/ 灰	N7/ 灰白	1/8 未測	内面・ナ具 痕
282	IV区	SX02 北半		須恵器	杯蓋	口縁：回転ナ 天井：ナ	口縁：回転ナ 天井：ナ						(17.7)			5B5/1 青灰	5B5/1 青灰	1/8	
283	IV区	SX02 北半		須恵器	杯	体：回転ナ 底：回転ナ	回転ナ							(8.2)		5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	2/8	
284	IV区	SX02 北半		須恵器	杯	口縁～体：回転ナ 底：回転ナ	回転ナ						(14.7)			10 Y 6/1 灰	7.5 Y 6/1 灰	2/8	
285	IV区	SX02 北半		須恵器	高台付杯	体～高台：回転ナ 底：不明	体：回転ナ 底：不明						12.1			N6/ 灰	N6/ 灰	2/8	
286	IV区	SX02 北半		須恵器	皿	口縁：回転ナ 底：不明 (ナ)	回転ナ						(14.8)	1.5	(12.2)	5 Y 8/1 灰白	5 Y 7/1 灰白	1/8 未測	

第8表 石器・玉 観察表

報文番号	調査区	遺構名	層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
54	I 区	SK06		砥石	5.6	4.0	1.6	49.66	凝灰岩	
91	I 区	ガリカケ		石鏃	3.0	2.0	0.5	2.85	サスカイト	
92	I 区	西半部 包含層		スクレイパー	3.2	5.5	1.3	21.11	サスカイト	
95	II 区	南 SD02 b-c 間	上層 (黒粘土)	二次加工ある剥片	5.25	1.9	0.75	6.87	サスカイト	
106	III 区	SP18 S1		砥石	10.0	5.7	4.9	566.19	砂岩	
126	III 区	SP86 S2		石鏃	2.2	1.4	0.4	0.85	サスカイト	
127	III 区	北半	床土層	石鏃	2.1	1.5	0.3	1.14	サスカイト	
204	IV 区	SD01 S1	中層	石鏃	2.2	1.8	0.4	0.58	サスカイト	
273	IV 区	SX01 北半	黒粘土	石鏃	1.4	1.6	0.35	0.52	サスカイト	
274	IV 区	SX01 北側溝 S1	礫層上面	小玉	0.35	0.4	0.3	0.07	ガラス	

第9表 金属器 観察表

報文番号	調査区	遺構名	層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	備考
31	I 区	SD05		カスガイ	5.9	3.0	0.9	22.61	鉄	
32	I 区	SD05		刀	14.1	4.0	1.0	96.29	鉄	
55	I 区	SK06		刀子?	3.9	1.9	0.6	20.23	鉄	
56	I 区	SK06		刀子?	9.3	1.3	0.6	20.39	鉄	
205	IV 区	SD01 南半	中層	刀子?	8.1	1.3	0.6	12.43	鉄	



I区 南半上層全景 東から

図版 2 多肥平塚遺跡



I区 北半全景 東から



I区 南壁断面



I区 南壁断面（東半）



I区 東壁断面

図版 4 多肥平塚遺跡



I 区 西壁断面



I 区 北拡張部北壁断面



I区 北拡張部西壁断面



I区 SD03断面 東から



I区 SD04断面j 東から



I区 SD05断面 南から



I区 SK02断面 南から

図版 6 多肥平塚遺跡



I区 SK03断面 西から



I区 SK04断面 南から



I区 SK05断面 東から



I区 SK06断面 北から



I区 SK06断面 西から



I区 SK06断面 東から



I区 SK06断面 南から



I区 SK07断面 南から



I区 SK08断面 南から



I区 SK09断面 東から



I区 SD01断面 南から



I区 SD02断面 南から



I区 SD06断面b 東から



I区 SD07断面a 南から



I区 SD07断面b 南から



I区 SD07断面 (調査区南壁部分)

図版 8 多肥平塚遺跡



I区 SD07南半 石出土状況 南から



I区 SD07南半完掘状況 南から



I区 SD07北半完掘状況 南から



I区 SD08断面 西から



I区 SD11断面 西から



I区 SD12断面 北から



I区 SD14断面 東から



I区 SD15断面 北から

図版 10 多肥平塚遺跡



Ⅱ区 南半全景 北から



Ⅱ区 北半全景 南から



Ⅱ区 北壁断面



Ⅱ区 西壁北半断面



Ⅱ区 西壁南半断面



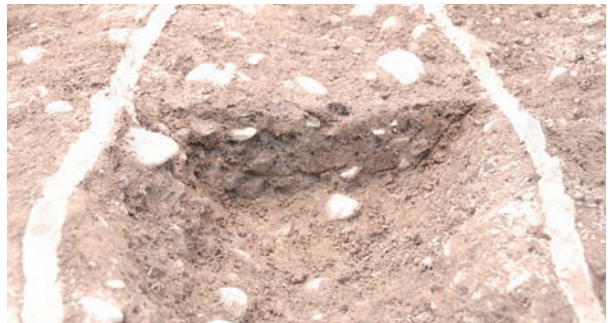
Ⅱ区 SB01完掘 西から



Ⅱ区 SK01断面 南から



Ⅱ区 SD01断面a 北から



Ⅱ区 SD02断面 南から



Ⅱ区 SR02断面b 南から



Ⅱ区 S R 0 2 断面 c 北から



Ⅲ区 南半全景 東から

図版 14 多肥平塚遺跡



Ⅲ区 北半全景 東から



Ⅲ区 西壁断面



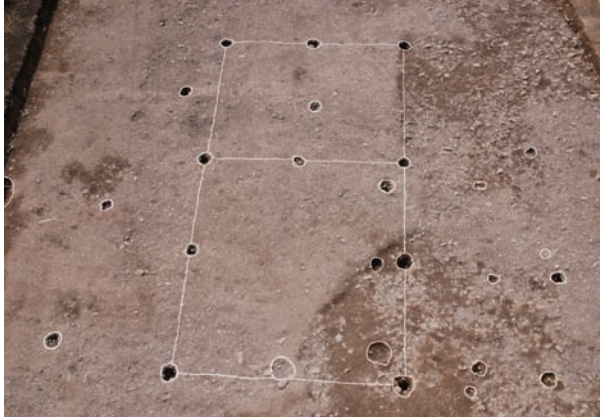
Ⅲ区 北壁断面



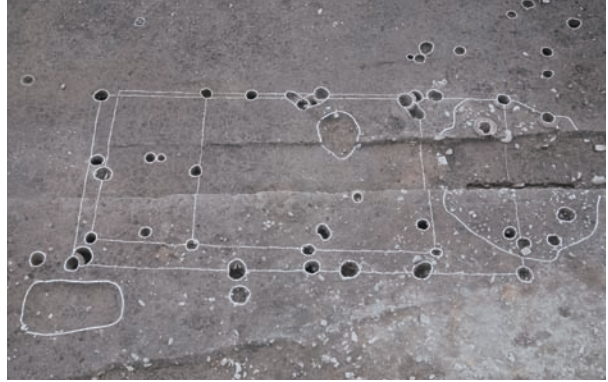
Ⅲ区 東壁断面 南半



Ⅲ区 東壁断面 北半



Ⅲ区 SB01 東から



Ⅲ区 SB02・03 南から



Ⅲ区 SK01断面 南から



Ⅲ区 SK02断面 北から



Ⅲ区 SK03断面 北東から



Ⅲ区 SK05断面 北から



Ⅲ区 SK04断面 南から



Ⅲ区 SD01断面a 南から



Ⅲ区 SD01断面b 南から



IV区 全景 西から



IV区 北壁 (SX01) 断面



Ⅳ区 北壁 (SD01) 断面



Ⅳ区 北壁 (SX02) 断面



Ⅳ区 北壁 (SD02) 断面



IV区 SK01断面 南から



IV区 SK02断面 北から



IV区 SK03断面 南から



IV区 SD01断面a 北から



IV区 SD01 南から



IV区 SD01断面b 南から



IV区 SD01断面c 南から



IV区 SD02断面 東から



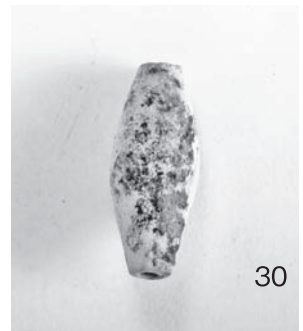
IV区 SX03断面 南東から

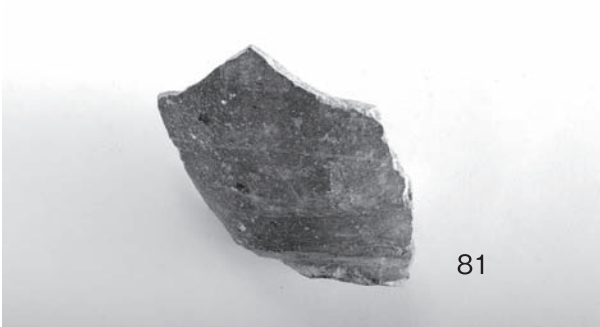
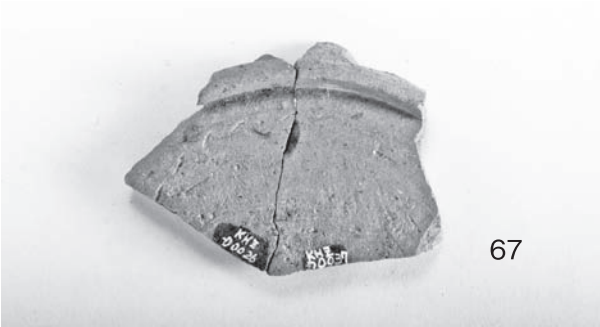
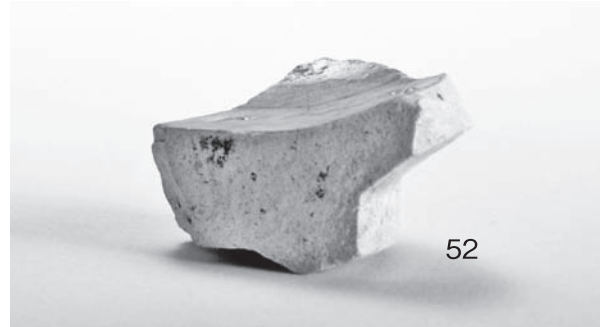
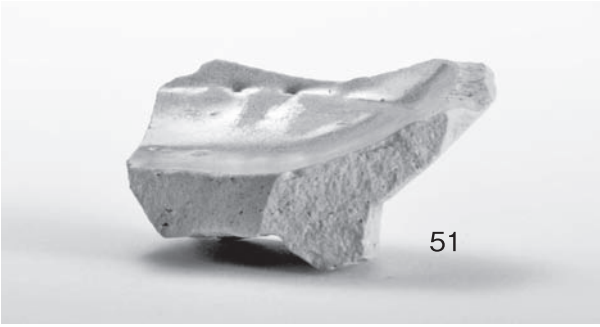
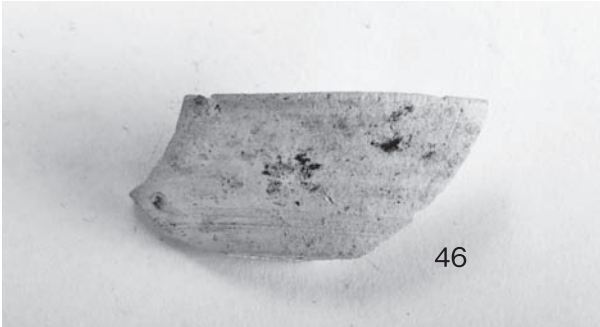


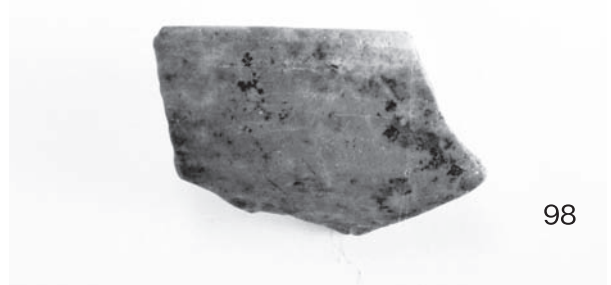
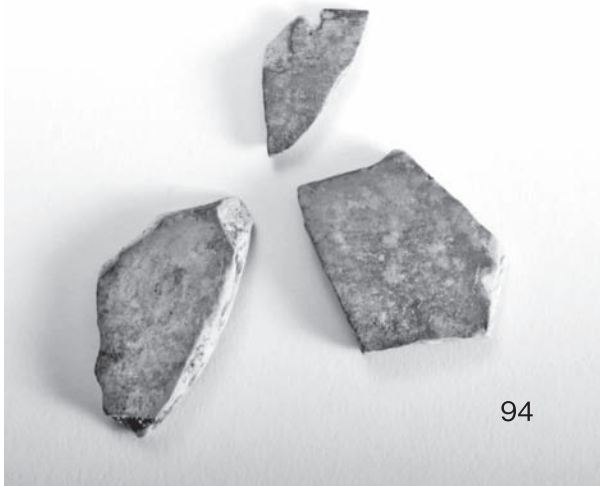
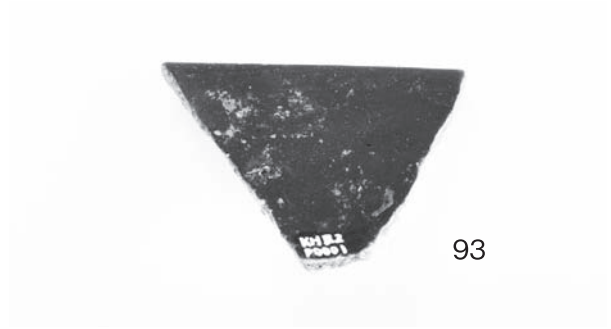
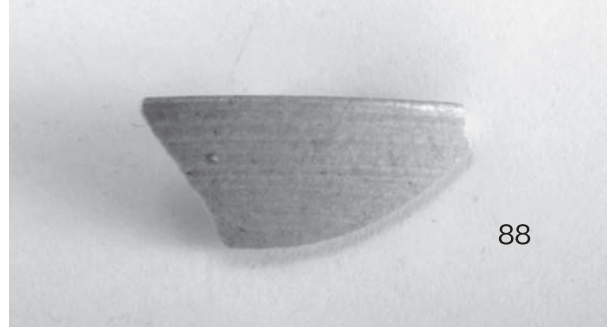
IV区 SX01断面 (調査区南壁)

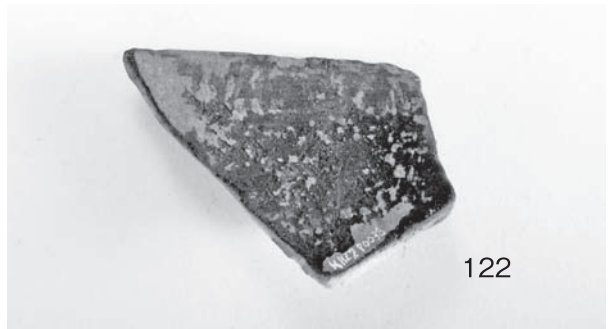
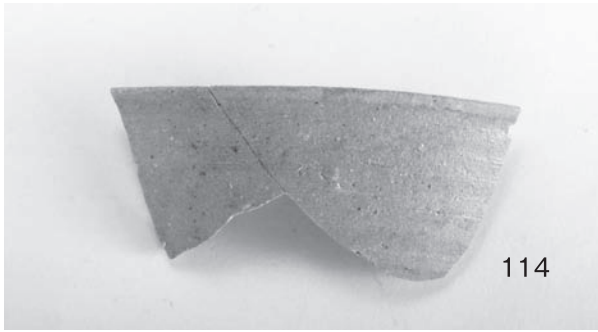


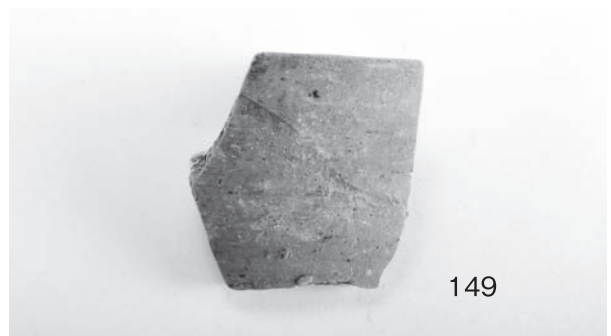
IV区 SX02断面 北から

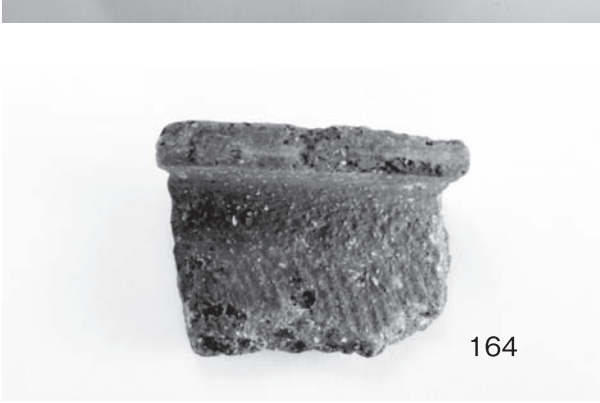
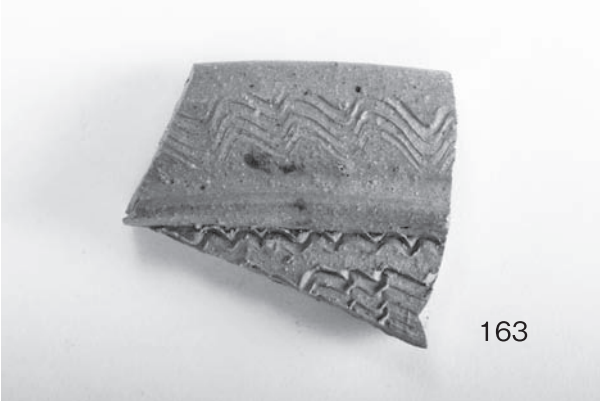
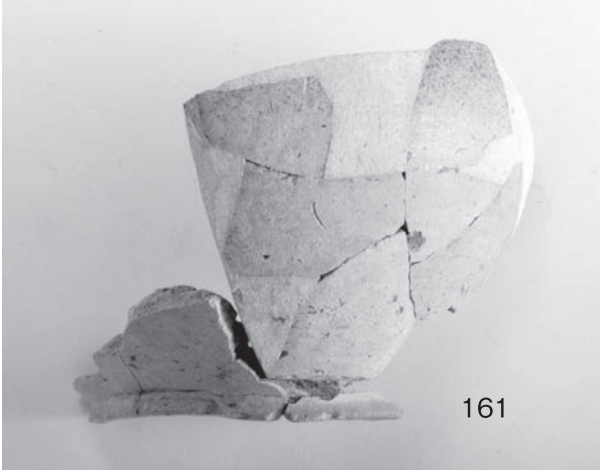
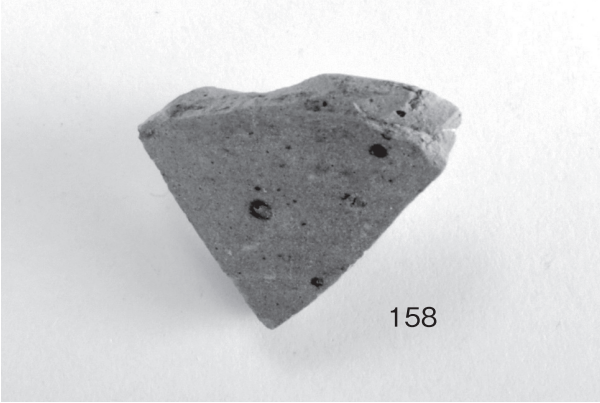


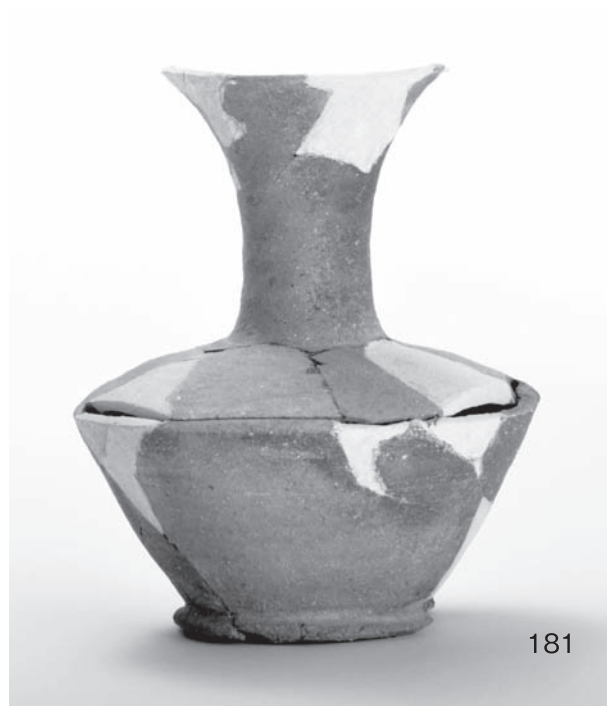
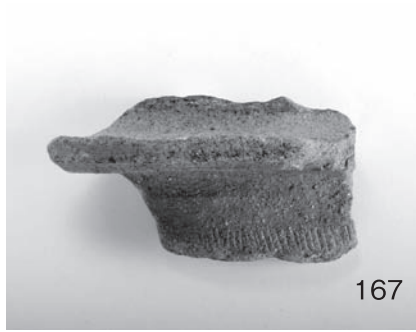


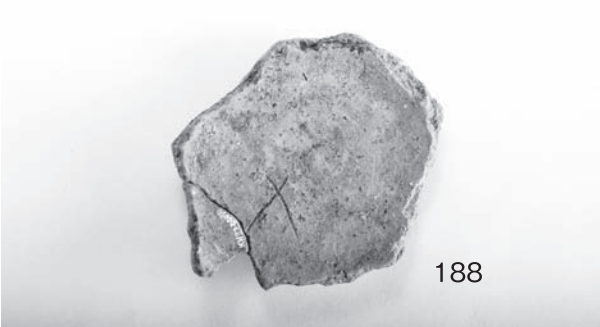


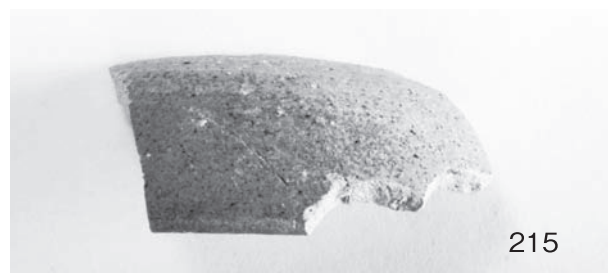
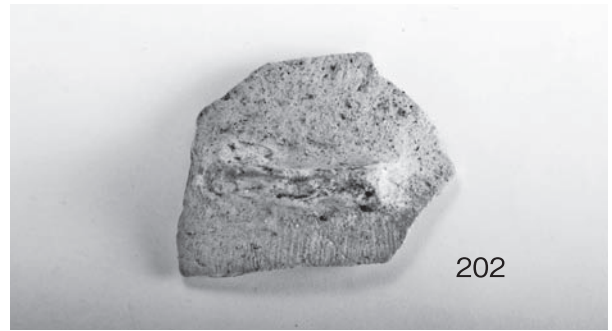
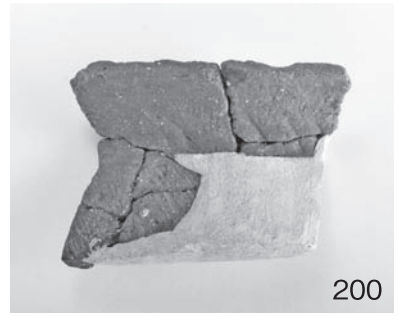


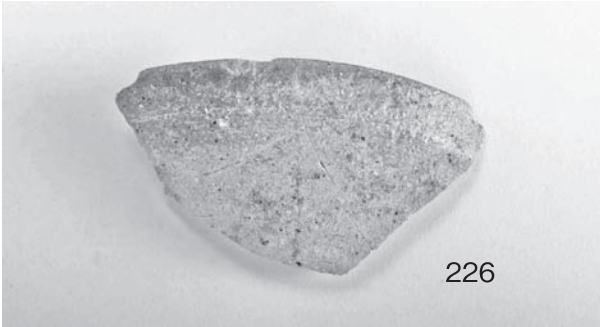
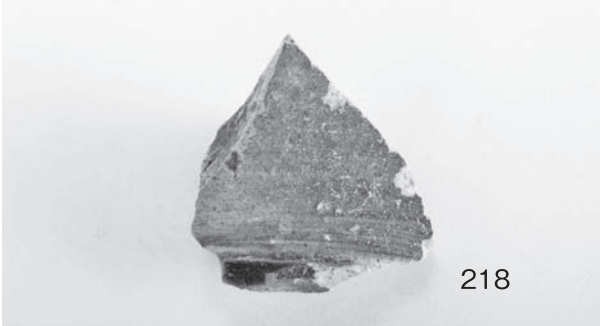


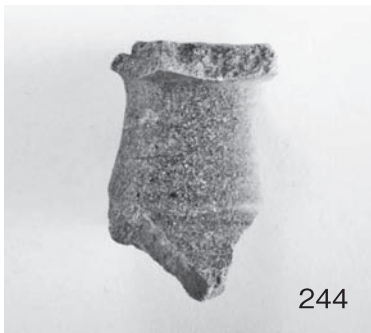


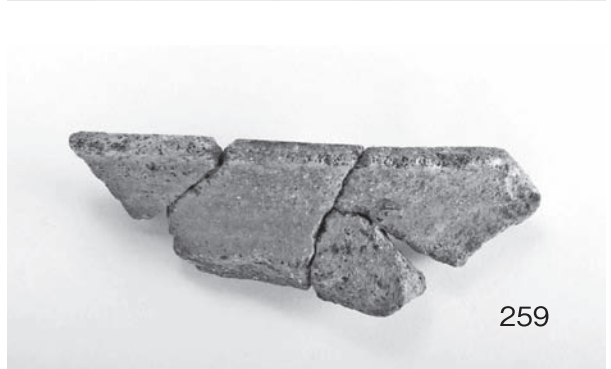
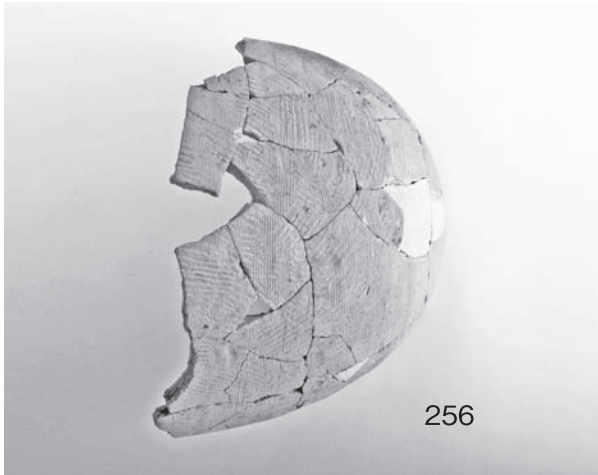
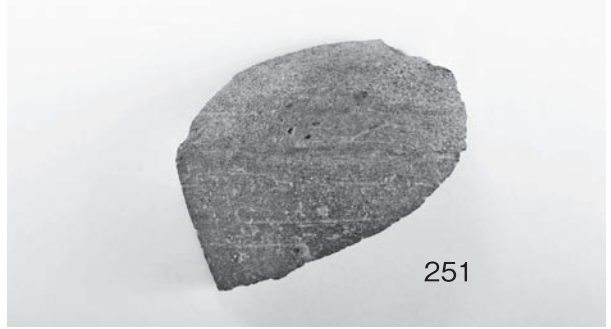
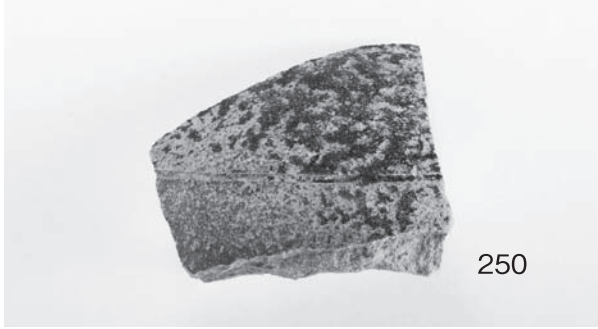


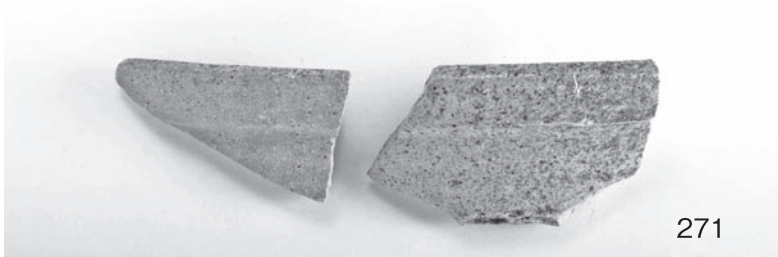
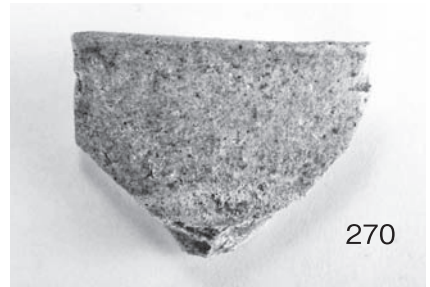
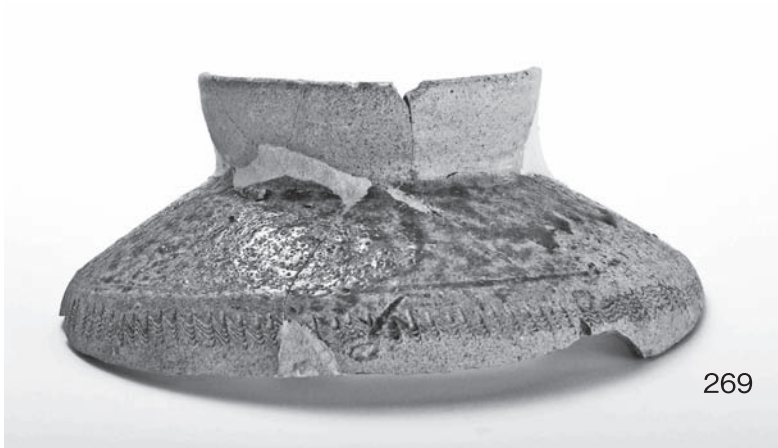


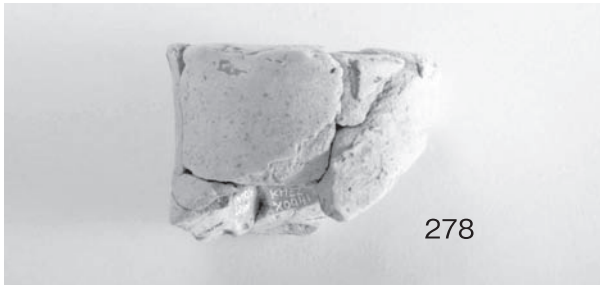
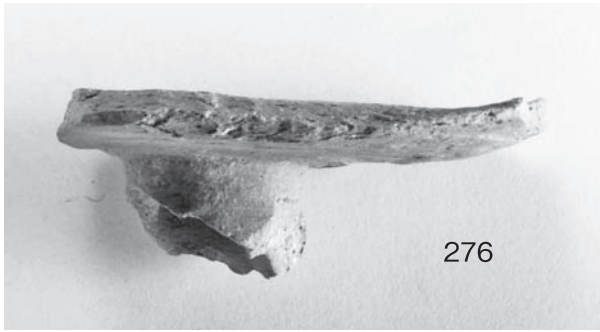


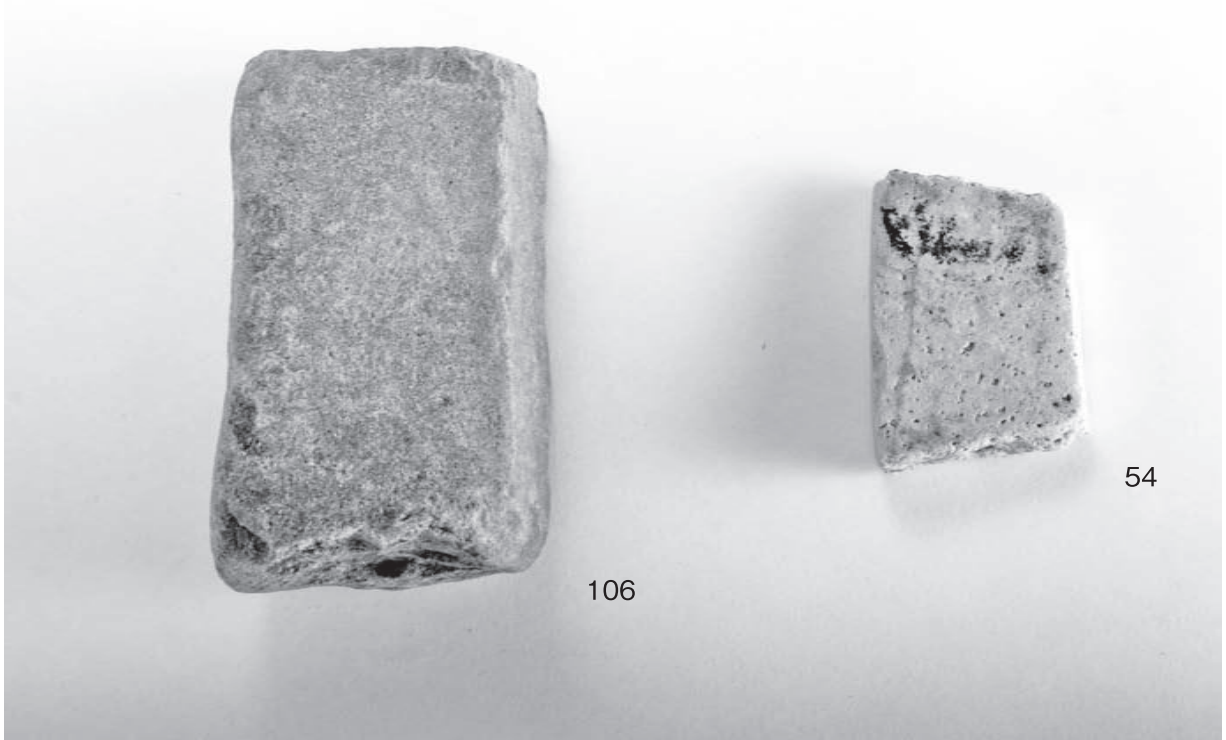
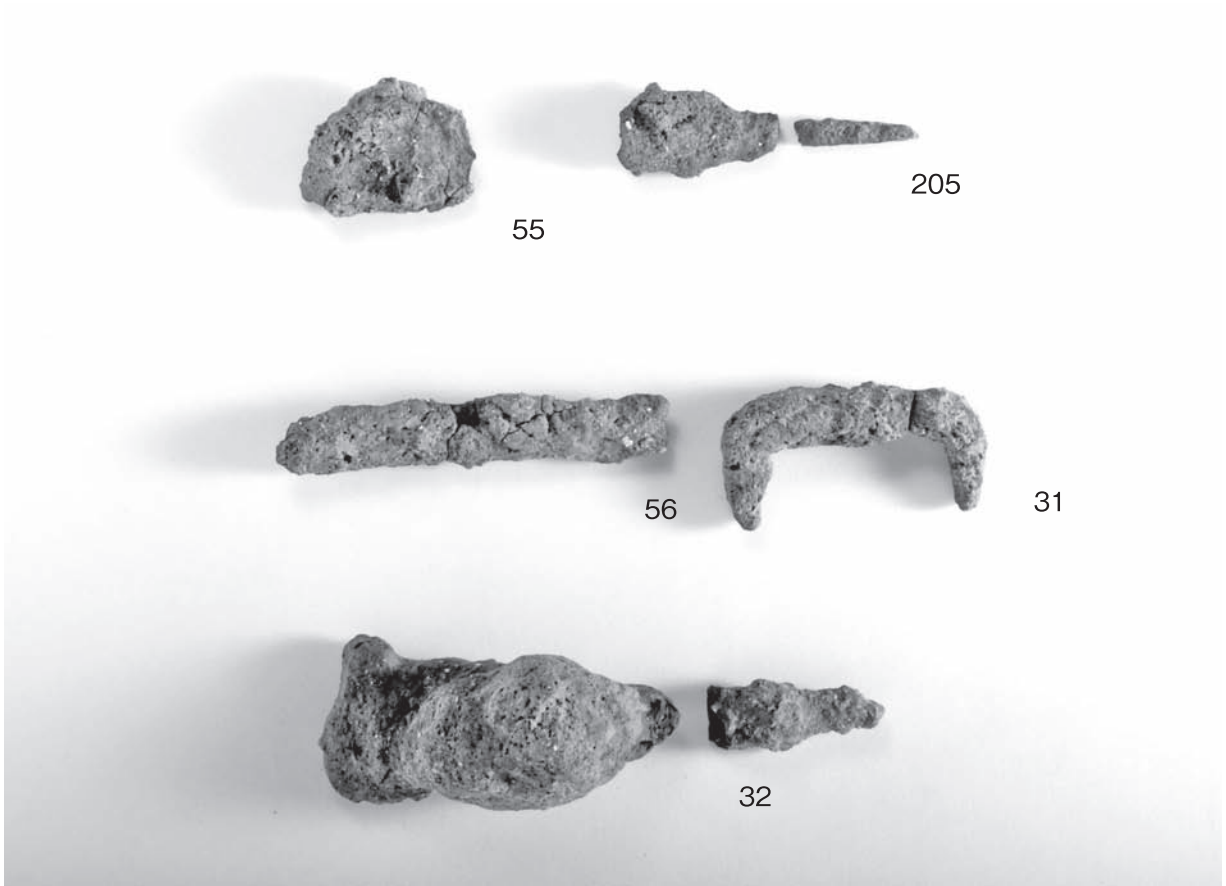




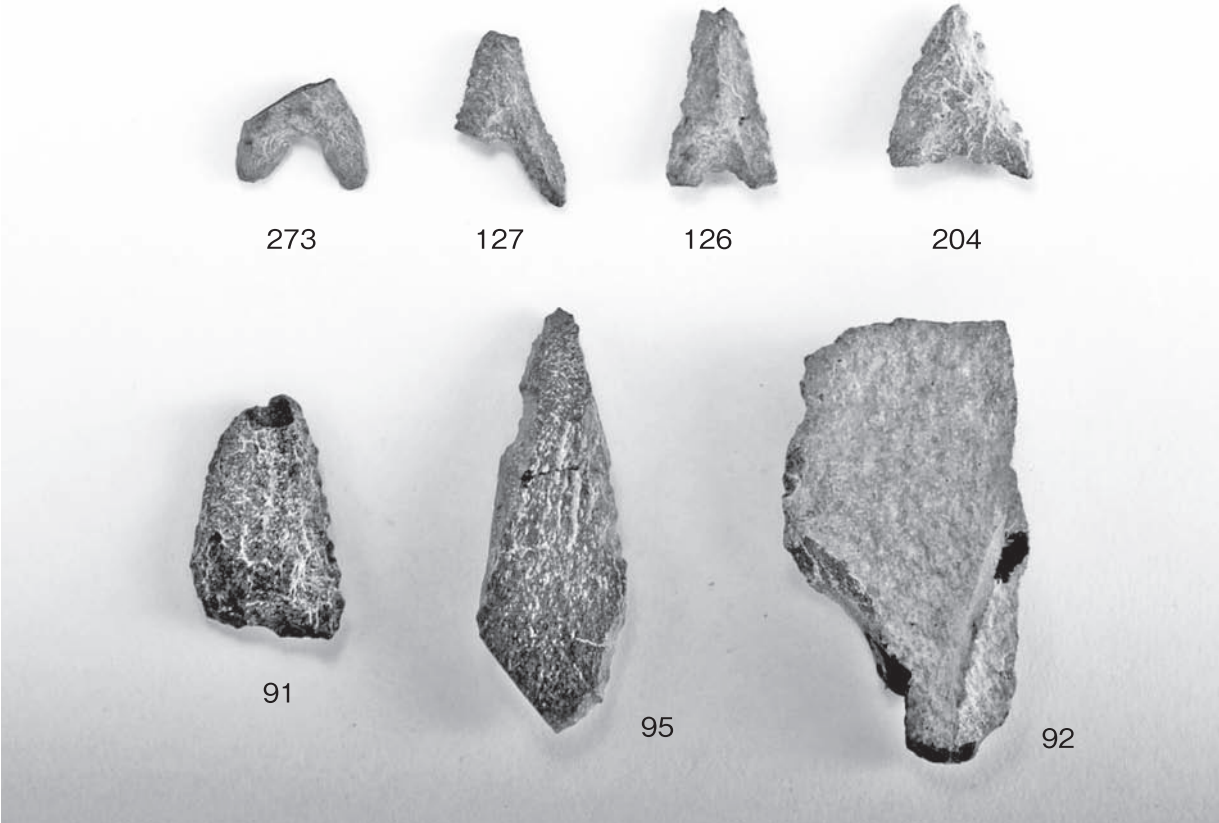




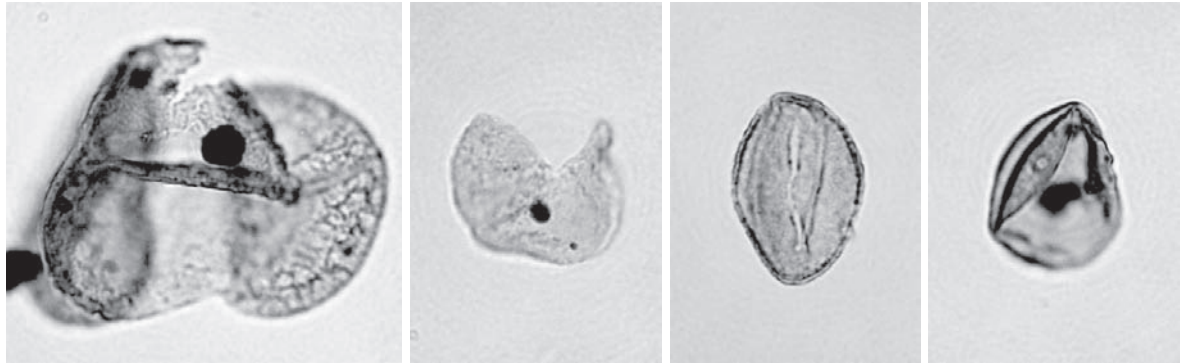




图版 36 多肥平塚遺跡



多肥平塚遺跡の花粉・孢子

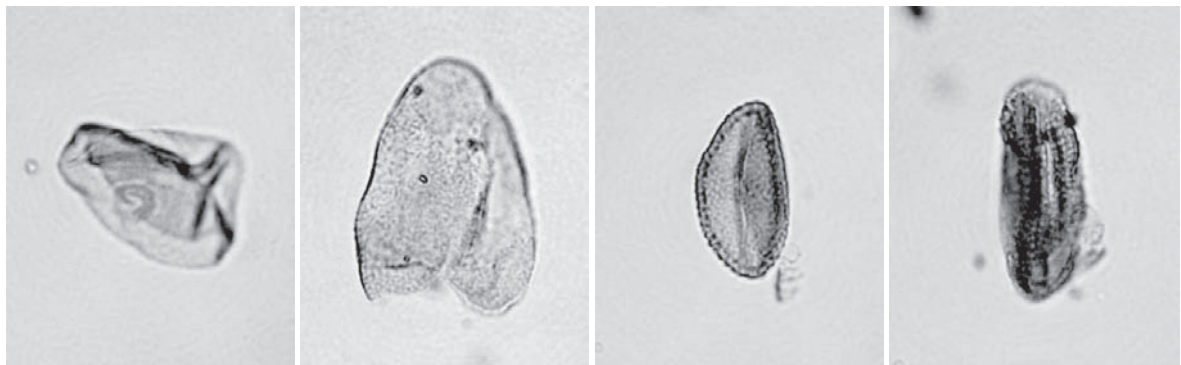


1 マツ属複維管束亜属

2 スギ

3 コナラ属コナラ亜属

4 クワ科-イラクサ科

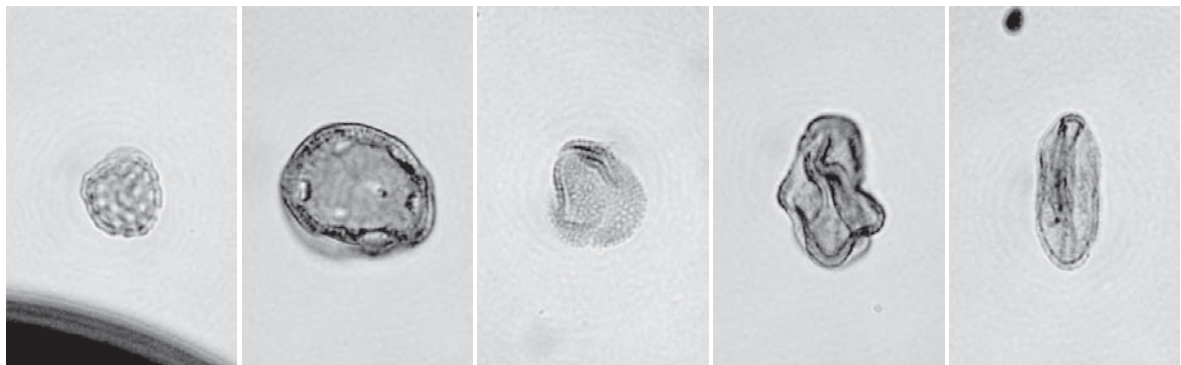


5 イネ科

6 カヤツリグサ科

7 タデ属

8 ソバ属



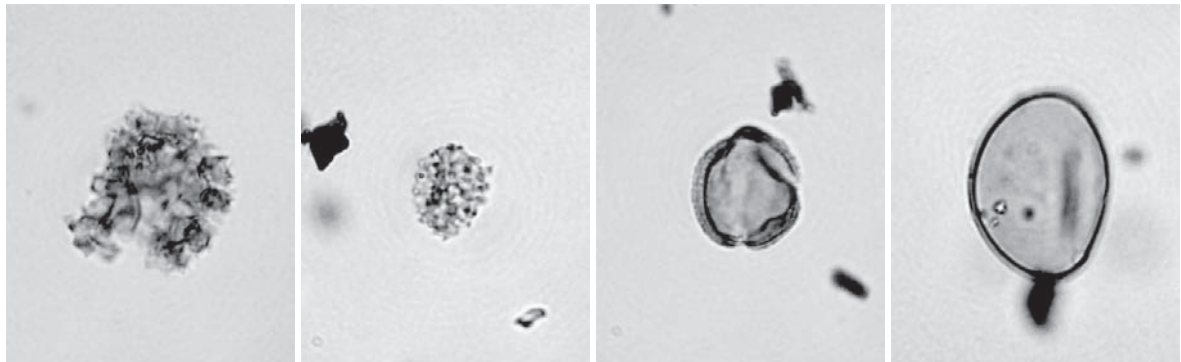
9 アカザ科-ヒユ科

10 ナデシコ科

11 アブラナ科

12 チドメグサ亜科

13 セリ亜科



14 タンポポ亜科

15 キク亜科

16 ヨモギ属

17 シダ植物単条溝孢子

— 10 μ m

報告書抄録

ふりがな	たひひらづかいせき							
書名	多肥平塚遺跡							
副書名	県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	山下平重 蔵本晋司							
編集機関	香川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249							
発行機関	香川県教育委員会							
発行年月日	西暦 2013 年 1 月 31 日							
総頁数	目次等	本文	観察表	図版	挿図枚数	写真枚数	付図枚数	
138 頁	21 頁	68 頁	12 頁	37 頁	73 枚	245 枚	1 枚	
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東緯 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町	遺跡 番号					
たひひらづかいせき 多肥平塚遺跡	かがわけんたかまつし 香川県高松市 たひひらづかいせき 多肥上町	37201		34° 17' 39.32"	134° 3' 1.3"	20080201 ~ 20080630	3,068㎡	県道太田上町志度線道路改築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
多肥平塚遺跡	集落跡	奈良時代	溝状遺構		土師器 須恵器 土錘 鉄製刀子			
		平安時代後半	掘立柱建物跡	土坑	土師器 須恵器 黒色土器 灰釉陶器 瓦器			
		鎌倉時代後半	掘立柱建物跡	土坑	土師器 東播系須恵器 中国産白磁 土錘 鉄製刀子			
要約 (多肥平塚遺跡)	奈良時代に埋没した溝状遺構の方向は、現在みられる条里型地割の方向とは一致せず、この地域における条里型地割施工の時期を考える上で参考となる。また、平安時代（11世紀頃）と考えられる掘立柱建物跡が数棟検出されているが、一か所に集中せず、散村的な集落景観を想定させる。また、鎌倉時代後半も一か所で小規模な掘立柱建物跡が発見されたもので、周囲に遺構が広がる可能性が少ないと考えられる。							

県道太田上町志度線道路改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

多肥平塚遺跡

2013年1月31日

編集 香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249
発行 香川県教育委員会
印刷 四国工業写真株式会社



付図 多肥平塚遺跡 遺構配置図 (1:400)